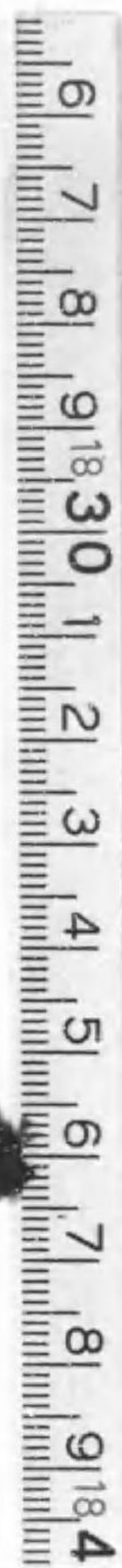


秋田のすがた

秋田山林會

特217

172



始



はしがき

一、東北の大縣として歴史も輝やかに、いま新興の秋田は、洋々たる明日を宿しつゝ、文化産業國の完成へと、一路邁進、興亞の備へも堅く官民提携雄々しくも涙ぐまじき努力を續けてゐる。

二、山麗はしく、水清き秋田は、人も和やかに、氣候も順に、土地も廣く、交通も八達し、資源に富み、産物も豊かに、天の恵み、地の利も普く、この世からなる樂園である。

三、落花深き所に先賢の遺業を偲び、風薫る野に高鳴る産業の意氣を稱へ、清涼のあした、史蹟・名所・天然記念物を探る。嗚呼、汲めども盡せぬ興ぞ深き秋田のすがた。

四、今次畏くも總裁梨木宮殿下の御臺臨を仰ぎ、第四十七回大日本山林會大會を秋田に開催せられ、また明に迫る光輝ある紀元二千六百年の盛世を迎ふ。乃ちこれが感激に咽び榮光の記念にと、本冊子を發行す。

五、統計的數字また趣きあるも、其煩を省き、林業部門に關しては、本書姉妹編たる「秋田縣の林業」に詳載した。
六、公務の旁らに編む、素より遺憾なしとせず、而も聚むる寫眞五百數十葉、貴重なる資料を寄せられたる、各方面の御好意に對し、滿腔の謝意を表する。

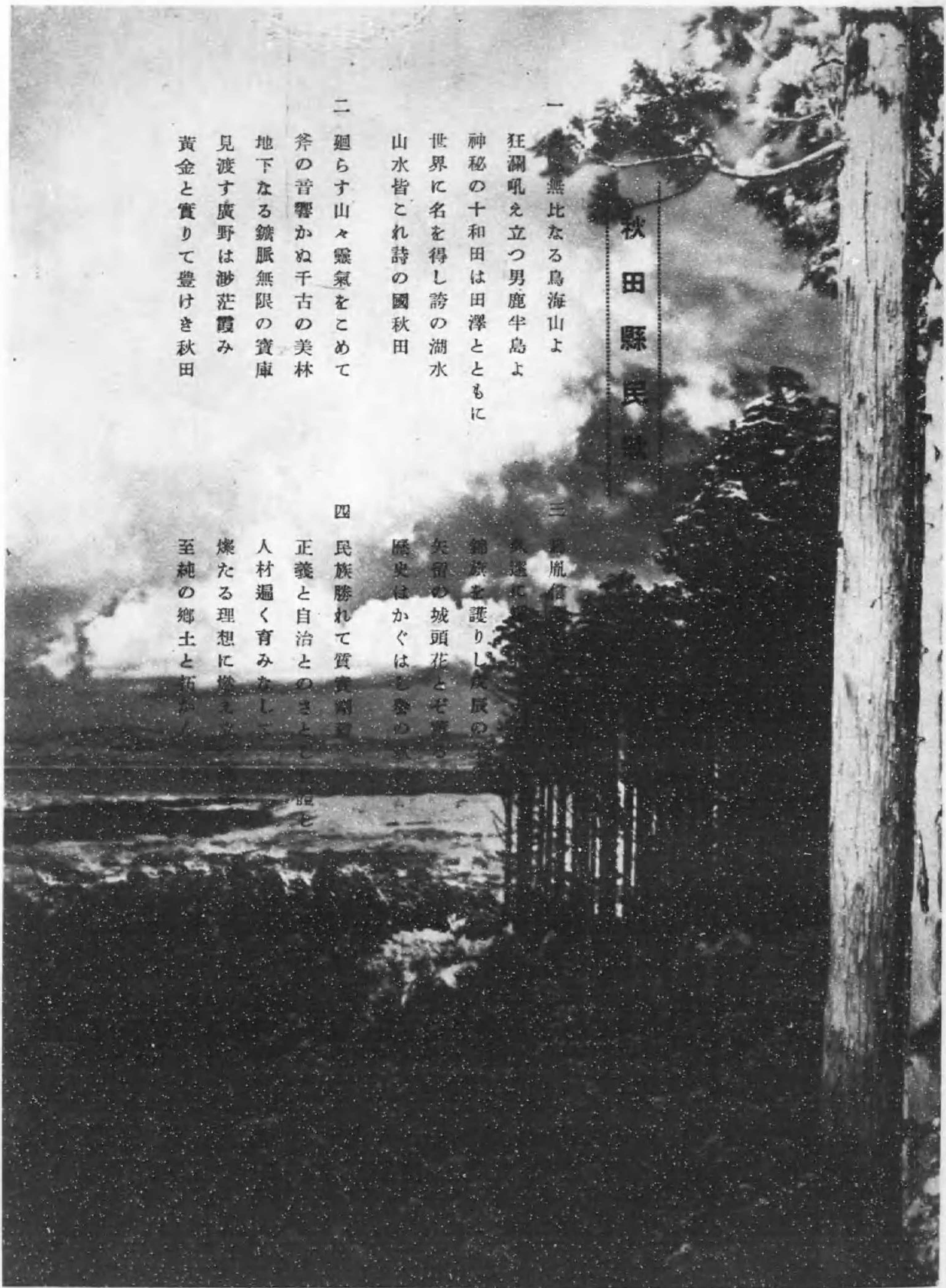
昭和十四年十月六日大會の日

秋田山林會幹事
秋田縣林務課長
阿部房市



秋田のすがた目次

<p>一、はしがき……………</p> <p>一、秋田縣民歌……………</p> <p>一、秋田縣略圖……………</p> <p>一、秋田縣の概要</p> <p> 一 地勢と人口……………</p> <p> 二 隆々たる秋田の産業……………</p> <p> 三 輝く秋田の林業……………</p> <p> 四 眺めは飽かず觀光秋田……………</p> <p>一、先賢を偲ぶ……………</p> <p> 佐竹義和公(肖像)……………</p> <p> 平田篤胤大人(肖像)……………</p> <p> 佐藤信淵大人(肖像)(彌高神社)……………</p> <p> 賀藤景林翁(肖像・著書・景林神社)……………</p> <p> 栗田定之丞翁(肖像・新屋濱保安林)……………</p> <p> 石川理紀之助翁(肖像・書・草木谷山居)……………</p> <p> 森川源三郎翁(肖像)……………</p> <p> 國幣小社古四王神社(社殿)……………</p> <p>一、秋田市のおもかげ……………</p> <p> 秋田市(秋田縣廳・秋田營林局・秋田市役所・秋田市街・秋田日滿技術工養成所・秋田大橋・八橋公園)……………</p>	<p>千秋公園(公園の櫻・公園のつゝじ・縣記念會館)……………</p> <p>秋田の竿燈(竿燈)……………</p> <p>秋田路(路と美人)……………</p> <p>秋田音頭(踊り)……………</p> <p>一、豊けき秋田</p> <p> ○山の幸</p> <p> 秋田杉(國有林々相・縣模範林・村有林・私有林・ブナの林相(林相)……………</p> <p> 秋田の樹苗(苗圃・苗木堀取・苗木梱包)……………</p> <p> 製品となるまで(秋田杉の伐木・雪橇運材・インクライン)……………</p> <p> 森林鐵道(鐵道運材)……………</p> <p> 筏流し(筏流し)……………</p> <p> 貯木場(陸上貯木)……………</p> <p> 秋田の製材(製材所・板の乾燥・板の製品・板の輸送)……………</p> <p> 製材機械(無人帶鋸機械)……………</p> <p> お杉音頭(踊り)……………</p> <p> 秋田の樽丸(樽木取割り割り・樽木取乾燥・結束)……………</p> <p> 秋田の木炭(新炭林・炭燻く煙・炭窯・山元輸送・鐵道輸送)……………</p>
---	---



秋田縣民

- 一 無比なる鳥海山よ
狂瀾吼え立つ男鹿半島よ
神秘の十和田は田澤とともに
世界に名を得し誇の湖水
山水皆これ詩の國秋田
- 二 廻らす山々靈氣をこめて
斧の音響かぬ千古の美林
地下なる鑛脈無限の寶庫
見渡す廣野は渺茫霞み
黄金と實りて豊けき秋田
- 三 船信
錦旗を護りし旗原の
矢留の城頭花とぞ
歴史はかくはるかに
- 四 民族勝れて質實の
正義と自治とのまじり
人材遍く育みなし
燦たる理想に燃え
至純の郷土と拓

秋田の漆器(漆の大樹・能代春慶塗・川連漆器・櫻皮細工).....

○野の榮え

- 秋田の米(苗代・採種田・米の荷造り).....
- 秋田の酒(秋田縣醸造試験所・酒の梱包・酒の搬出・酒の陳列).....
- 酒の秋田音頭.....
- 秋田馬(秋田馬).....
- 秋田の鑛業(秋田鑛山専門學校・小坂鑛山・同コン・ブアーター・八橋油田・土崎製油所).....

一、史蹟・天然記念物を尋ねて

- 明治天皇行幸所院内御幸坑・附院内鑛山分局趾(御幸坑・分局趾).....
- 國寶Ⅱ當麻曼陀羅(當麻曼陀羅).....
- 國寶Ⅱ古四王神社(社殿).....
- 象潟(象潟・象潟古圖・蛸滿寺).....
- 秋田犬(秋田犬・牝).....
- 拂田の柵趾(柵趾・發掘物).....
- 金澤の柵趾(八幡神社・西沼と金澤の柵趾).....
- 北投石(北投石).....
- 鱈狀硅石と噴泉塔(鱈狀硅石・噴泉塔).....

長走風穴(高山植物).....

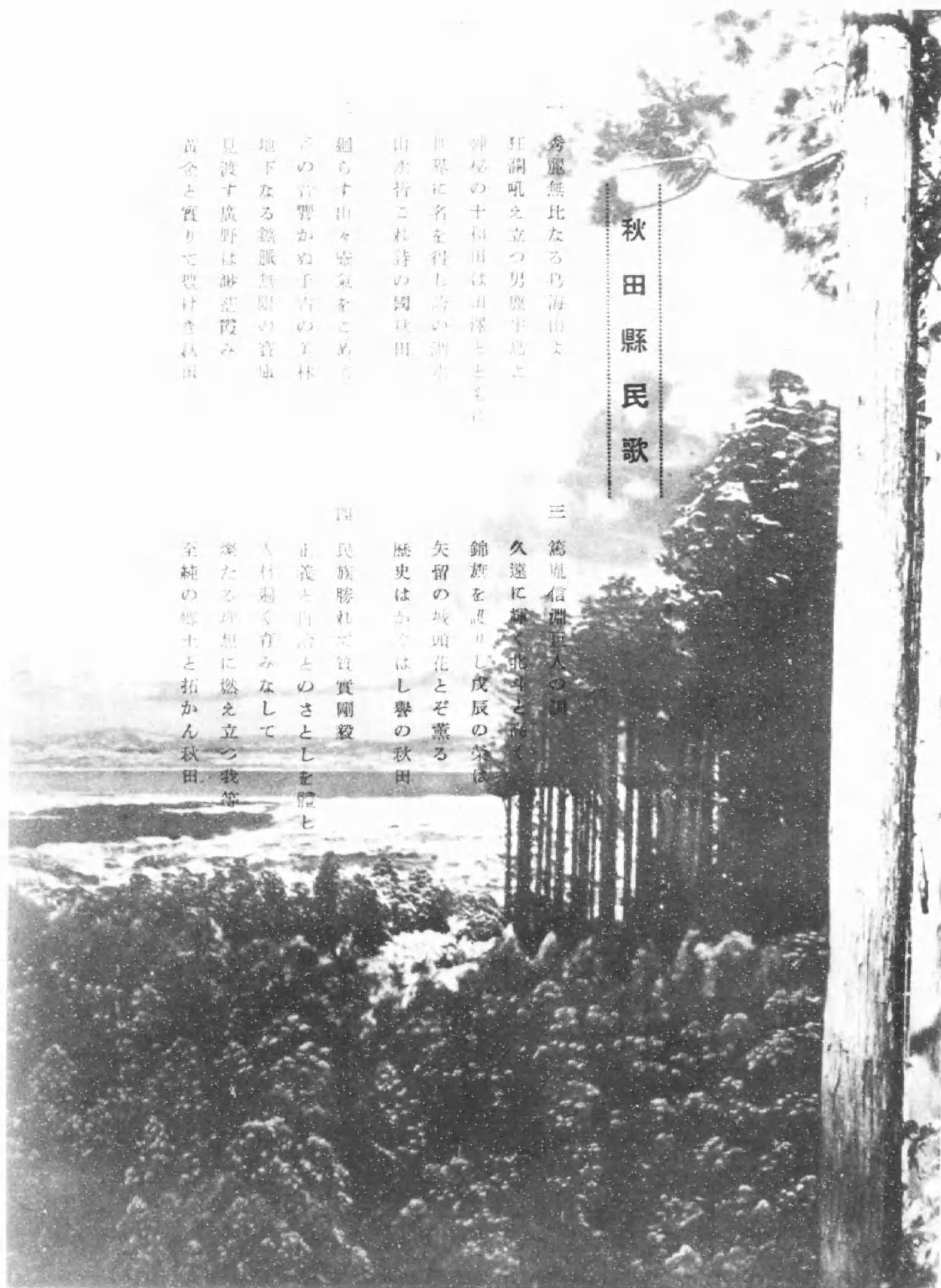
神代藤(神代藤).....

つばき自生北限地帯(つばき自生地・能登山).....

小野小町(小野小町肖像・書・芍薬塚).....

一、名勝地を巡る

- 十和田湖(十和田湖).....
- 八幡平(八幡平・樹氷).....
- 男鹿半島(男鹿半島・大棧橋・ナマハゲ・丸木舟).....
- 寒風山(寒風山).....
- 八郎湖(八郎湖・船頭踊).....
- 太平山三吉神社(里宮社殿・梵天).....
- 鳥海山(鳥海山・鮎釣).....
- 抱返り溪谷(溪谷).....
- 駒ヶ岳(駒ヶ岳).....
- 田澤湖(田澤湖).....
- 秋田おばこ(踊り).....
- 湯澤の七夕(愛宕公園・七夕).....
- 西馬音内の盆踊り(踊り).....
- 横手の送り盆(送り盆・屋形船・蛇の崎橋).....
- 温泉郷(湯瀬温泉・稻住温泉・冬のふけの湯・大湯の大杉・こけし).....



秋田縣民歌

一 秀麗無比なる乃海山よ
 狂潮吼え立つ男鹿半島よ
 神祕の十和田は田澤ととも
 世界に名を得し詩の湖也
 山水皆これ詩の國秋田

三 篤胤信淵巨人の訓
 久遠に輝く北斗と高く
 錦旗を掲りし戊辰の榮は
 矢留の城頭花とぞ薫る
 歴史はかゝはし譽の秋田

四 民族勝れて實質剛毅
 正義と自給とのさとしを體と
 人材遍く育みなして
 榮たる理想に燃え立つ我等
 至純の郷土と拓かん秋田

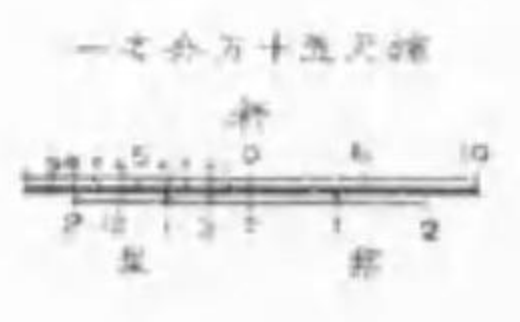
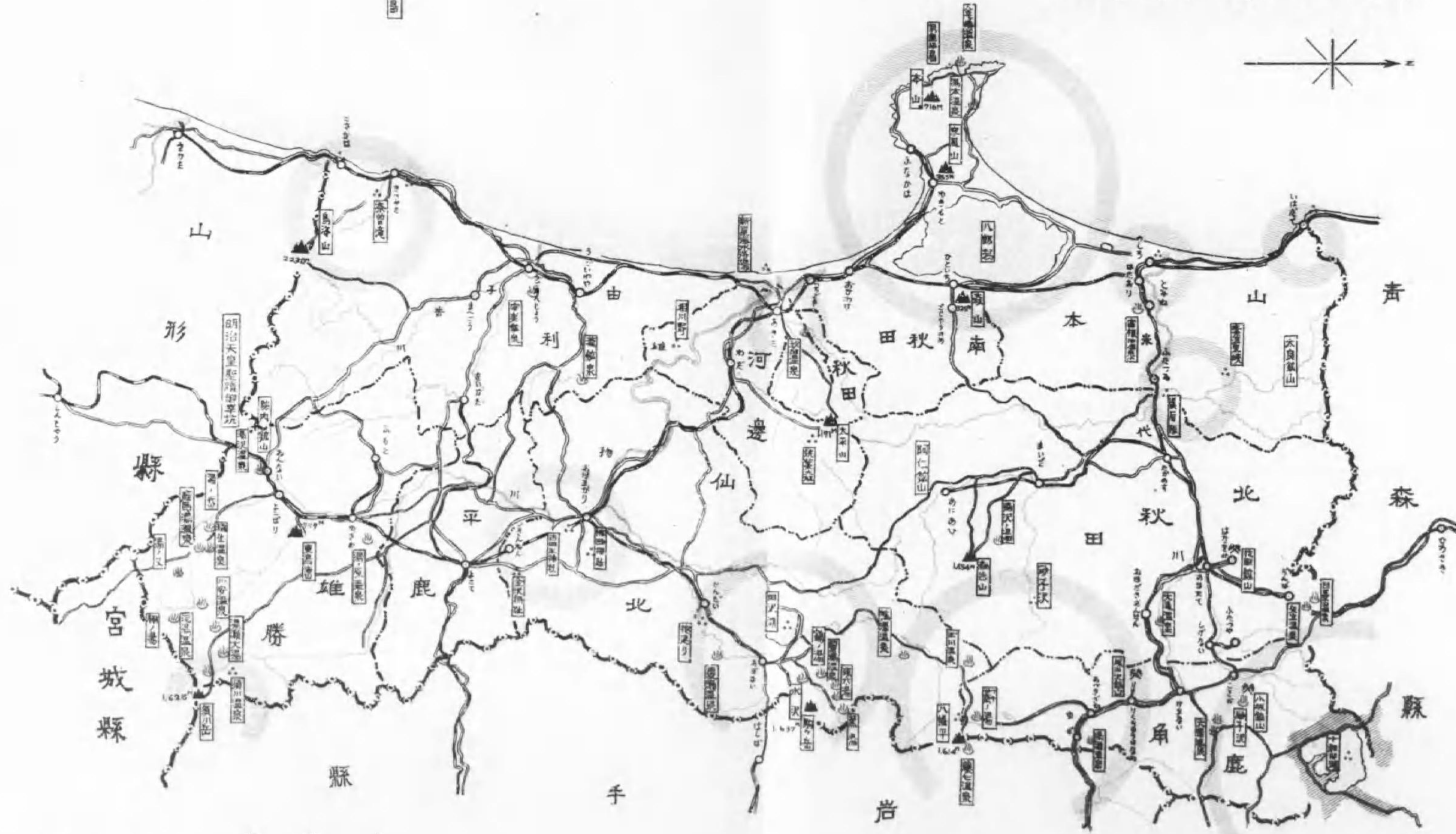
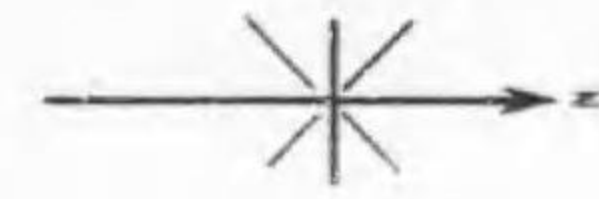
秋田縣民歌

秀麗無比なる乃海山よ
 狂潮吼え立つ男鹿半島よ
 神祕の十和田は田澤ととも
 世界に名を得し詩の湖也
 山水皆これ詩の國秋田

篤胤信淵巨人の訓
 久遠に輝く北斗と高く
 錦旗を掲りし戊辰の榮は
 矢留の城頭花とぞ薫る
 歴史はかゝはし譽の秋田

民族勝れて實質剛毅
 正義と自給とのさとしを體と
 人材遍く育みなして
 榮たる理想に燃え立つ我等
 至純の郷土と拓かん秋田

秋田縣位置圖



泉 池 山
 城 園 公 立 園
 地 勝 景

秋田縣の概要

一、地勢と人口

東北の雄として知られ、錦旗を護りし戊辰の役に映ゆる秋田縣は、奥羽の西北に位し、西方日本海に面するも、他の三方は山岳連峰を以て、青森、岩手、宮城、山形の諸縣と境す。

河川は何れも東部脊梁山脈より發し西流して日本海に入る。其の主なるものは、流程三十六里の雄物川を第一とし、米代、子吉の三川で、舟楫の便、灌漑の利に富み、其の流域には肥沃な

る坦々たる平野が連つてゐる。船川、

土崎其の他の港灣も、益々重要性を帯びつゝある。氣象は大陸の影響を受けること多く、十三月初旬より翌年四月初旬に至る四箇月間は白雪に覆はれ、積雪三尺以上、山間部に於ては丈餘に及ぶ。雨雪の日時は、四季を通じ六割四分に當り、降水量は、約一千八百耗に達し、東北地方に於ける最多部に屬する。

管轄は、羽後國の大部及陸中國の一部で、東西三十里、南北四十二里、面積七百四十一方里(全國第六位)、戸數十八萬、人口百五萬、逐年増加の趨勢を示してゐる。

管内を秋田市、鹿角、北秋田、山本、南秋田、河邊、由利、仙北、平鹿、雄勝の一市九郡に分ち、町村數二百三十五(町數五十三)を包含す。

二、隆々たる秋田の産業

あらゆる天恵に富み、資源豊かなる秋田縣は、全國屈指の林業縣たるのみ

ならず、或は農産物に、將た鑛産物の一大寶庫である。特に最近勃興の木材

パルプの製造、油田の開拓、水力電氣の増設、其の他各種工業の進出著しく

その活躍は目覚ましい。蓋し此の飛躍は廣大なる適地を有すると共に、これに附随すべき優良工業用水の利便をはじめ、諸種の必要條件を具備せるの反面、當局並に縣民一致、熱誠の現れである。今や東北に離伏せる大縣秋田は、國策線に露進、農林水産、工鑛業各般に互

三、輝く秋田の林業

苟くも産業に心を寄せらるゝ識者は林業の重大性を認め、林業を語るの士は、先づ林業國秋田を思ふ。實にや秋田こそは、森林地としての天恵厚く、夙に林業縣として天下に知られてゐる。

特に氣候風土は杉に好適、その驚くべき通直肥大の生育、理想的材質、廣漠たる林野、無限の蓄積等々は、幾多杉生産地中の白眉とされ、他に類例無く、斷然群を抜いてゐる。世に杉は秋田と稱へられ、本邦三大美林の一として秋田杉の令名噴々たる所以である。

り、萬全の計畫を樹立、産業秋田の面目を一新し、方々に隆々たる發展途上にあるは、縣國の爲め定に欣ばしい。最近に於ける縣重要物産の年産額は二億一千三百二十七萬二千三百七十九圓である。

農産物 五、七〇、六〇三圓

抑々本縣森林は、秋田藩佐竹氏の治世二百六十有餘年間、終始一貫、森林の造成、撫育を藩是となし、林政の宣敷に負ふ所が多いが、先賢の偉業を繼承し、其の育成増殖に心血を注いだ、國、縣、縣民協力の結晶である。

林野面積實に九十萬町歩、其中四十萬町歩は秋田營林局の經營に係る國有林、他の五十萬町歩は民有林で、縣が指導助成の下に利用開發し、概ね優良の成績を擧げてゐる。

林産物一箇年の總額三千三百萬圓、

鑛産物	七、七〇、〇九四
林産物	三、四三、六四四
工産物	五、〇三、五〇四
畜産物	三、三三、三三三
水産物	三、〇三、七七一
蠶絲類	三、〇五、五〇四
計	三三、〇三、七九四

各種産業の發達を誘致促進せしむると共に、直接間接に縣民を潤すのみならず、國家の財政上から觀るも、多大の貢獻を爲しつゝある。

産物の主なるものは、杉板(千五百萬圓)、樽材(二百萬圓)、木炭(四百萬圓)で、就中、本縣製材は、規模の技術の優秀、製品の佳良を以て、全國第一たる名聲を馳せ、業界をリードし樽丸、木炭も亦異彩を放つてゐる。

従來兎角利用の途乏しく、一部用材にせるの他は、其の大部分を薪炭材に

向けつゝありしブナを主とする調葉樹も、時代の脚光を浴び、バルブ資材として登場し、昭和十五年以降、東北振興會社經營、新設の秋田バルブ工場の操業に依り、少量の針葉樹と共に、多量のブナ材が需用される。

近時各種産業の勃興と、時局の影響に據り、單にバルブ資材に止まらず、軍需用材、鑛業用材需給の激増に伴ひ勢ひ増伐の傾向を招來するに至つたので、資源確保の爲め合理的施業を奨導し、伐採跡地は勿論、未立木地に對し

極力造林を實行せしめ、既成林地の撫育及間伐を指導すると共に、或は海岸砂防林の造成、荒廢林地の復舊、或は林道の開設、木炭の増産等、各般の應急對策と、恒久施設を急ぎ、以つて林野の整備充實に努め、資源の増産と培養を圖り、長期建設の國策に副ひ、縣産業の基礎を強化し、縣民の生活を安定ならしめんが爲め一意邁進してゐる。而して待望久しき好機は遂ひに來れり。

謹んで皇紀二千六百年を迎ふ。

四、眺は飽かず觀光秋田

隆々たる産業の秋田は、一面譽れの秋田であり、詩の國秋田として誇つてゐる。古來勤皇の血に燃ゆる幾多の偉人聖賢を輩出し、名勝黃蹟に富み、郷土を誇る各種の名物も尠くない。

世界に名ある十和田國立公園、田澤湖、男鹿半島をはじめ、靈峰島海山、

珍草茂る駒ヶ岳、高原の奇景八幡平其の他の山々、秋田城址金澤の柵跡等々、四季とり／＼の景趣を宿し、加ふるに隨所に湧く温泉も豊かに、交通も八達至便、風光明媚、俗塵を拂ひ、旅情を慰むるに充分である。

若し夫れ、一とたび鬱蒼たる千古の

あゝ何んたる感激、何たるの幸福ぞ。思ふ皇國の大巨民たるの榮譽を。記念にふさわしき幾多の考案も、不動の名案記念造林の下には影薄しく、寶曆に因む二千六百町歩の意義いと深き、記念大造林は、歡呼絶讃裡に、森林國秋田の面目を躍如せしめて實行せらるゝに到り、林業縣秋田の偉力を示しつゝ、洋々たる前途に對し、一層の光彩を添ゆることゝなつた。

x x x

大森林の懷に抱かれ、其の巨木大樹を崇むる時、ひし／＼と胸に迫る秋田杉の偉容は、恍惚として林業の神韻に觸るゝの靈感をさへ覺え、飽かぬ眺めの數々。蓋し觀光の適地として絶讃を吝まぬであらう。

x x



—像 尊 人 大 胤 篤 田 平—

先賢を祀

平田篤胤大人

徳川時代の國學者で、秋田中谷地町の出生、夙に巨人として全國に聞えてゐる。二十歳にして江戸に出で、苦學力行、松山藩士平田篤穩の嗣となつた。享和元年木居宣長の書を読み、大いに感憤、獨學克く國學の泰斗となり、極力儒佛を排撃して神道の究明に力め、尊王愛國の精神を説かれ、秋田佐竹藩勤王の淵泉を造つた。著書數千卷に及んでゐる。

安永五年八月二十四日出生、天保十四年九月十一日歿、年六十八。明治十六年、大人の功を追賞、正四位を贈らる。

秋田市千秋公園内縣社彌高神社は、平田、佐藤兩大人を祀つてゐる。平田大人の尊王愛國の精神

人はよしからつくとも我が杖は
やまと島根にたてんとぞ思ふ



—社 神 高 彌—



—佐竹義和公肖像—

佐竹義和公

秋田藩中興の祖で、明君の生まれ高かつた、九代の英主義和公は、永年の間不振に陥つてゐた、文武兩道の再興に心を用ひ、各種産業の發達を期し、産物の増殖を企て、藩國百年の大計を樹てる爲め、各般の大改革を斷行された。其の第一は林制の大改革で、秋田市出身加藤清右衛門（景林翁）を木山方吟味役に拔擢、其の才腕を縦横に振はせ、遂ひに秋田林業の基礎を築くに至つた。尙ほ公は勤儉を奨勵し、敬老濟民の念が篤かつた爲め、藩内はよく治まり、文武、産業の興隆は驚くべきものがあつた。

今、天樹院公と崇敬され神として祀り、其の徳を稱へられてゐるのは、實に義和公である。

縣社八幡秋田神社は、舊藩主佐竹義宣、義和、義堯の三公を祀つてゐる。

佐藤信淵大人

秋田縣の生んだ屈指の巨人信淵大人は、雄勝郡西馬音内の人、徳川時代の農政學者、幼にして江戸に出で、蘭學及び經濟學を攻究し、後、全國を歴遊して、大いに濟民救世の法を説き、農事に力を盡された、徳川時代の農政學の大家である。

一面に於て大人は、海防、外交の大計を論じ、始めて西洋の砲術をも講究した先覺者でもあり、著書八千卷何れも世寶となつてゐる。

明和六年六月十五日出生、嘉永三年六月六日歿、年八十二歳。

朝廷功を追賞せられ、明治十五年正五位を贈られた。縣社彌高神社に篤胤大人と共に祀られてゐる。



—佐藤信淵大人肖像—

西地東走化何車
樹之ほ任自其身
百年一人有向苦辛
唐哉四山川

天保五年二月十九日
景林自題



—像自翁林景藤賀—

賀藤 景林翁

秋田藩中興の英主佐竹義和公に、その才腕を認められ、拔擢されて、多難なる木山方吟味役に擧げられた景林翁（名は清右衛門）は、三十有餘年に亘り、至誠一貫、あらゆる榮職を辭退、秋田藩林政の改革と、森林の撫育に心血を注がれ、堅忍不拔、治山救世の軌範を明かにされ、本縣森林の基礎を鞏固になし、今日の美林を遺された功績は不滅である。

翁の遺著は、木山方覺書六十餘書、遺書七十餘書、山繪圖六十餘枚等で、何れも佐竹藩林政の盛衰を物語る貴重な史料である。

翁は、明和五年二月十九日秋田市中島上本町に出生され、天保五年三月二十四日、六十七歳で、木の國秋田をのこし、謫居として逝かれた。

大正七年、翁の功績天聽に達し、林業功勞者として長くも、從五位を追贈せらる。景林神社は景林翁を祀り、能代港町公園に建立せられてゐる神社である。

× ×

景林翁は、景林翁の嗣子で、天保七年勘定所吟味役に擧げられ、木山方専屬となり、乃父の遺志を繼承、二十有餘年間林業の經營に努力せられた功績は大きい。

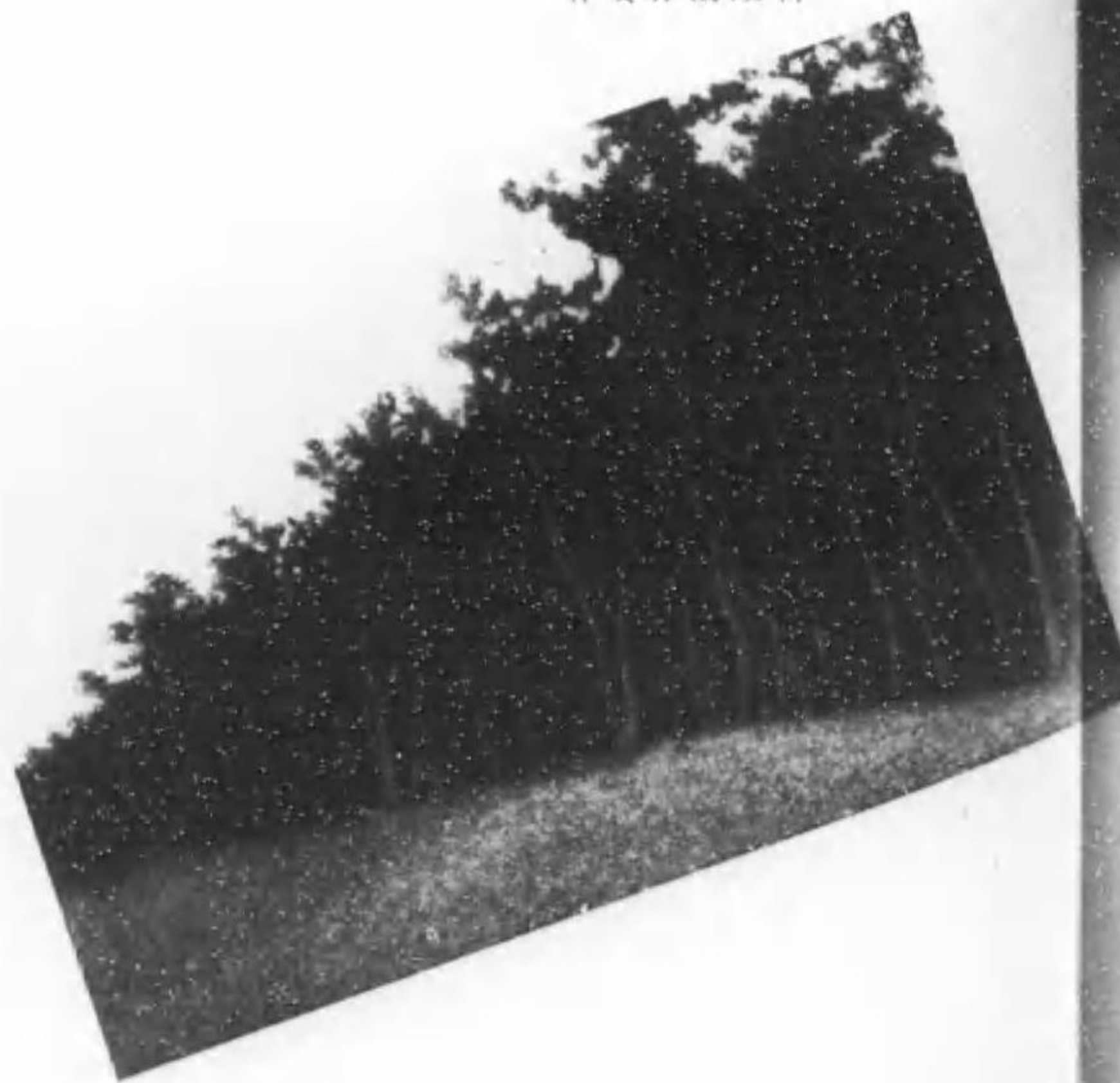


—像自翁亟之定田栗—

栗田 定之丞翁

如栗田翁は、明和四年十一月十七日、秋田市中亀之丁高橋家に生れ、後栗田家を繼ぐ。資性剛毅、文武を勵み、庶民愛撫の情に厚い。而も慧眼早くも藩政の頹廢を見貫き、よくこれに善處した。翁の功績は數々あるが、郡方役人として、山本、南秋、河邊三郡に亘る海岸砂防の大事業は、代表的のもので、特に河邊郡新屋の海岸飛砂防止造林の如きは、地元民が神として祀つてゐる程の功績を遺し、其の業績は國定教科書にも載つてゐる。文政十一年十月二十八日歿、林業功勞の故を以て從五位を追贈された。

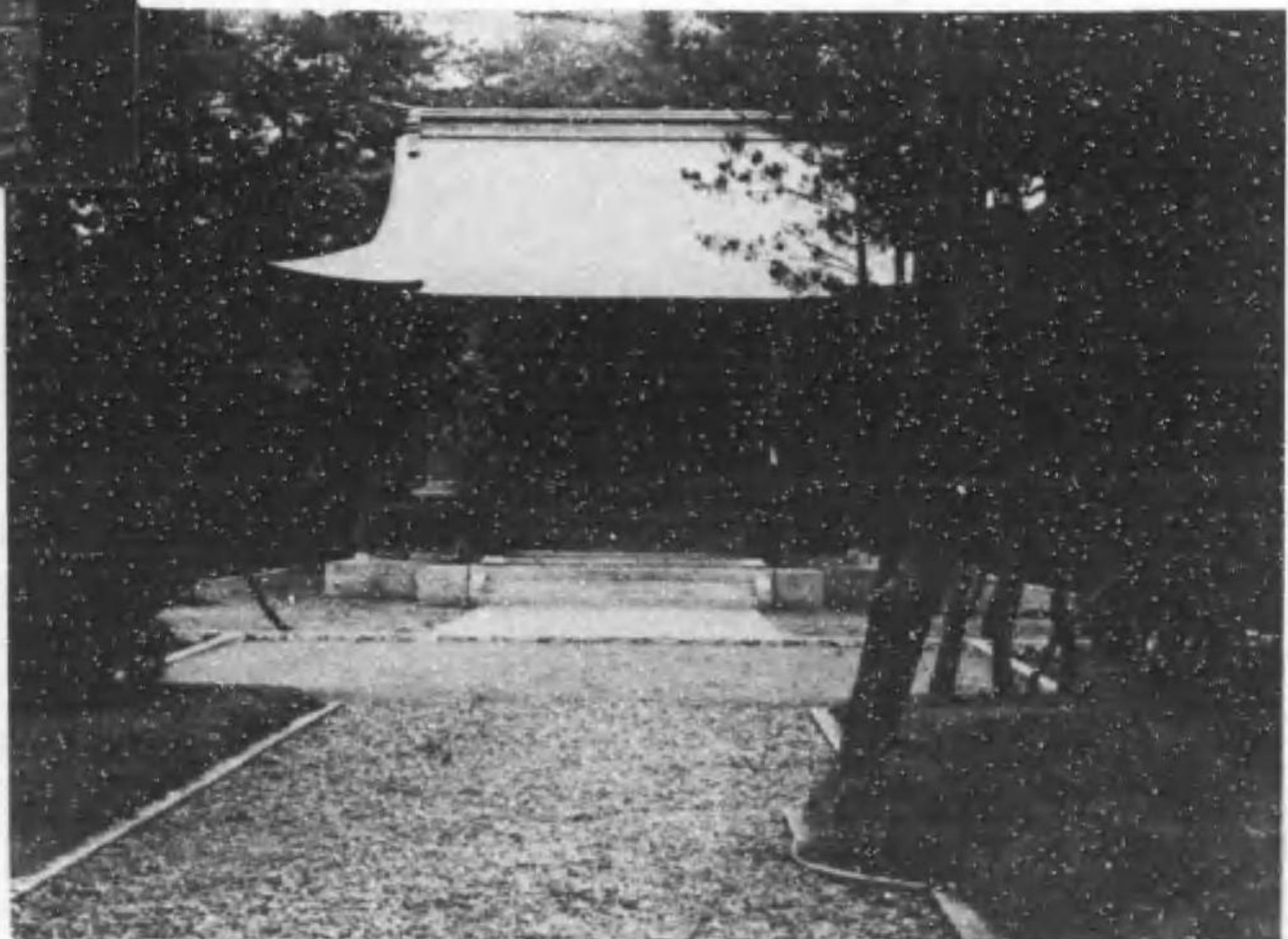
—林安保濱屋新—



—景林先生著書—



—景林神社—





—社神王四古社小幣國—

國幣小社古四王神社

秋田市郊外寺内町の高丘に社殿がある。推古天皇六年の創建で、坂上田村麿將軍が、夷賊平定の除、再興されたと傳へられてゐる。武甕槌神、大毘古命の二柱を祀つてゐる。附近には、舊秋田城址たる高清水公園(秋田護國神社建設地)將軍野遊園地、土崎港、日石製油所、新鐵土崎工場、八橋油田其他がある。



草木谷山居

—翁助之紀理川石—



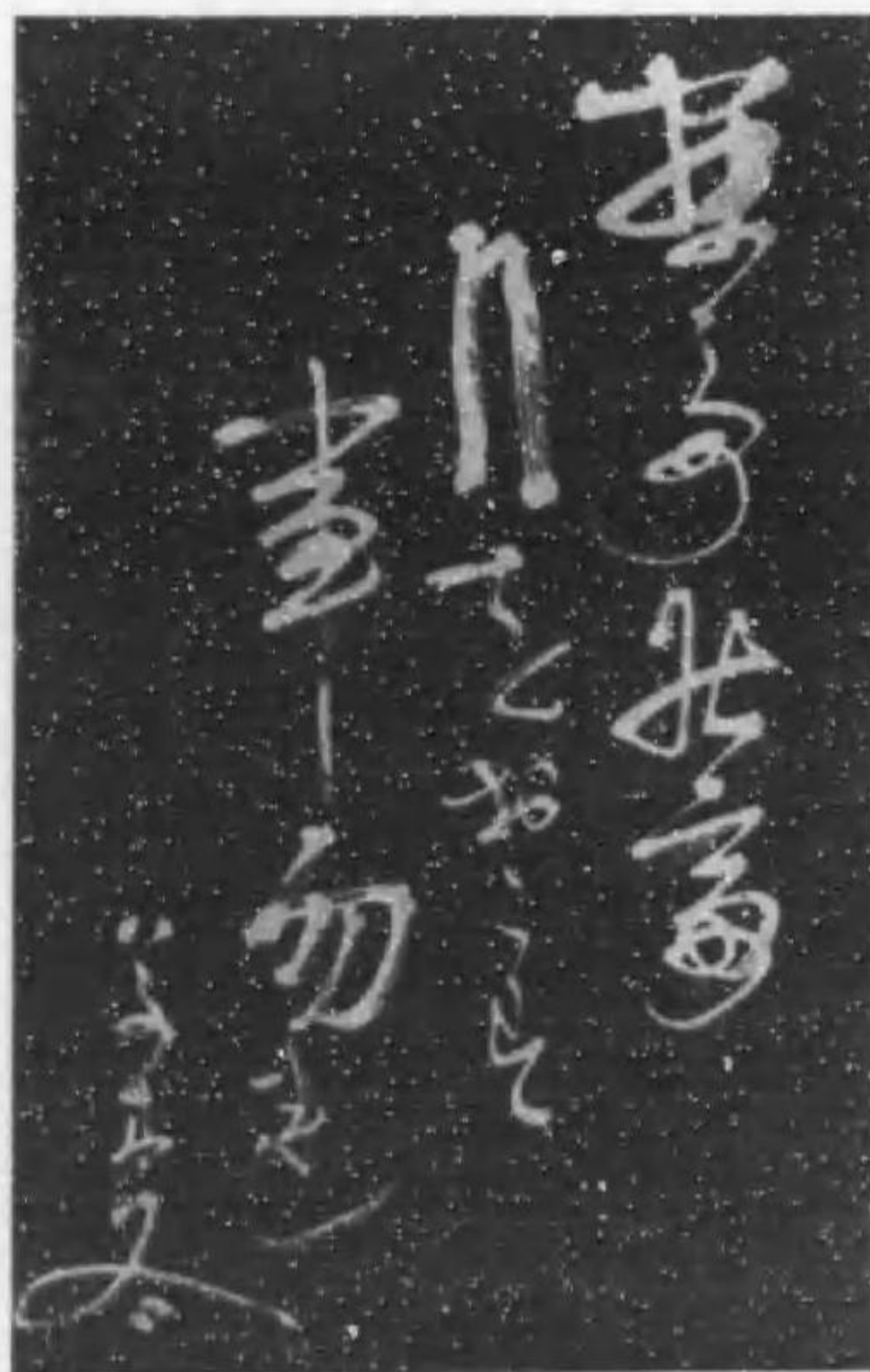
石川理紀之助翁

明治の二宮翁と崇められ、幾多の名訓を垂れた石川翁は、秋田の生める興村救農の聖農で、本縣南秋田郡豊川村山田の人、本姓奈良氏、出で、石川家を繼いだ。専ら農事を研究し、農村の救済、農政の振興に其の一生を捧げ、偉業は縣内外に及んでゐる。

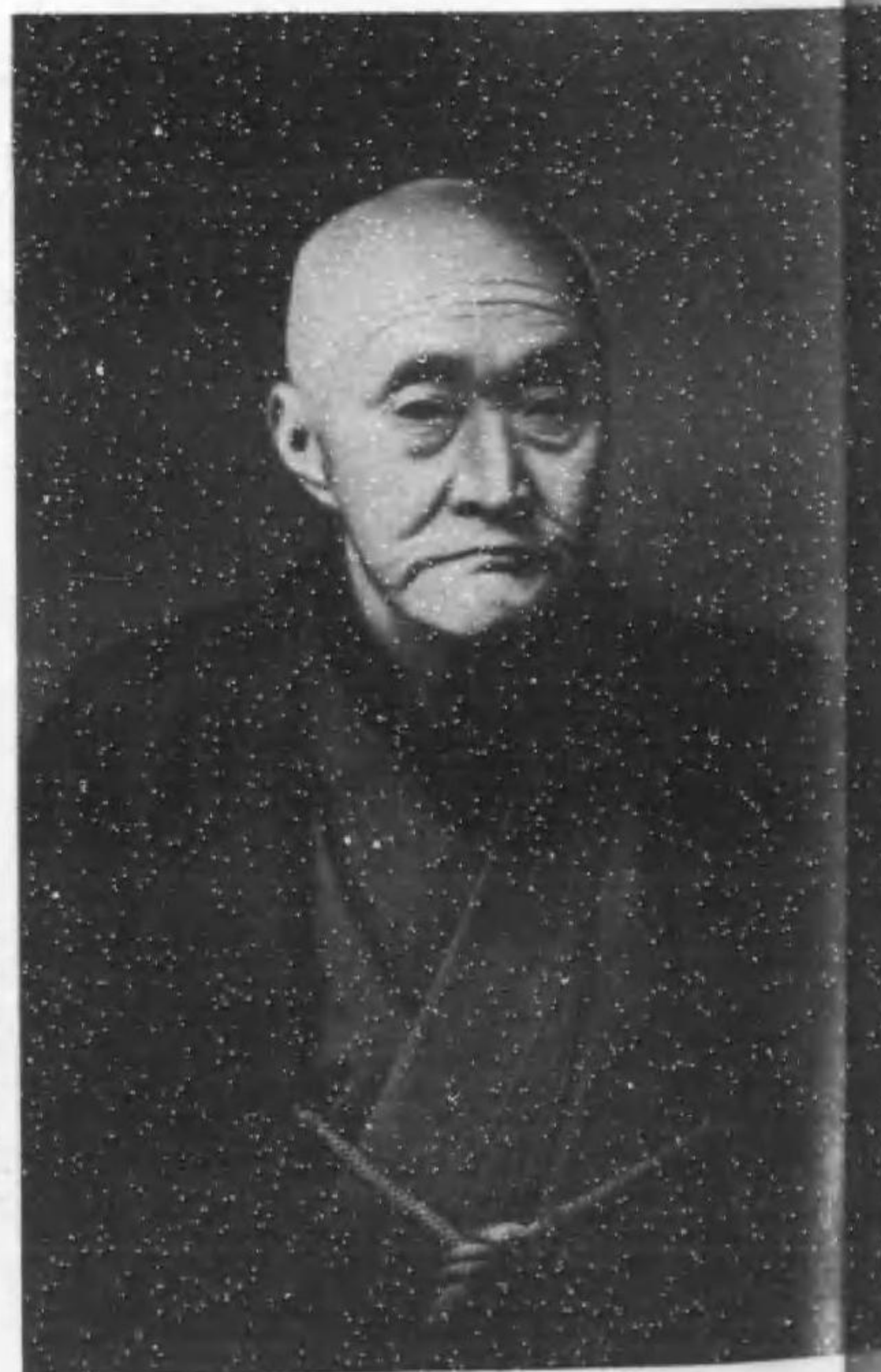
翁は、實踐躬行以て範を示したことは、居村山田部落、草木谷の山居十年の極貧生活でも知られる。弘化二年二月二十五日、本縣金足村に出生、久遠に光る功績を遺して大正四年九月八日逝去、年七十一才。著述八百七十餘冊、和歌三十萬首、訓言數千等を遺されたが、努力想ふべく、特に七百三十一冊に及ぶ適産調は斯界に有名である。全國に誇る秋田縣の重要年中行事たる、種苗交換會は、實に翁の創案で、明治十一年翁三十四歲當時の名案である。

.....石川翁の遺書から.....

- 寝て居て人を起す事勿れ
- 樹木は祖先より借りて子孫に返すものと知れ
- 黄金より玉よりもなほ田をつくる人こそ國の寶なりけり
- みがくその力によりて瓦とも玉ともなるは心なりけり



—石川翁の書—



—森川源三郎翁—

森川源三郎翁

老農森川翁は、弘化二年二月十五日新屋町に生れ、文武に優れ、槍術、馬術を能くし、劍術は免許皆傳であつた。士族没落の時に於ても、よく家計を維持し、農事に盡瘁、思想言行は聖農石川翁に酷似し、其德行は一般から崇敬されてゐる。

翁は六十一歳の晩年より河邊郡上北手村古野二見山に草庵を結び、自ら耕耘の傍ら植林をなし、今尚ほ亭々たる杉は郷人から思慕されてゐる。

かくて翁は、二見山の林相に満足の想ひつゝ、大正十五年六月七日逝去、年八十二。

翁の歌

昔ふしの勤くかぎりは働かん

およばぬ事は神にまかせ



—園公橋八—



—所成養工術技滿日秋—



—秋田縣廳—

秋田市の
もかげ

秋田市の

秋田市は、縣の西部、南北の中央に位し、面積五・八方里、戸數一萬一千、人口六萬五千餘、逐年激増の傾向にある。市内には、秋田縣廳をはじめ、旅團司令部、聯隊、營林局、秋田山林會、裁判所、各官公衙、團體、銀行會社、社寺、諸學校、放送局、其の他を網羅し、政治、經濟、學藝、交通等の中心となり、縣治の根幹をなしてゐる。商工業殷盛、堅實を以て開え、近年特に工業の躍進を見せ、今や本邦重要都市の一に數へられてゐる。市は往時津田と稱し、千二百餘年前天平五年秋田城下設置に初まり、慶長七年佐竹義宣公の常陸より遷封さるゝや、此の地を愛し、城を築き、市區を經營、藩名を久保田と稱へた。爾來三百年、佐竹氏二十萬五千石の城下街として、現今の繁榮を來し、今尙ほ歴史的多くの佛を留めてゐる。城址は、今は千秋公園となつてゐる。

市内及郊外には、平田篤胤の墓、佐竹家菩提所たる天徳寺、八橋公園、金照寺山等の名所の外、全國に著名の八橋、旭川油田をはじめ、バルブ、硫酸、油脂、鐵工其の他の大工場の見、日滿技術工養成所等の設置もあり、新興秋田市の偉力を發揮してゐる。



—所役市田秋—



—秋田市街—

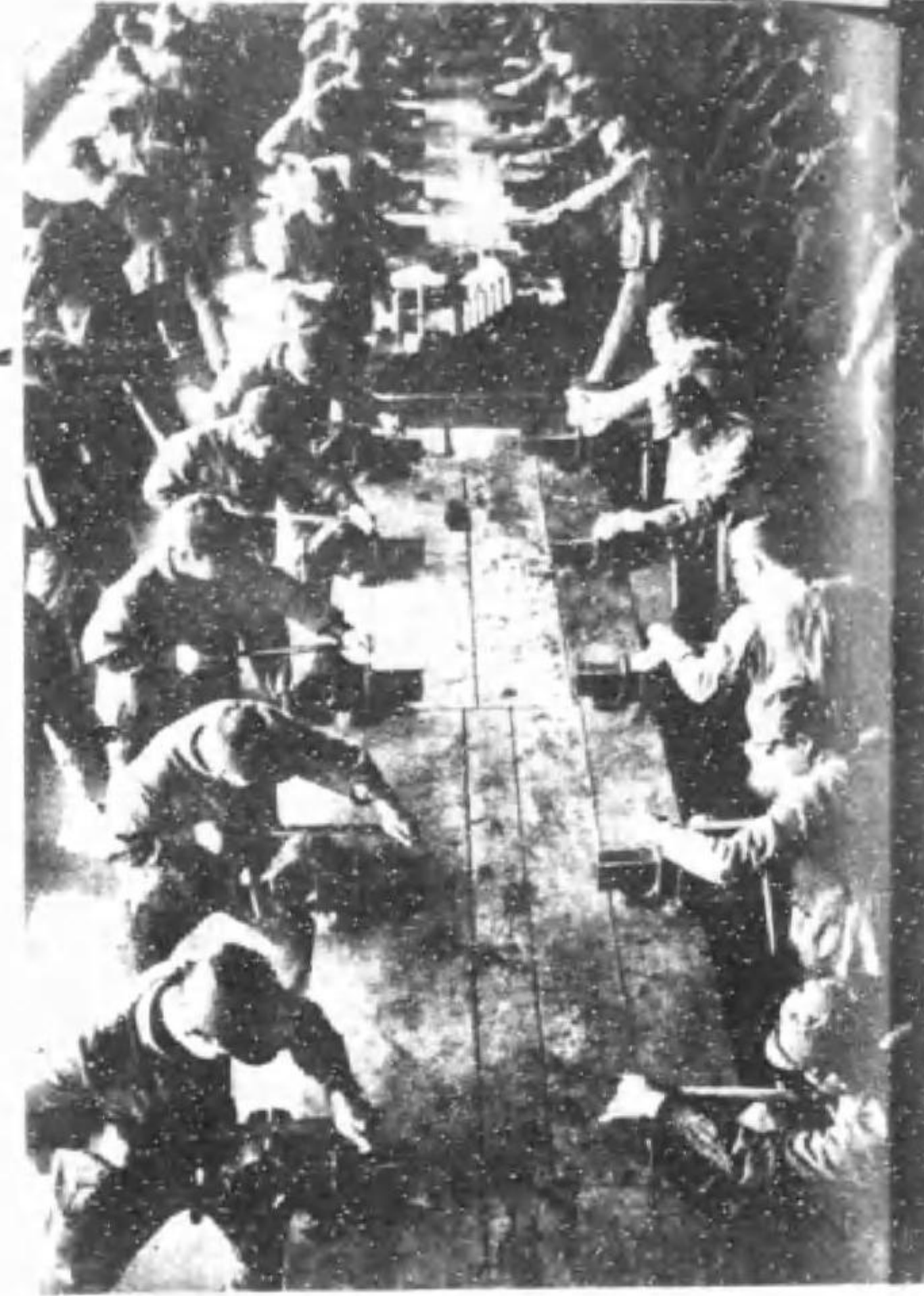


—秋田營林局—



—秋田大橋—

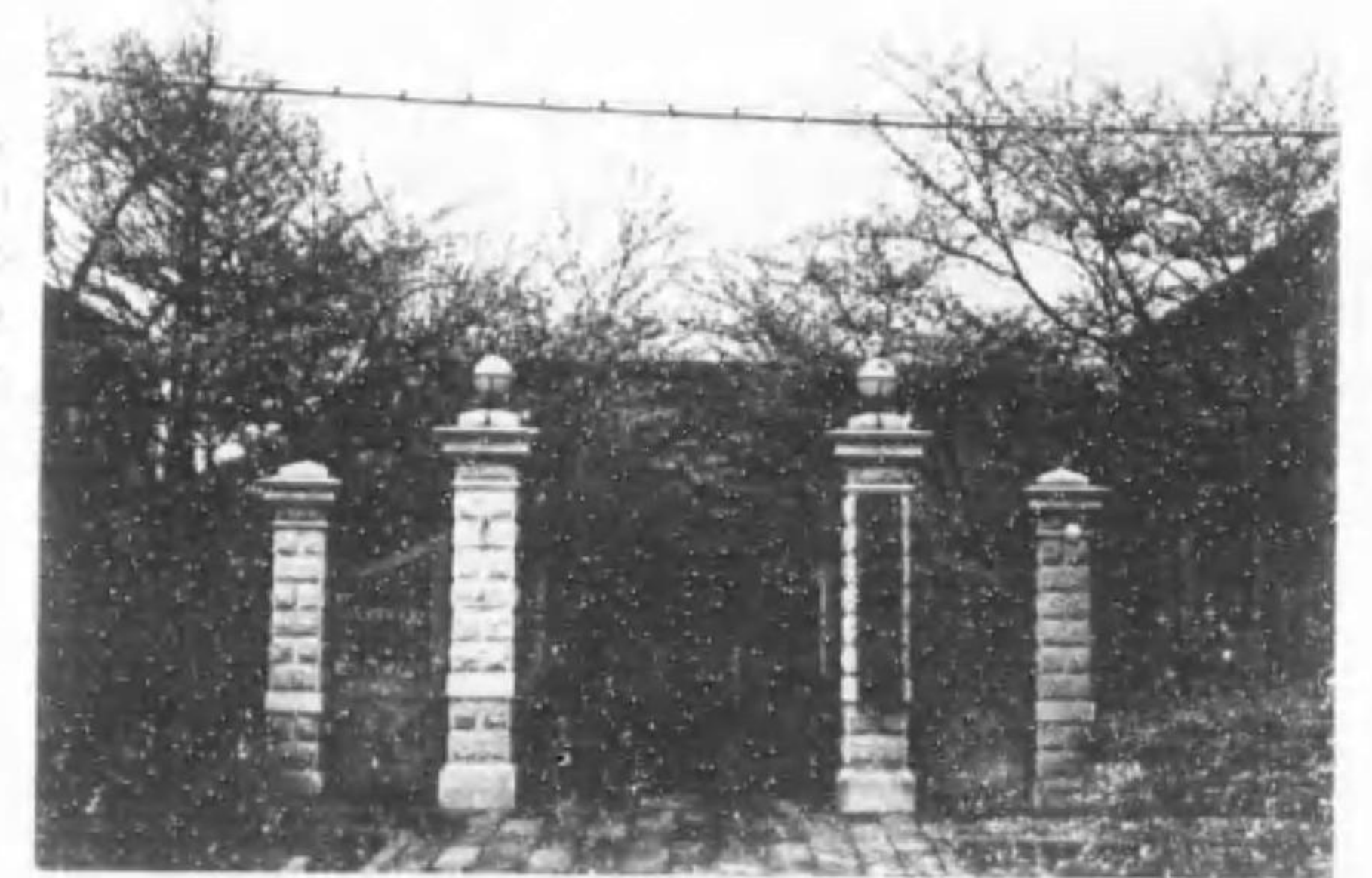
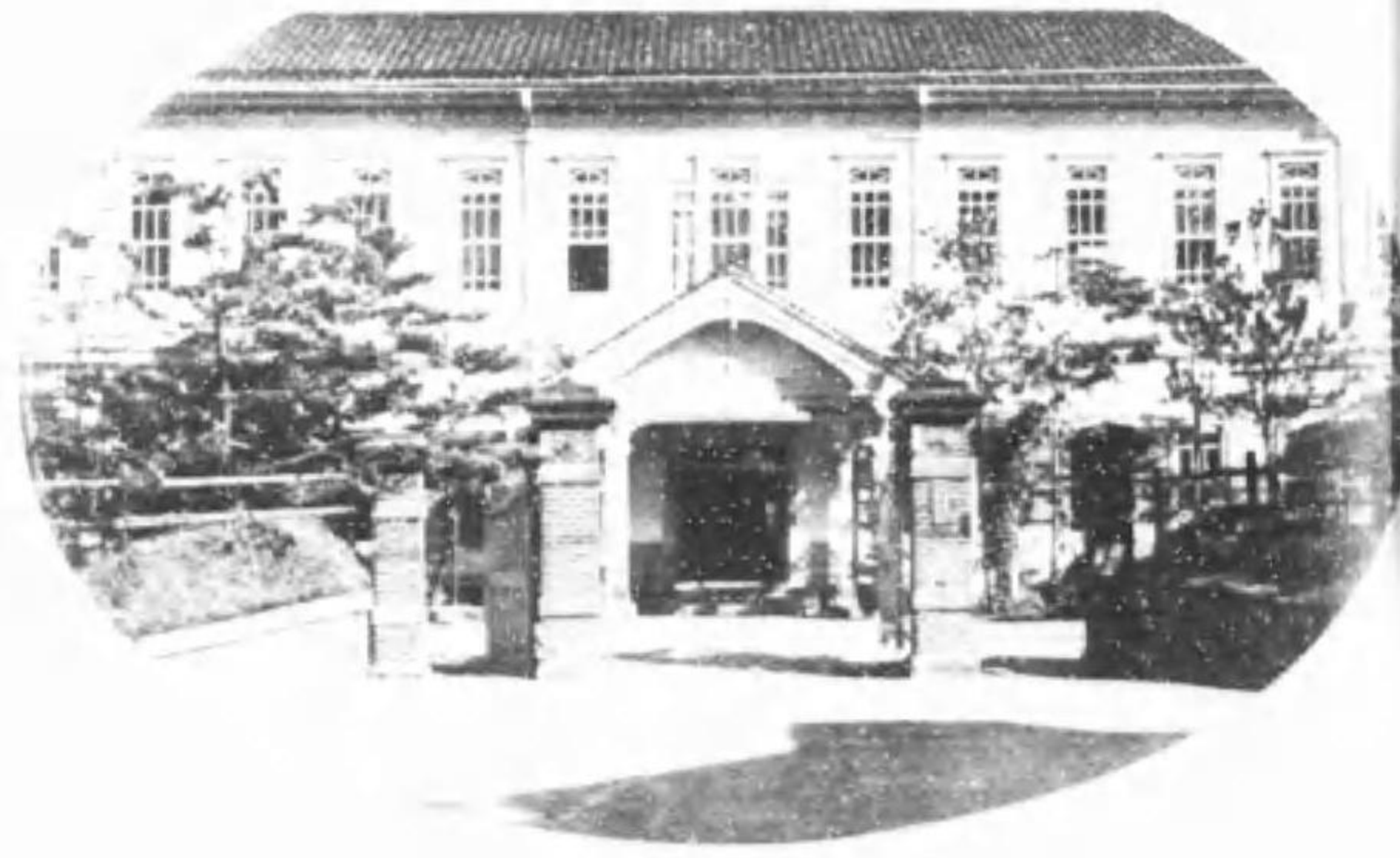
露光量違いの為重複撮影

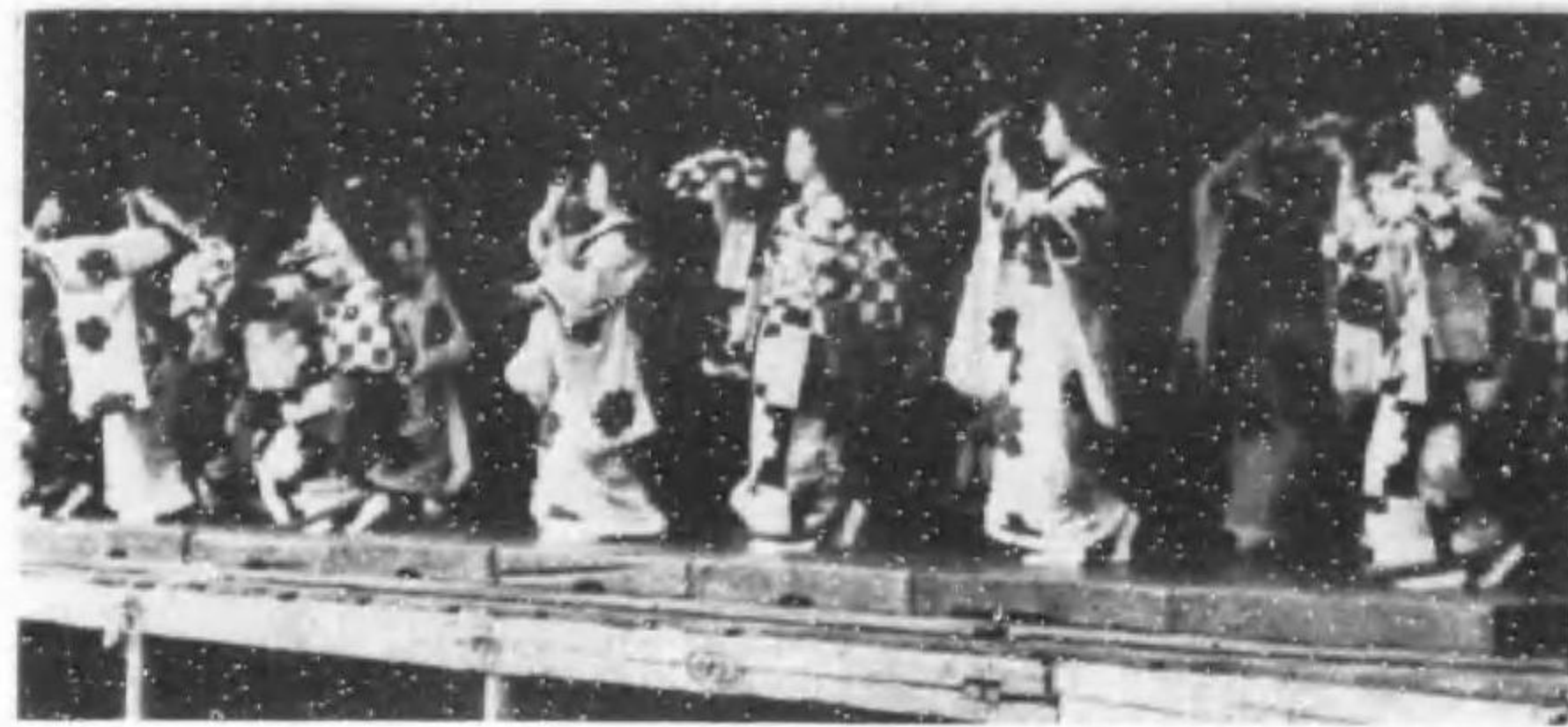


秋田市の
おもかげ



秋
田
市





— 頭音川秋 —

秋田美人得意の郷土踊、手振は柔道の手から變化したと云はれ、一般舞踊の逆手を以てするが特異で、元來は九手、現在は手数を略してゐる。三味、大鼓、笛、摺金の囃も賑やかに、音頭の地口は地理、人情、風俗等を諷刺し、朗らかな踊で、花音頭、笠音頭、組音頭の別がある。

ヤイトーセー、ヨイヤナ、キツタカサツサ
ドン、ドッコイ、ドッコイ、ドンドッコイナ、ソトレ
いづれこれより、御免な蒙り、音頭のむだを云ふ、アソソソソソ
お氣にさわりも、あらうけれども、さつさと出しかける。

秋田名物いろ／＼あれども金銀、秋田米、アソソソソソ
秋田杉から石油に酒コは日本第一だ。

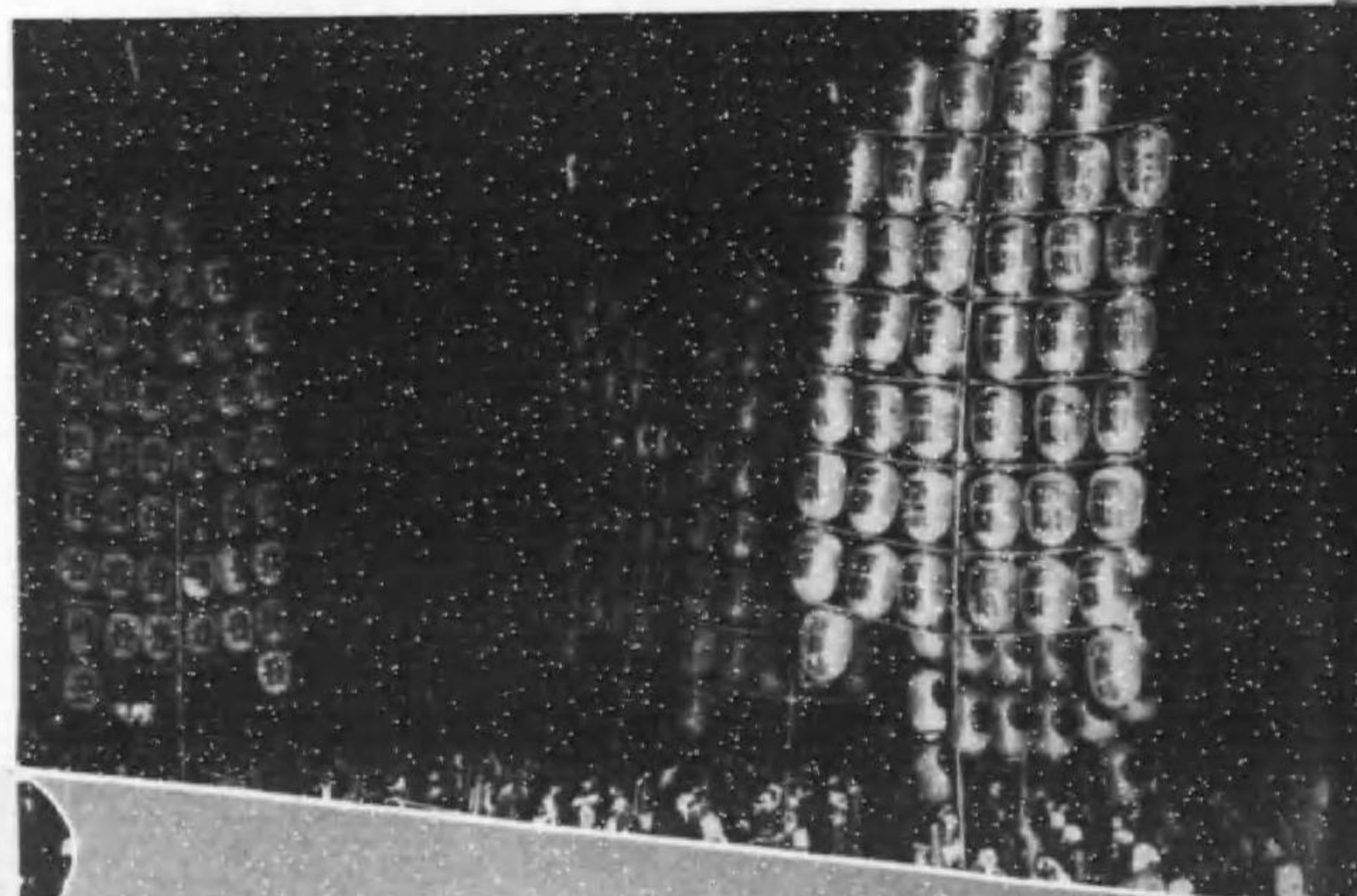
山で見渡しや、金コに杉コ湧き出す油ツコ
里の姉コは綺麗な面コで、炭コを賣りに来た。

秋田音頭

秋田市唯一の郷土名物、八月六日の夜、四十餘張の提灯を、長さ四、五間の一竿に收め、掌、額、肩、腰の上などに据へ、數々の技を競ふ掛聲の勇ましさは、若人の元氣の現れであり、この世にも類ひ稀なる壯觀でもある。竿燈は、稻穂の成熟を模せるものと傳へらる。

秋田の竿燈

— 燈 竿 —



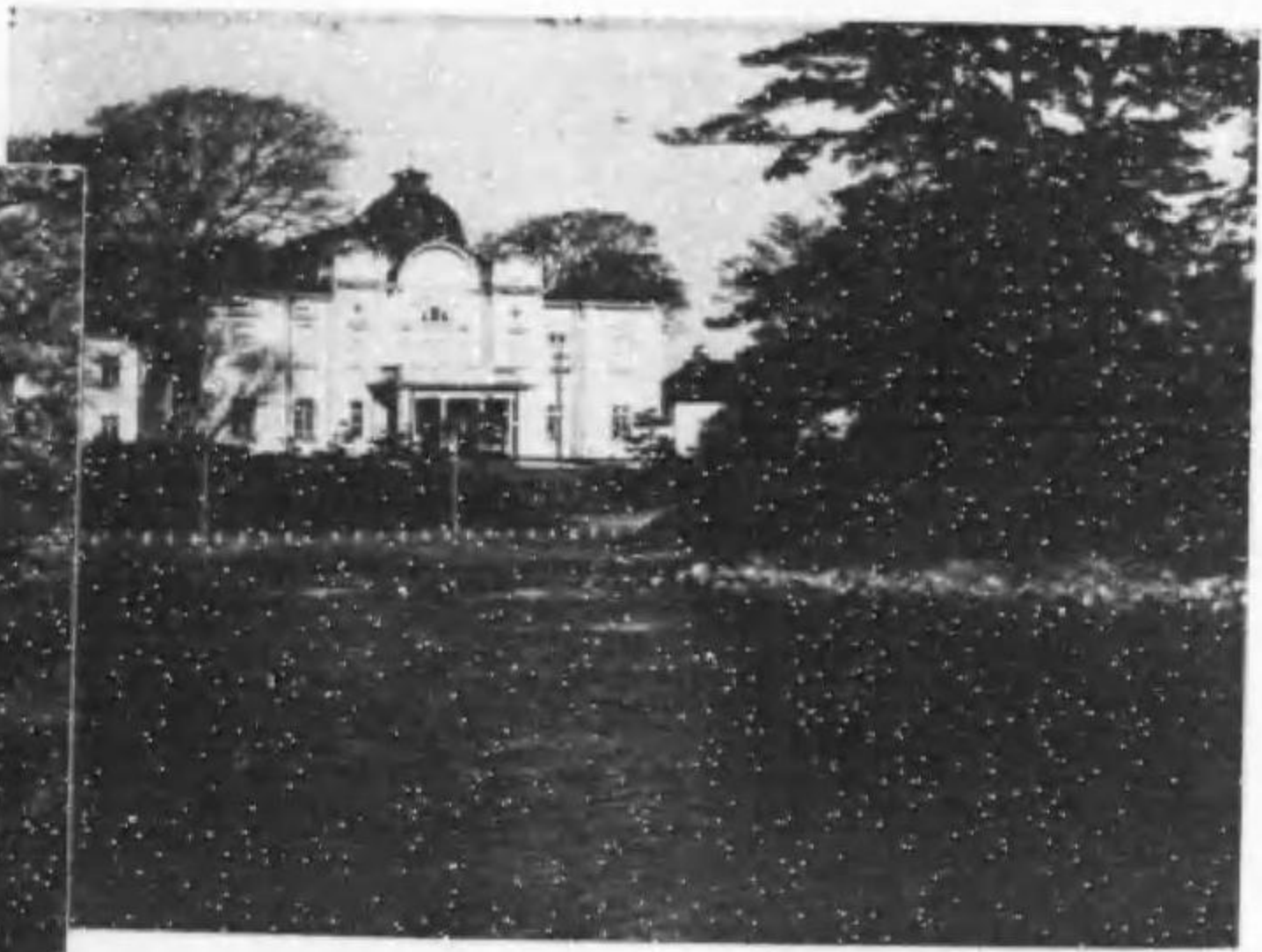
— 路 田 秋 —



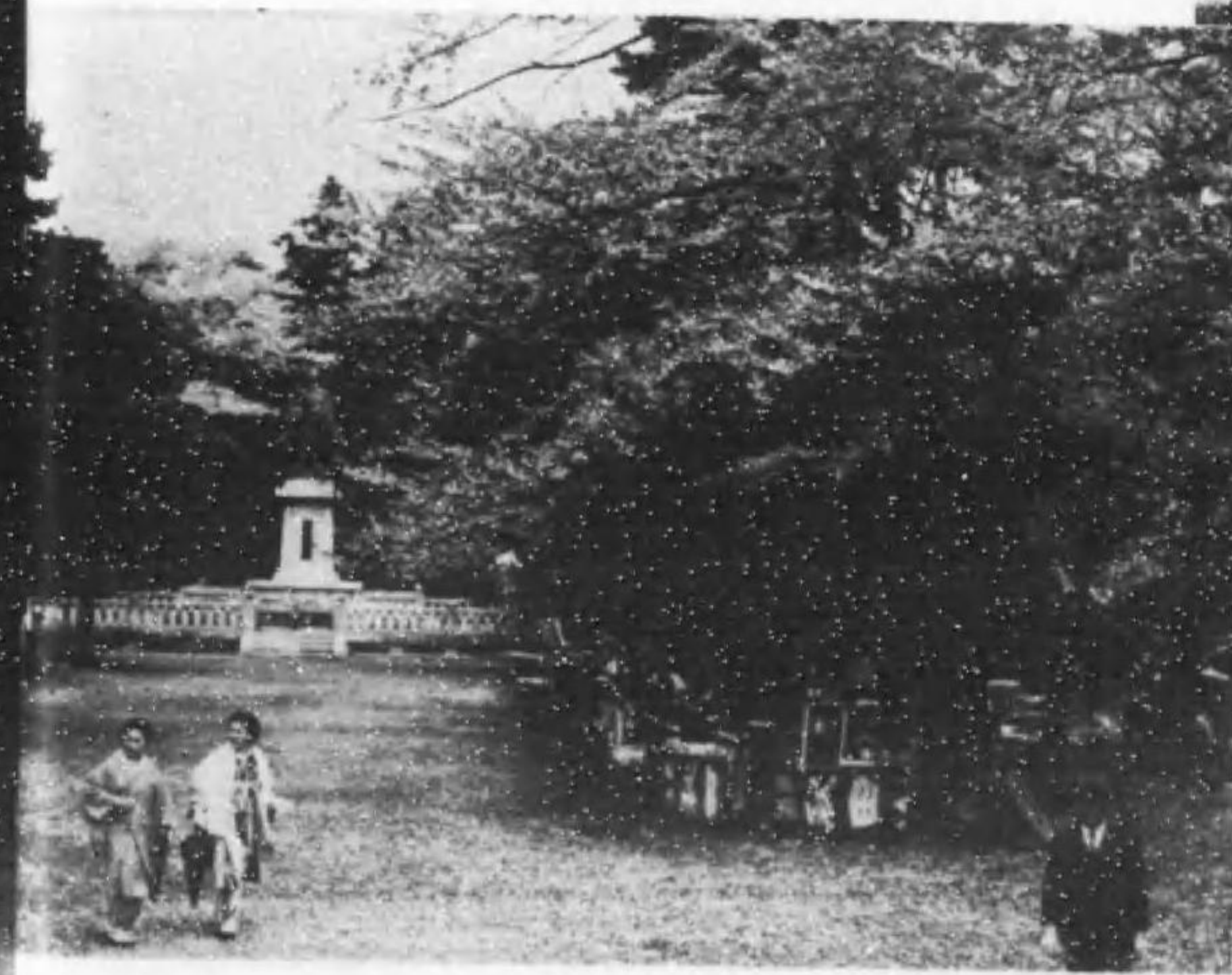
千秋公園

秋田藩主佐竹氏十二代の居城「矢留城跡」を公園とした、東北屈指の名園で、老松蒼石は、往時を偲ばしめ、櫻、ツツジの名所としても著名である。園内の高地、御隅櫓跡に登れば、市街を隔て、山海を双眸に收められ、景趣絶佳。園内には、護國神社（昭和十五年市郊外寺内町に奉遷確定）、藩祖佐竹義宣公を奉祭せる縣社八幡秋田神社、篤胤、信濃兩大人を祀る縣社彌高神社、銅像、記念碑、記念樹、縣記念會館等があり、年中遊覽、散策者で賑つてゐる。

— 櫻の園公秋千 —



— 館會念記縣 —



— じくの園公秋千 —



秋田落

落と美人——美人も定評あるが秋田落こそは、秋田を代表する名物として、全国に親しまれ、魅惑の一つである。傘にさそうか秋田の落を：：の唄の通り、葉柄の長さ五尺五、六寸、太さ五寸内外、葉の廻り十四、五尺のものが稀ではない。肉質は粗硬だが、繊維が割合に少く、淡泊なのが秋田落の特徴である。



—(内地村川吉峰) 林範模縣—

豊
秋
田
け
き
ま

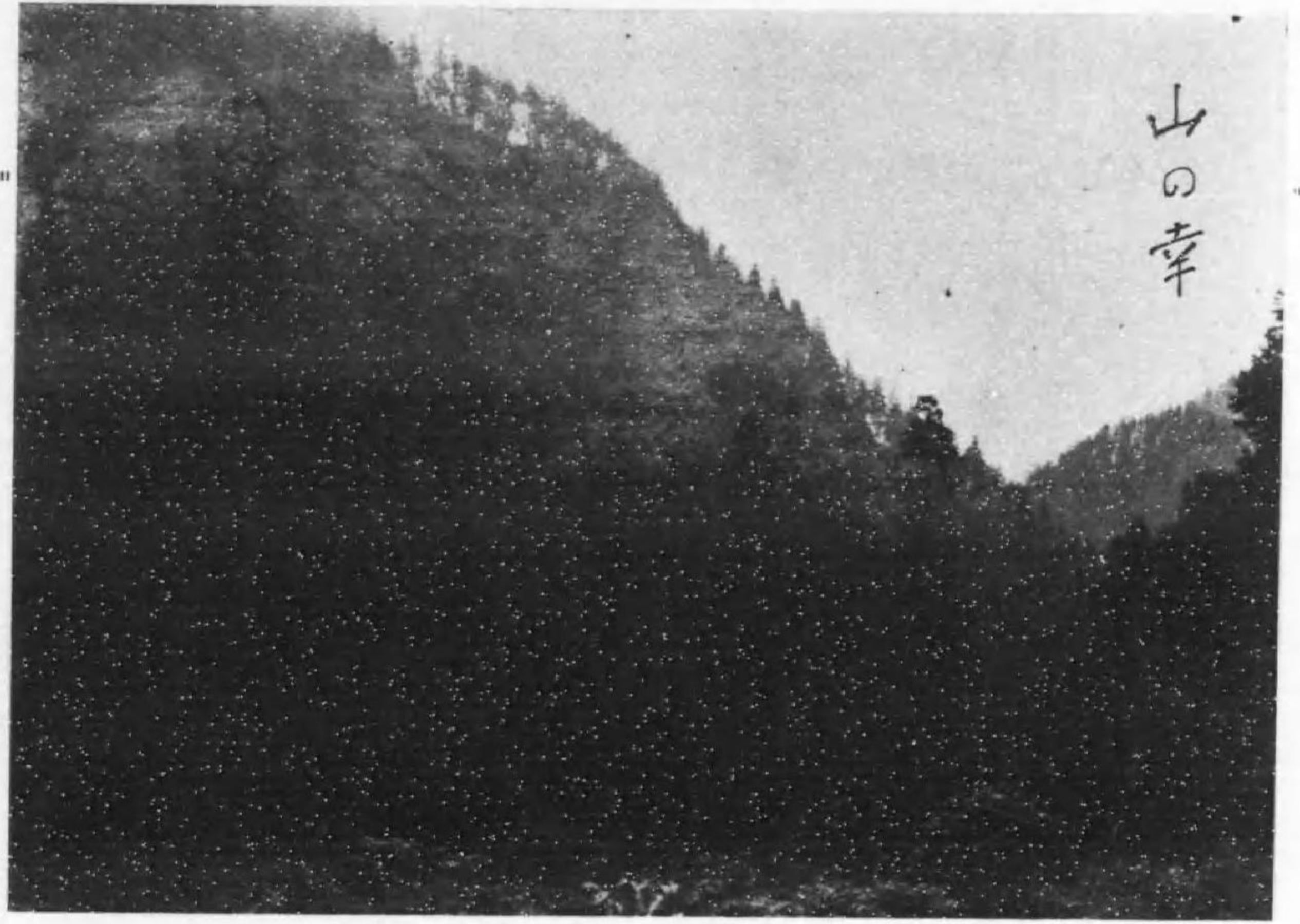
縣模範林



—(村日西) 林有村—



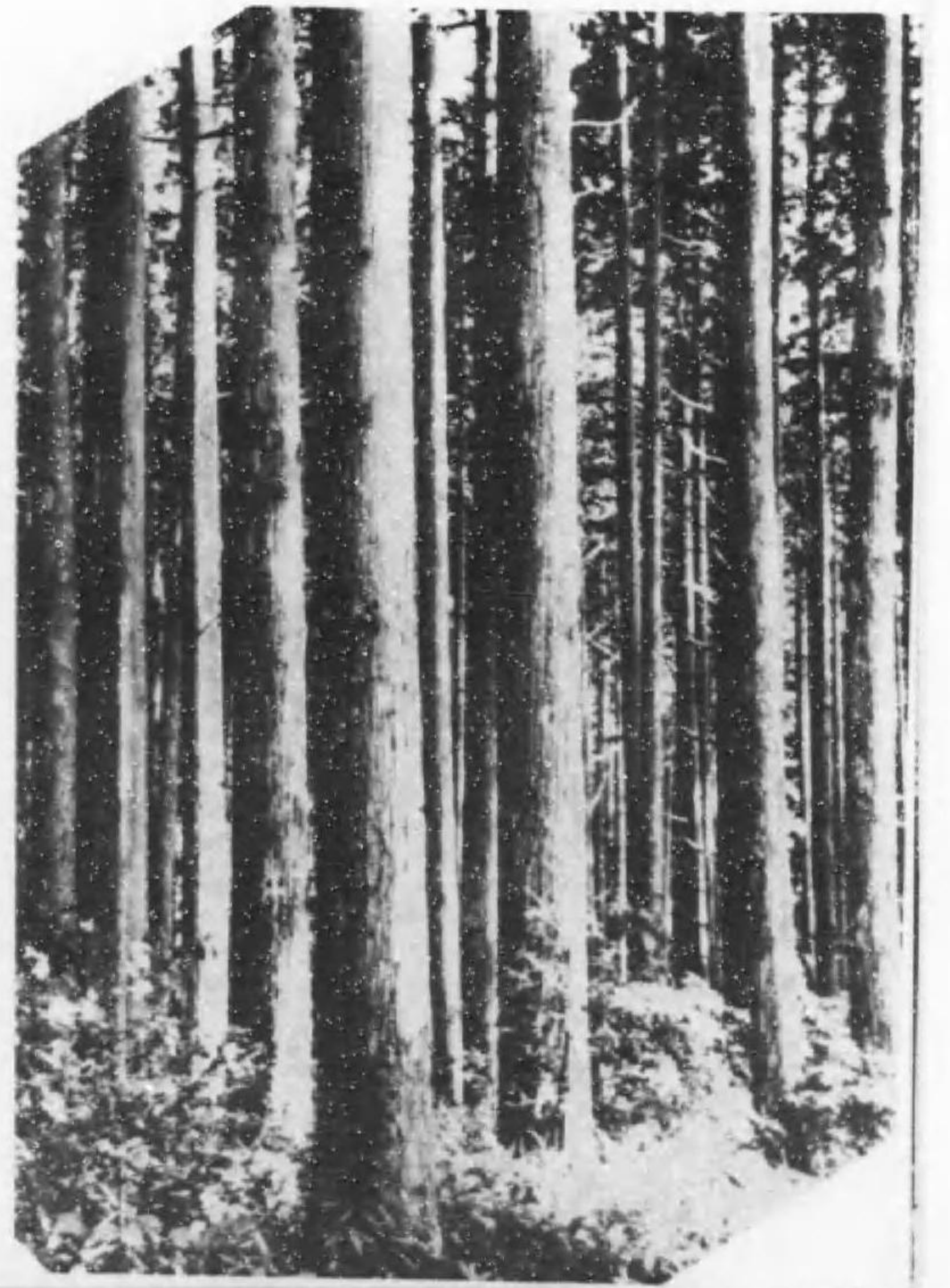
—私
有
林—
—(古河林業部阿仁山林)—



山の幸

—秋田杉(仁鮎國有林)—

—林有國—



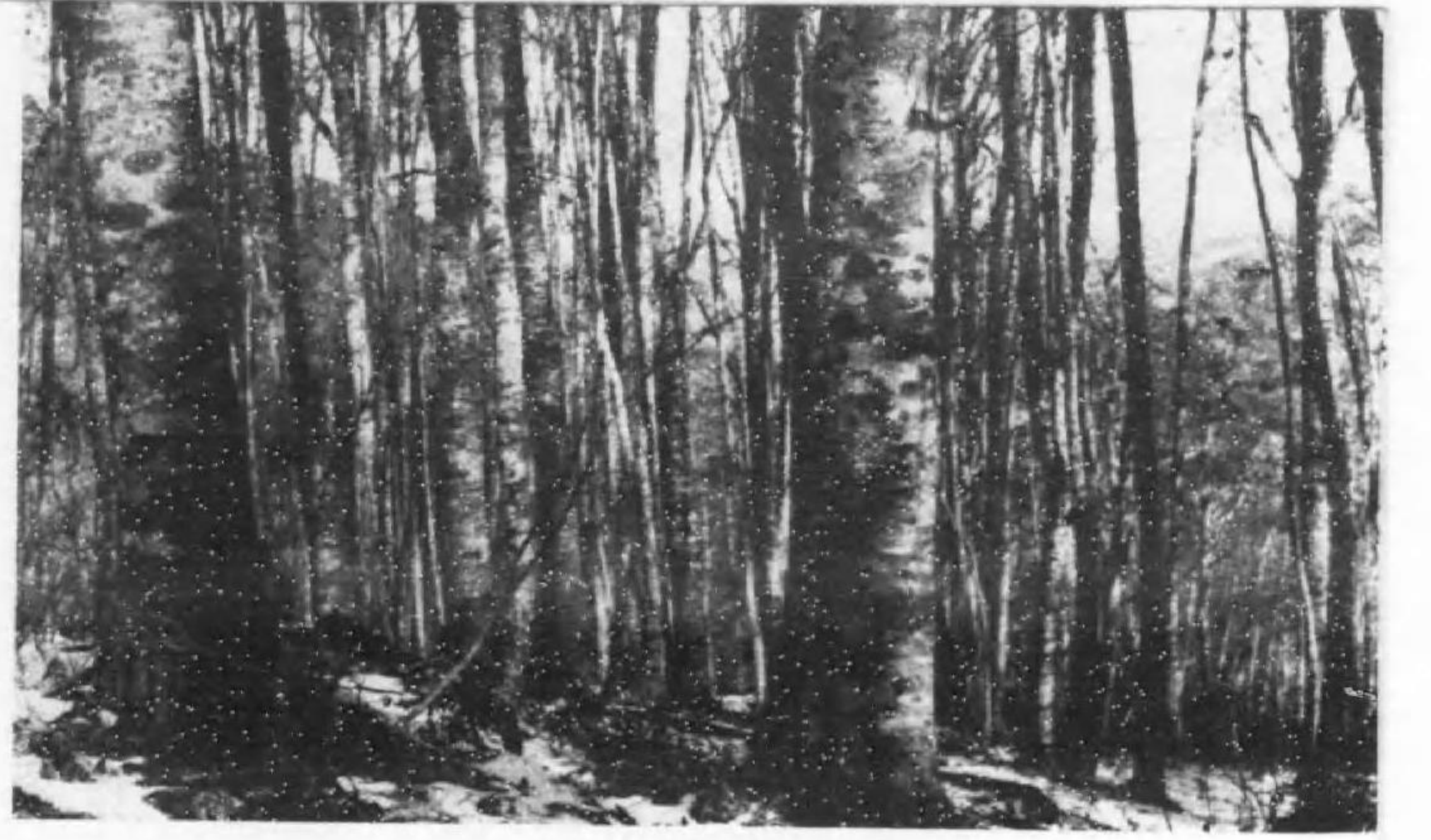
秋
田
杉

亭々として天に沖し、蒼鬱として谷を埋むる三十方里、林相整齊、樹齡百年より三百年、枝下長く、樹幹通直、胸高直徑二尺より三尺、大なるもの四尺に及び、樹高三十間に達し、一町歩蓄積五千石以上のものがある。
老齡大樹に富む國有林の偉觀は、明日の林業を擔ひ、すく／＼と伸びて行く民有林の力強い姿と共に、秋田杉の持つ嬉しい誇りである。

山は國の寶

國の寶は山なり。然共伐盡時は用に不立。盡さざる以前に備を立つべし。山の衰は即ち國の衰なり。

……(秋田藩家老澁江政光の傳書より)……



— 相林のナツ —

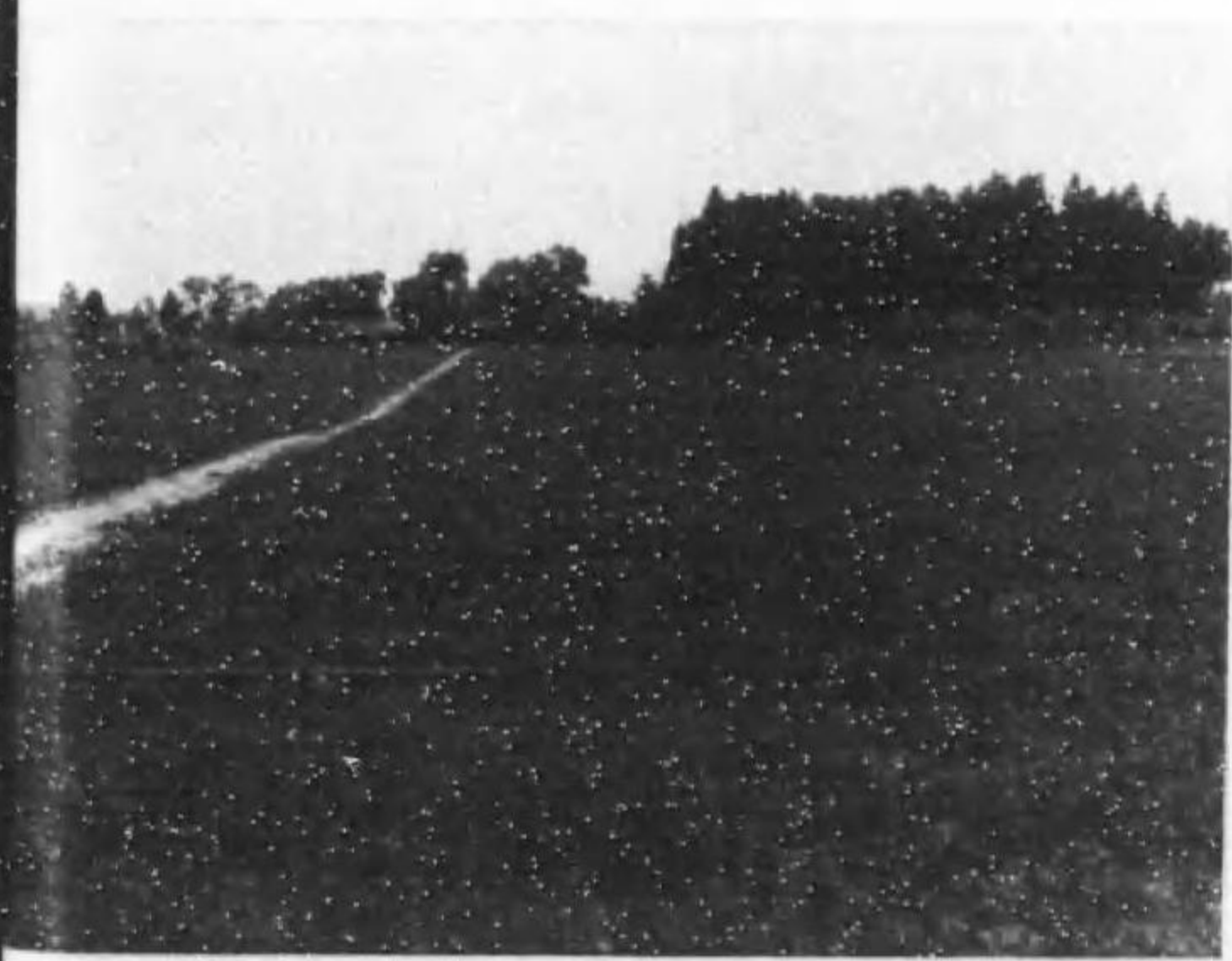
.....
フナの林相
.....

従来其の大部分は薪炭材とされてゐたフナは、最近バルブ資材に適するところが解つた。
この木材バルブ工業は、今や全世界の寵兒となり、秋田にも東北振興會社のバルブ工業が新設されたので多量の縣産フナが用ひられることゝなつた。



苗木の梱包

樹苗圃 (三浦農園)



— 取堀木苗 —



.....
秋田の樹苗
.....

造林成功の鍵は、樹苗の適否にあるを想へば、養苗の業亦重大事である。本縣では採種育苗の統一改善と、需給の円滑を目標に縣山林種苗同業組合を設置、營々所期の成果を擧げてゐる。
山行苗年産七百五十萬本乃至八百五十萬本、杉苗木は其の九割を占め、嚴正なる検査を勵行、縣内外に配給してゐる。



— (局林營田秋)採伐の杉田秋 —

.....
筏流し
.....

能率的で無いなどは不粹な見方、筏流しは楽で無い趣がある。遙かに眺めば一幅の名畫。あれ唄も聞ゆる。



— ニイラクナイ —

筏流し

.....
製品となるまで
.....

年を経て伐期に達した杉の大樹は、伐倒、皮剥ぎ、玉切の造材が終ると、木馬、橋等で集材され、林道、鐵道、水運で貯水場に搬入され、製材所に配給される。

.....
森林鐵道
.....

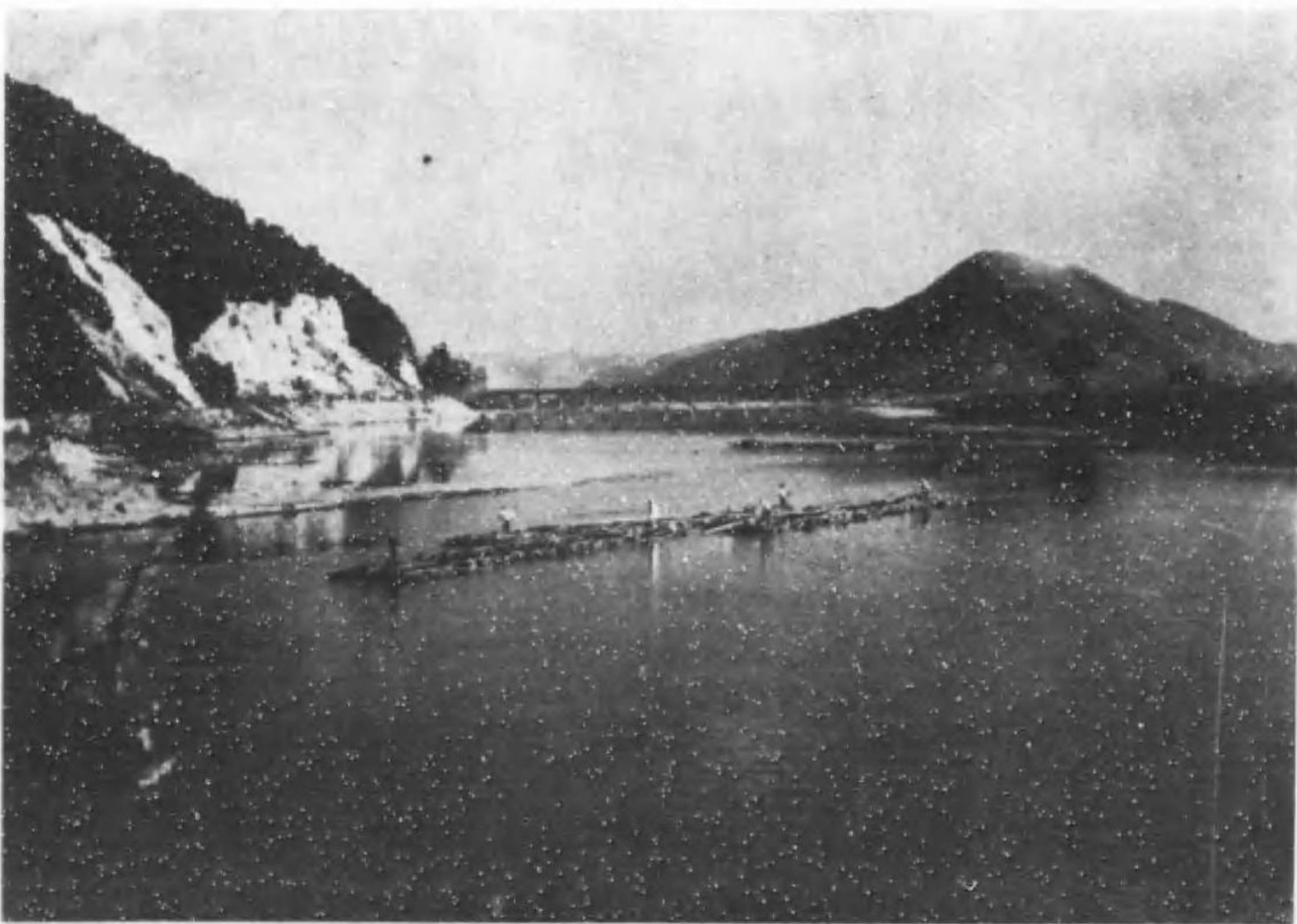
文化の進運に伴ひ木材の用途が開拓され、運搬設備も完全に、幹道も奥地へ奥地へと延びて行く。



木橋運材



森林鐵道運材





—(署林管代能)場木貯—

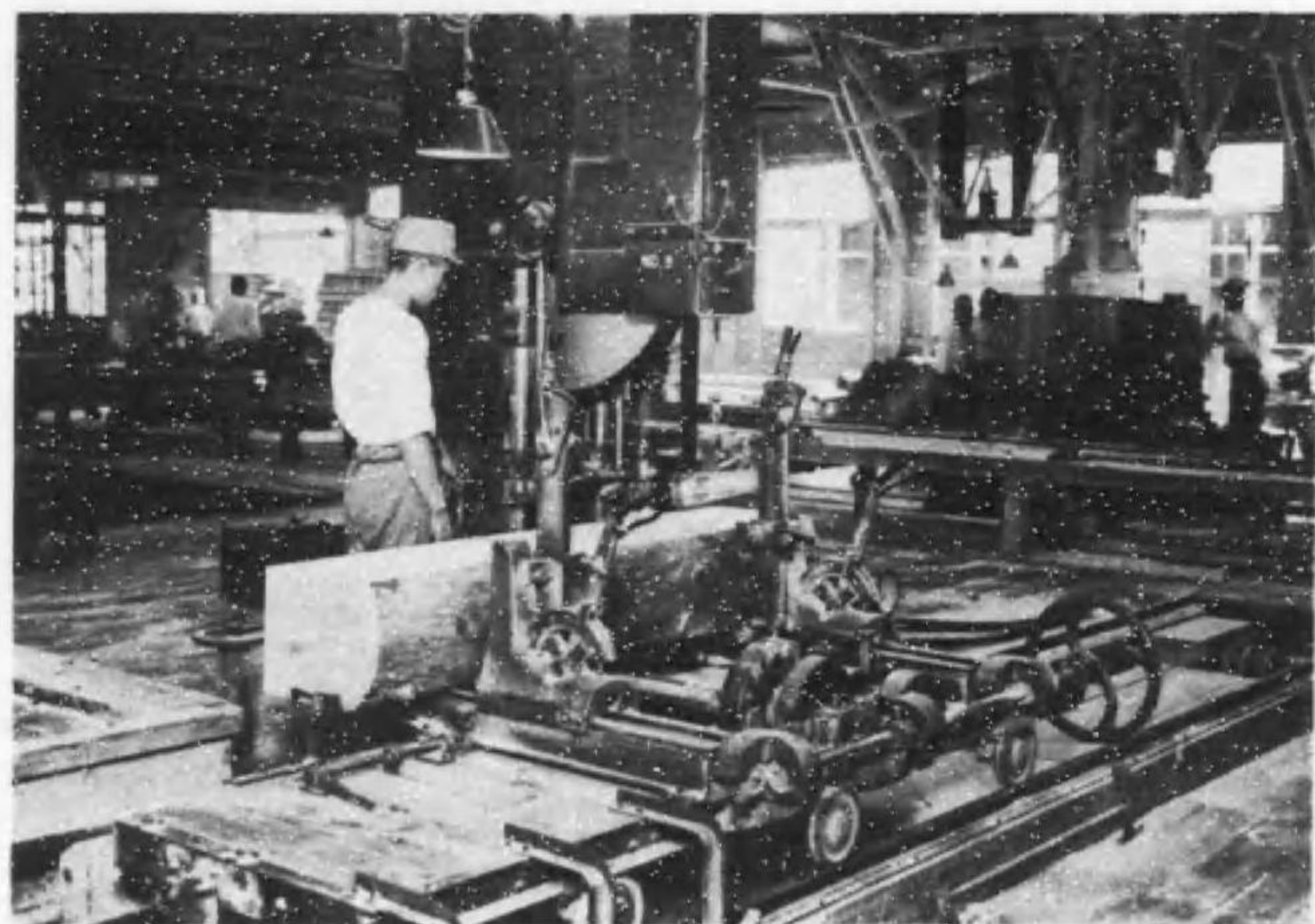
貯木場

山で伐採された樹は、木馬や橋で集材されてから、林道、鐵道、トラック、筏、荷馬車等で、一と先づ貯木場へ……。



—(所材製代能材木田秋)所材製—

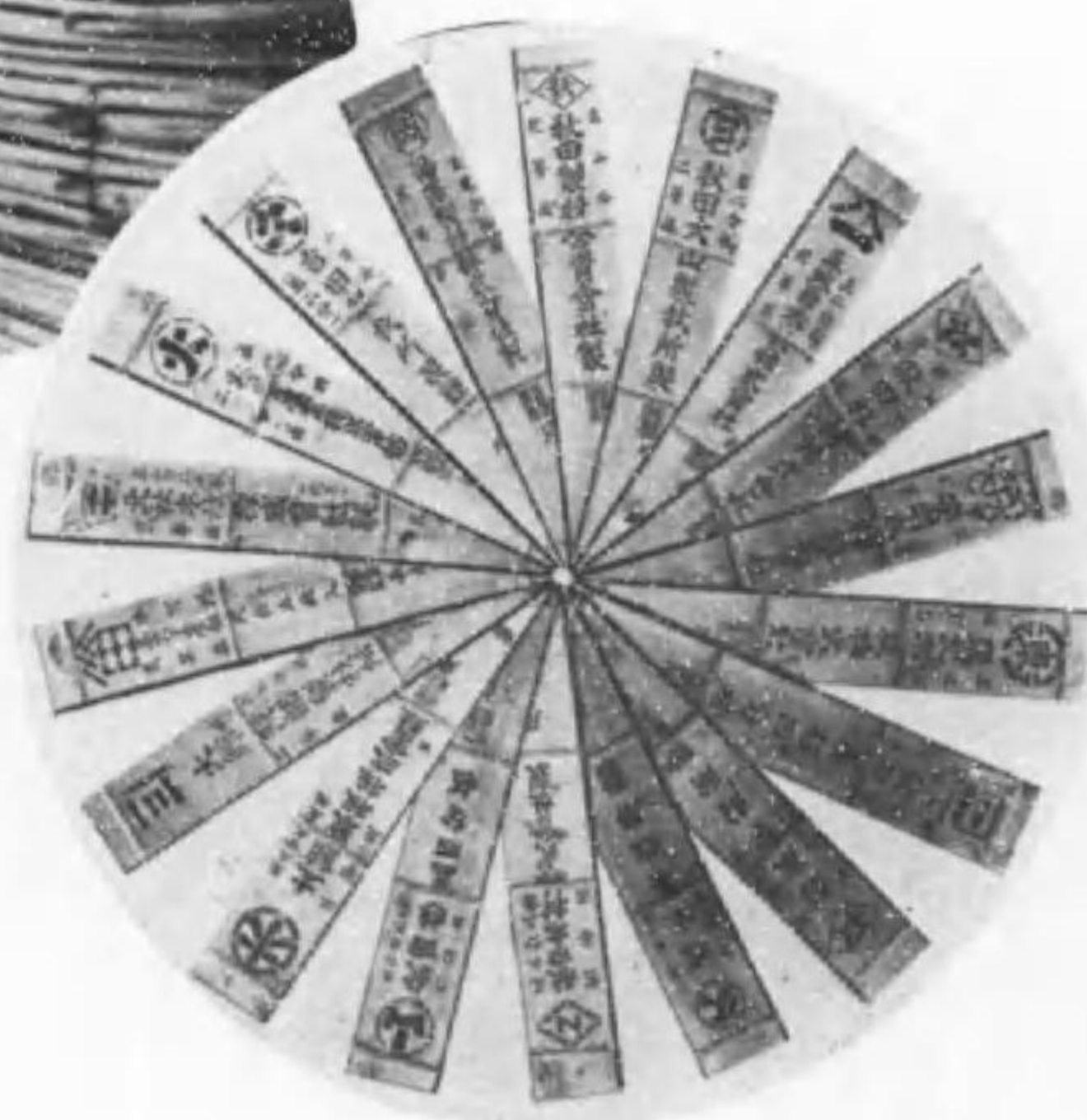
無人帶鋸機械



—械機材製—

本機は其の名の如く、殆ど全部自動的に製材作業を行ひ得る、新種の製材機械で、木材を送材車に取付くる時の外は人手を要せぬ。蓋し現代本邦製材界に於ける、薄板製材には、理想的帶鋸機械である。秋田木材會社の考案設計に係り、同社の製作で、現に同工場で偉力を發揮してゐるが、壯觀無比である。

— 燥乾の板 —



— 板の製品 —

秋田の製材

本縣の製材業は、其の規模の大、設備の完備、技術の優秀を以て聞え、夙に本邦第一と稱され、能代港町を中心とし、東洋一を誇る秋田木材會社をはじめ、大小工場數三百餘、一箇年の資材所要量二百二十萬石、其の製品價格二千萬圓を示すの盛況である。製品は材色鮮麗、木理緻密、弾力に富み、重量軽く、工作容易、挽肌平滑飽減り少、寸法正確分むらの無き特點は他に其の比を見ない。就中板類は最も其の特徴を發揮し、全國需要市場に萬丈の氣を吐いてゐる。秋田縣製板同業組合は、有力組合員を網羅し、製材秋田の宗家であり、縣年生産量の八割を産し、斯業に重きをなしてゐる。近時木材商業組合、製材工業組合の設立の數、漸次増加の傾向にある。惟ふに國有、民有九十萬町歩の大森林を背景とする、本縣製材業の前途は洵に多幸である。



— 送 輸 の 板 —



— 送 輸 の 板 —

お 杉 音 頭

製材、樽丸の産地として、全国に知られてゐる能代港町方面を中心とし、木材生産地方に流行し、調子、踊共に情緒綿々たるものがある。

- 〽 杉は秋田が三國一よ、わしのあなたは、わしのあなたは日本一。
- 〽 お杉可愛や、秋田のお杉、色香素直が、色香素直が見込まれる。
- 〽 木目が細く、色香も見事、好くが無理かへ、好くが無理かへ、秋田杉。
- 〽 佐竹さま、寶の杉を、植えて残して、植えて残して、此の繁昌。



お 杉 音 頭



樽 丸 取 削 り

秋 田 の 樽 丸

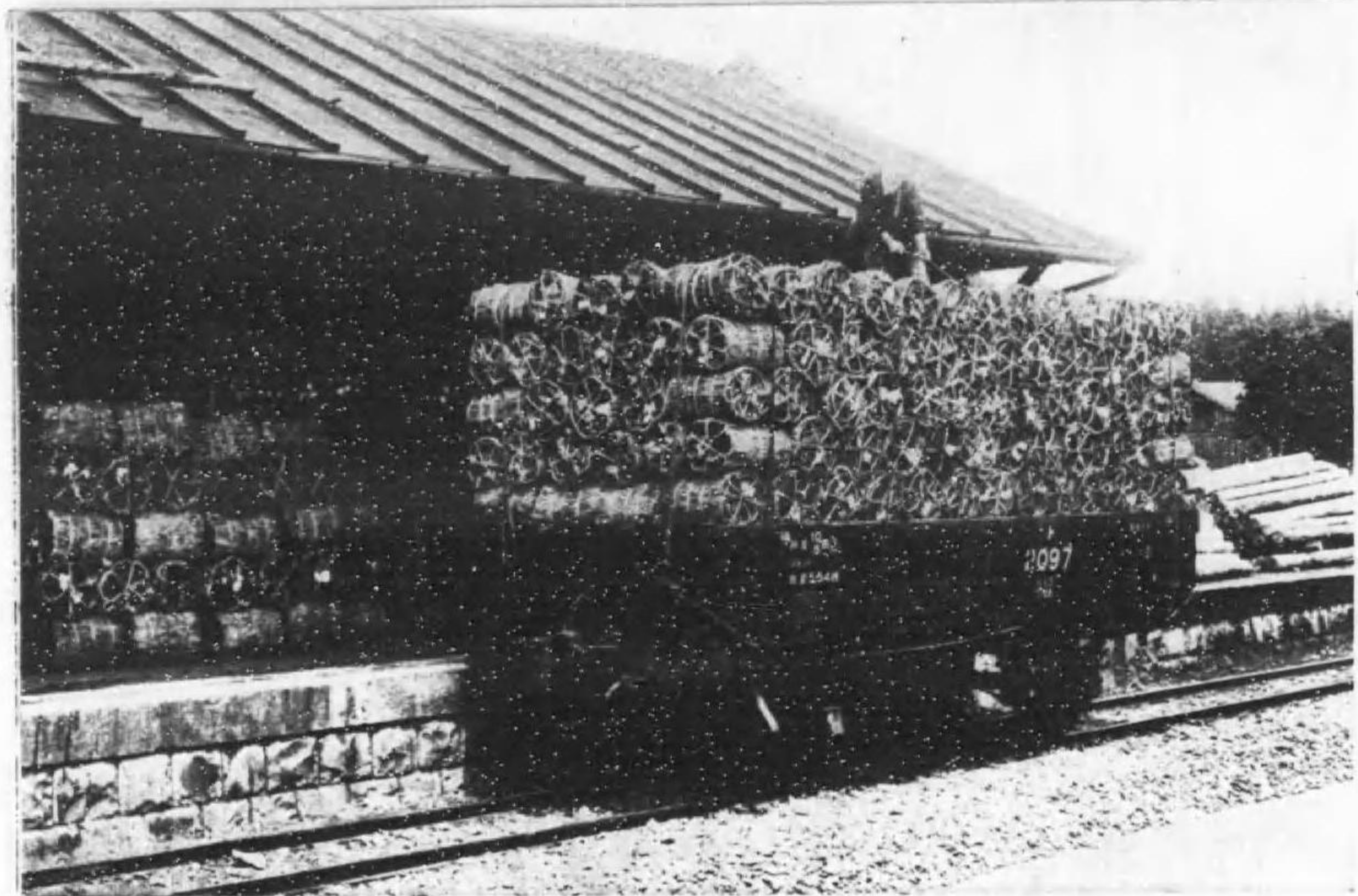
秋田杉樽丸は、特に醤油樽として愛用され、芳しい木香、醸造品の持つ美しい色香の保有、體裁も優れ、而も價格の低廉は、他の追随を容るさない。全国需要量の八割以上の大量を生産し、野田、銚子を主として全国に亘り、満鮮にも移出、業界の權威である。秋田縣樽材同業組合は、縣内唯一の有力團體で、斯界に貢献してゐる。



— 樽 丸 取 削 後 —



樽 丸 製 品 結 束



— 木炭の輸送 —

— 塗慶春代能 —



川連塗器 縣立川連漆器試験場の所在地、川連町の名産、通稱川連塗と呼び、宇大館は本場、秋田縣特産品の王座、年産五十萬圓、日用品より工藝洋器を製作、販路海外に及ぶ。能代春慶塗 いにしへ工人海に舟を浮べて塗りしといふ。秋田音頭に唄はる、能代春慶塗は、寶永年間二百三十餘年前の創業、石岡一家秘傳の珍品、本邦漆藝界の白眉、高雅彩工は他に比類がない。

漆の大樹 本縣西馬音内町鹿内存立、根廻り十一尺四寸、胸高幹周九尺四寸五分、枝下幹高九尺五寸、本縣隨一の老木、國産漆の貴重性は年と共に深められて来た。本縣年産八百五十貫、需要量は五千貫、將來自給自足を目標とし、漆の栽培増殖に縣林務課では、各般の計畫の下に、着々事業を進めてゐる。

櫻皮細工 櫻皮の持つ特性を利用した工藝品、俗に樺細工と稱す。特有の優雅と光澤は、裝飾品として特た實用品として愛用され、秋田名産として好評を博してゐる。年産二十萬圓。

秋田の漆器

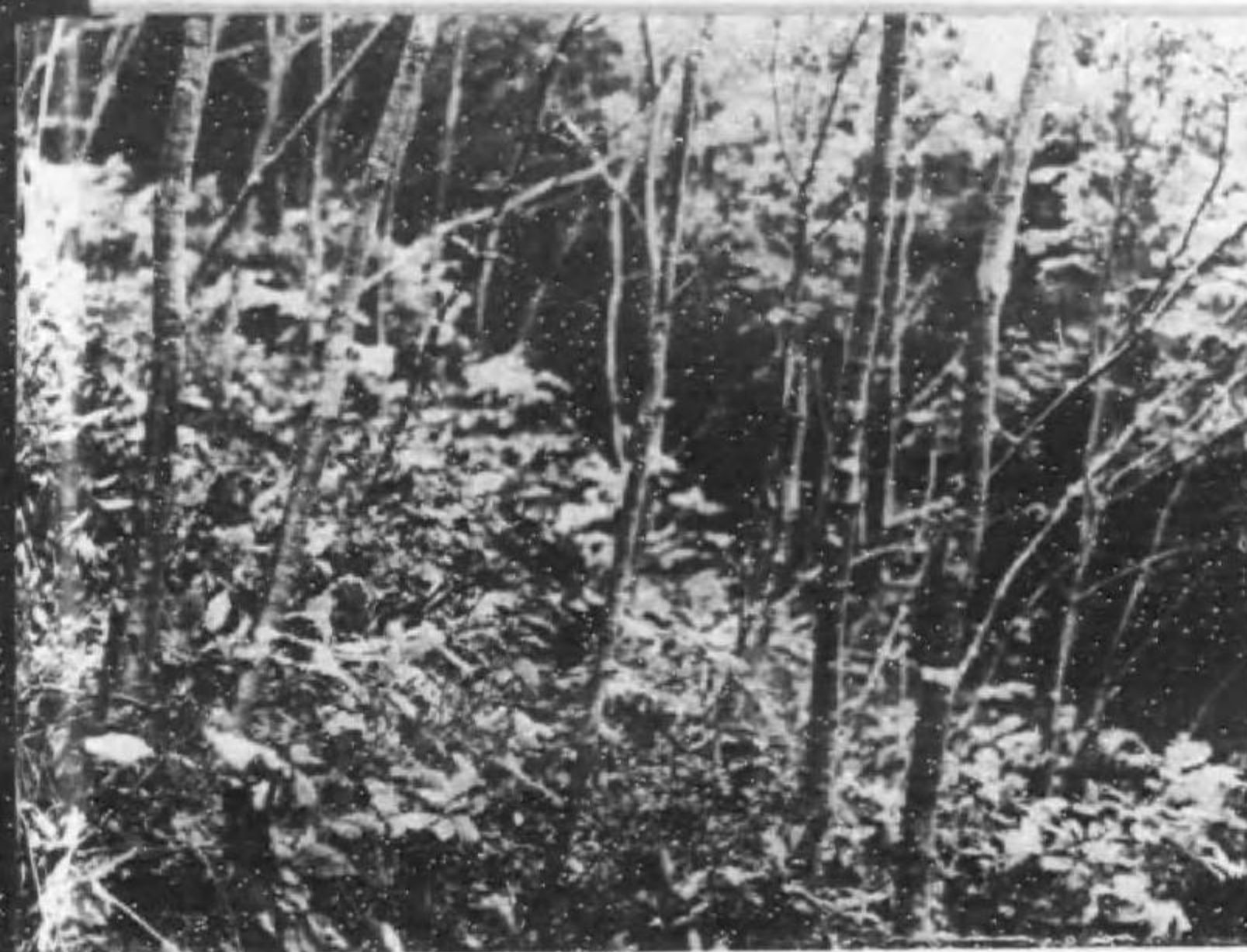


— 樹大の漆 —

— 器漆連川 —



— 工細皮櫻 —



— 林炭薪 —



— 炭白の田秋 —

秋田の木炭

世界第一の優良木炭を産する本邦の中でも、秋田白炭は質に於ても量に於ても、斯界の重鎮である。年産一千七百萬貫、其の約四割は東京市場其の他に移出され、好評を博してゐる。なよくと彼方の森に上る煙、それは生活必需品たり、工業用として、又ガソリン代用として、重要役割を負擔する尊ぶべき炭焼く窯の煙である。

縣營検査も徹底し、生産の増加に邁進してゐる。木炭と共に、炭材林の改良は刻下の急務と認め、皆伐の悪弊を矯め、擇伐法に改めしめ、不良木の除伐手入等を奨励、効果を収めてゐる。

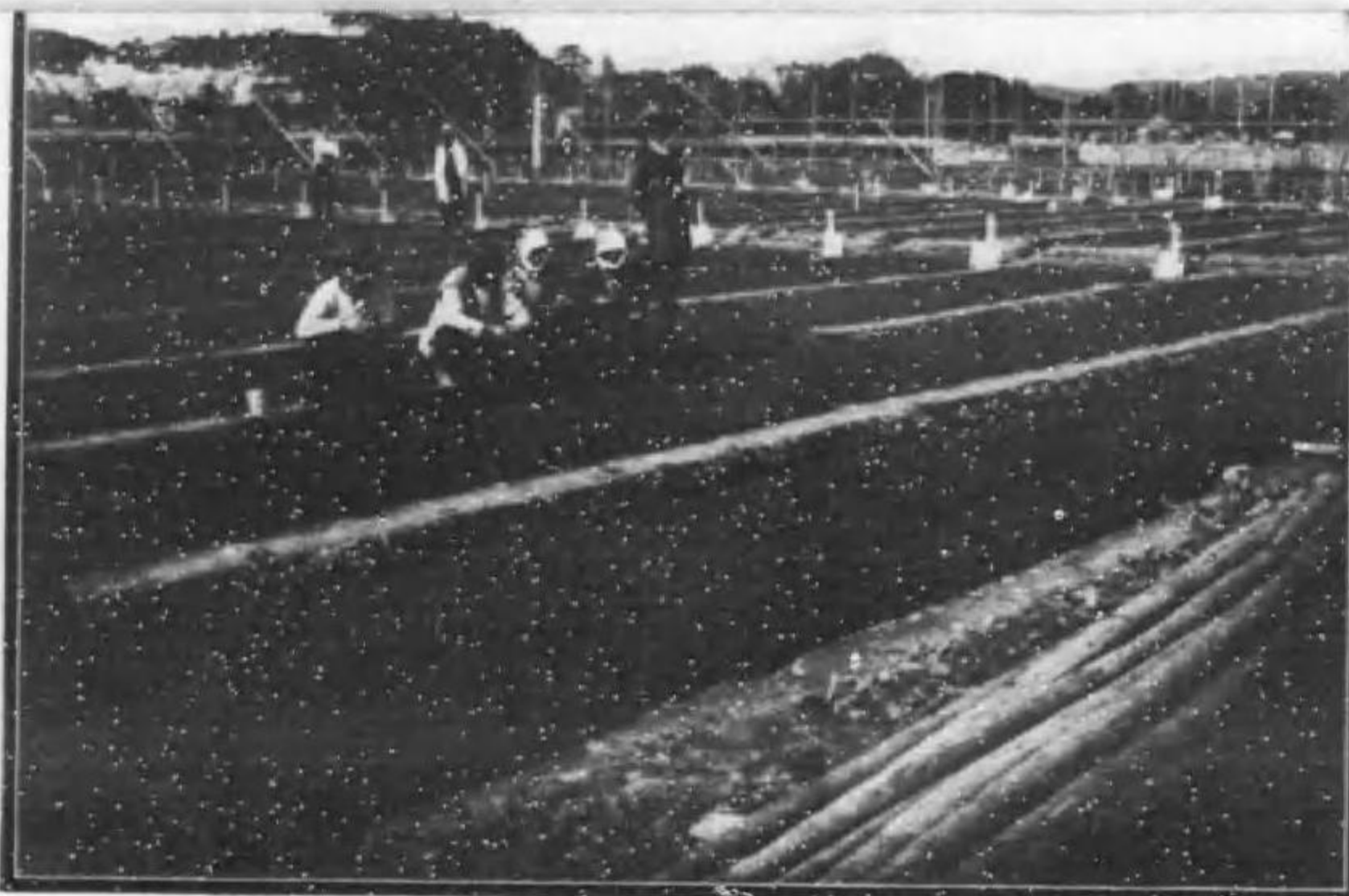
木炭同業組合は各郡全部に設置、其數九、更にこれが縣聯合會を置き、縣木炭検査所と提携、木炭業の向上に努力し成績観るべきものがある。



— 送輸の炭木 —



— 炭焼く煙 —

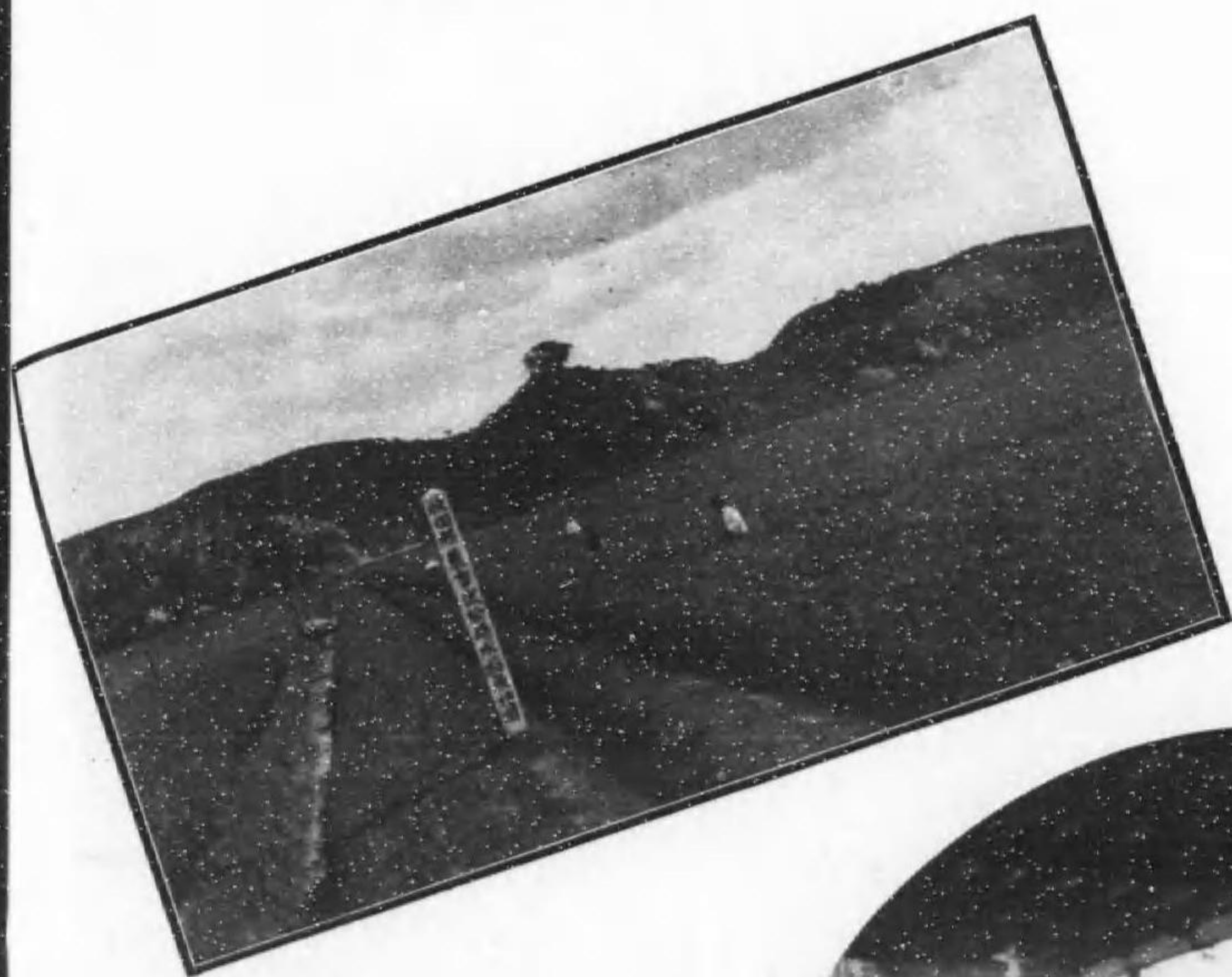


— 代 苗 稻 水 —

秋 田 米

適度の粘質、舌ざわりも良く、満點の秋田米は、年産二百二十萬石、味附け米として全國に冠たる名聲を博し、本縣農産の大宗であり、全國第五、六位の重鎮である。代表品種は縣産米の七割を占むる陸羽一

— 水 稻 採 種 圃 —



— 秋 田 米 田 荷 造 り —

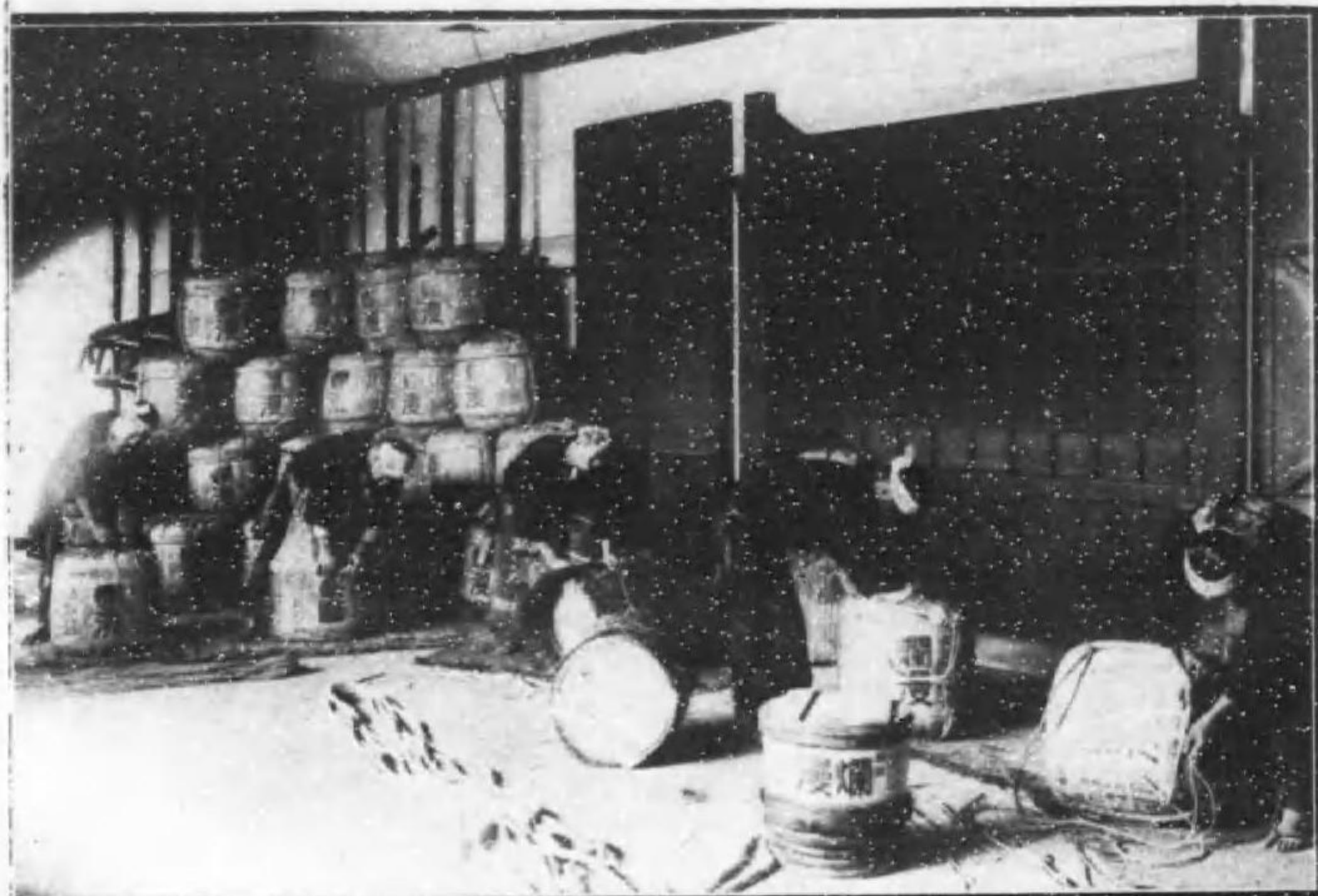


三二號、本縣花館村所在、國立農事試驗場陸羽支場（現在奥羽試驗地）苦心の品種である。栽培原種は、秋田農事試驗場の原種圃より、各地共同採種組合を經由、各農家に配給す。年移出量百萬石。仙北米、地廻米、本莊米は各地方の代表銘柄、共に京濱地方其他の消費市場を靡捲しつゝ、あるの状は、壯快である。生産及移出米の検査は、縣營を以て施行。

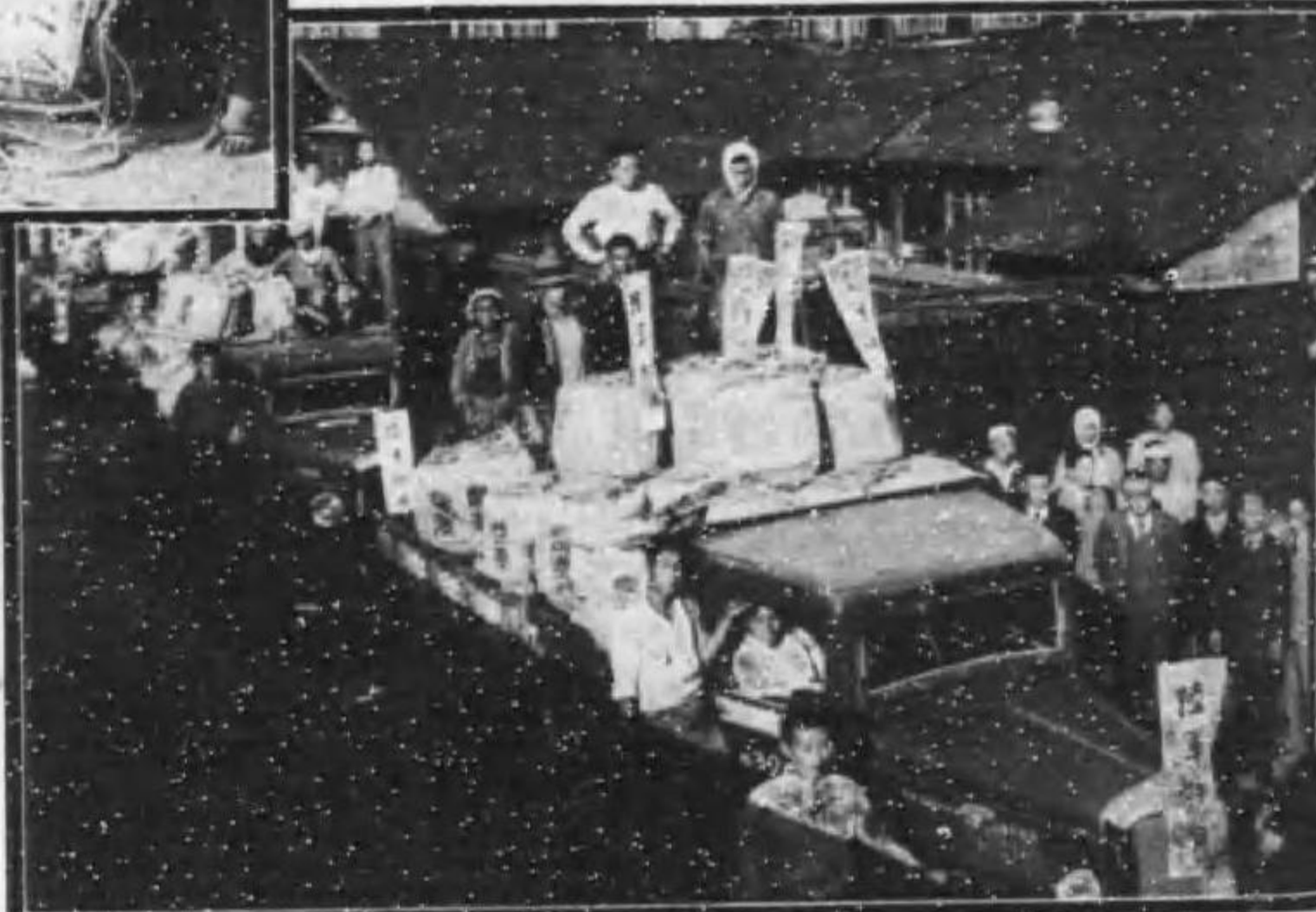


秋 田 の 酒

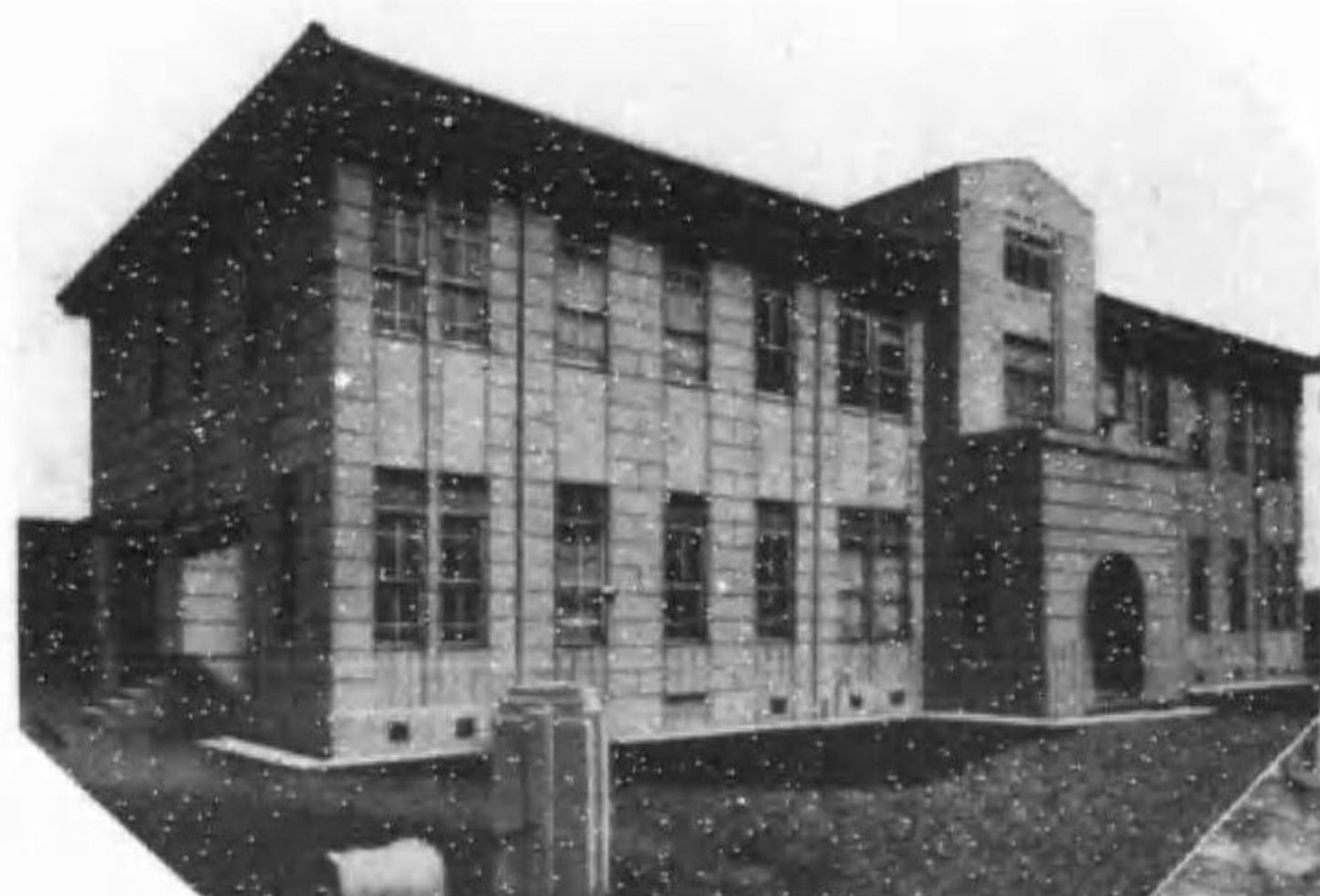
適順なる氣候、純良なる水質の天恵に加へ、優良豊富なる秋田米、洗練された尊い技術と、斯界の權威者を指導者に持つ秋田の酒は、芳醇として業界に稱へらるゝのは當然である。秋田の酒は清酒として具備すべき條件の全般を有してゐるが、特に飲み心地の良いのが定評となり、一般嗜好界から日本一と絶讃されてゐる。



— 酒 の 桐 包 —



酒 の 發 賣



— 秋 田 縣 釀 造 試 驗 場 —

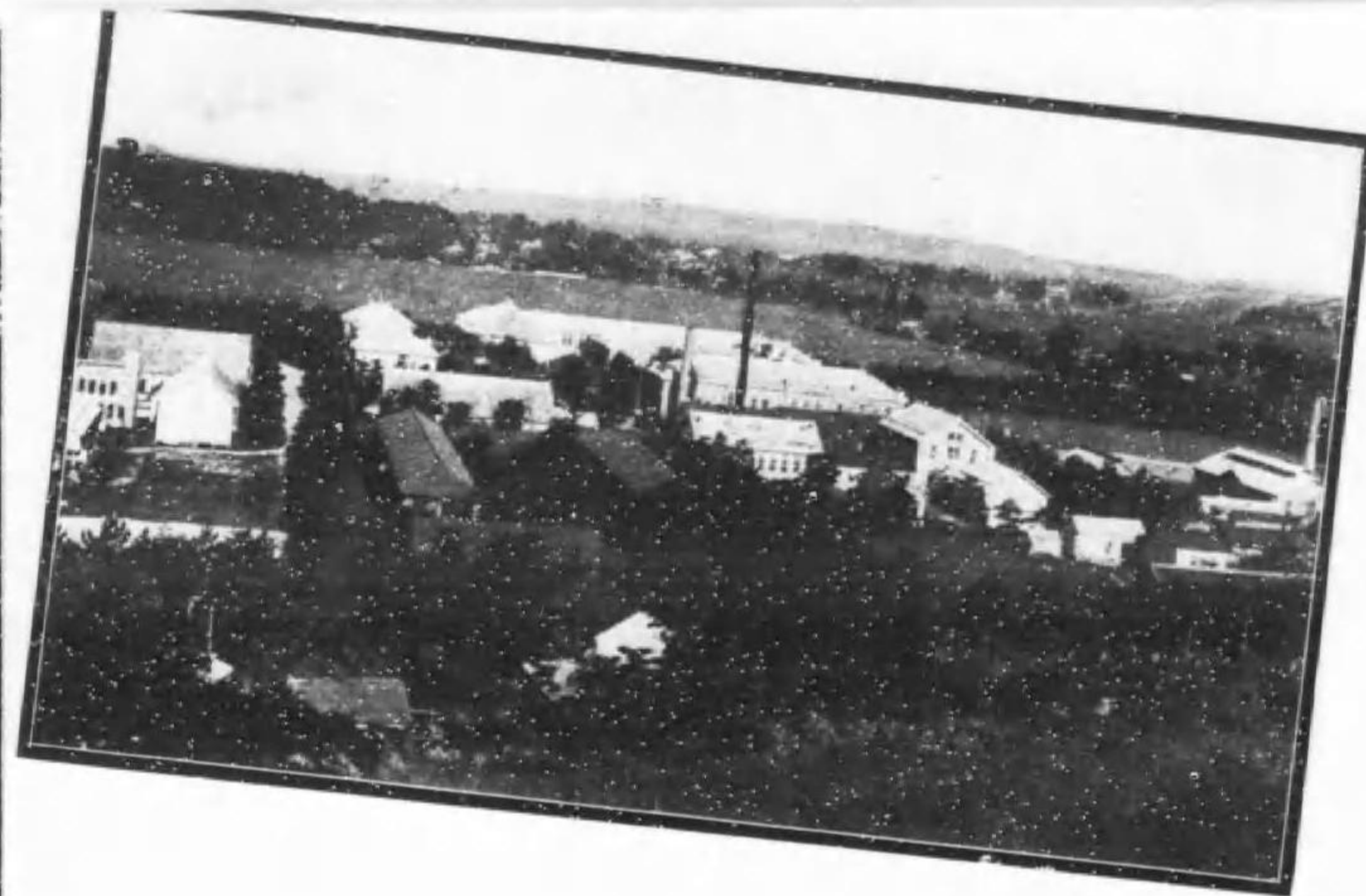


酒 の 陣 列

酒 の 秋 田 音 頭

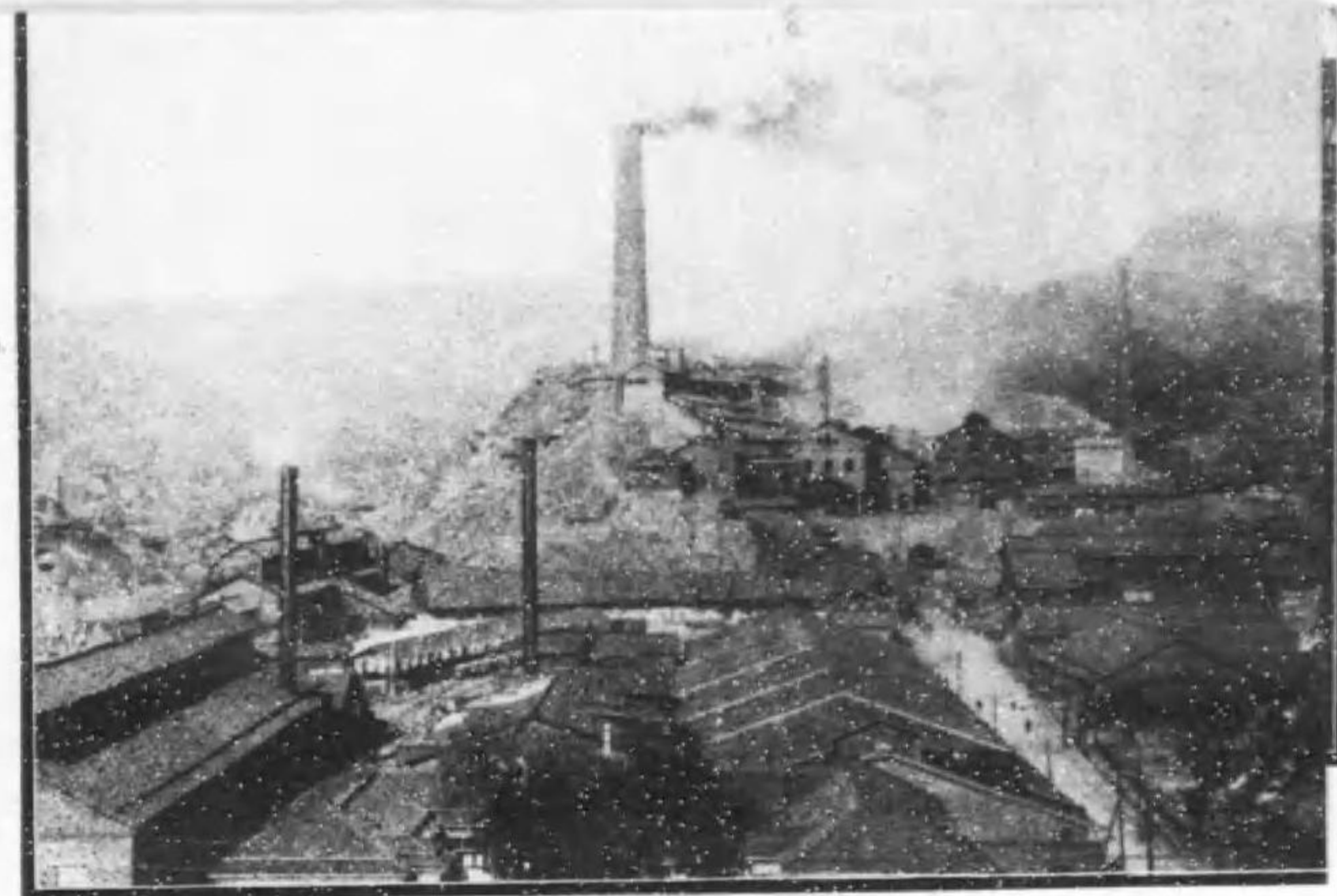
花岡青陽作

〽 意地で通せば、裁判さたにも、なればなるものだ、まるくをさまる、手打酒など、おめがたおべてたか。〽 酒コに酔つても、心コたしかは、男のたてまいだ、アメリカあたりの、へろ／＼やつらと、一所にしてけしな。〽 酒コ飲む人、心コさつくり、物ごとわかりがいい、酒コも飲まねで、くよくよするやつあ、おらあ見たくもね。〽 若しや此世に、酒コが無かたら、おめがた何とする、花や紅葉が、なんほきれいでも、心コ引立たね。〽 ほどよく飲んで、ほろりと酔ふのは、からだに妙樂だ、強い心と、はりきる元氣で、御國が大繁昌。



— 秋田鐵山專門學校 —

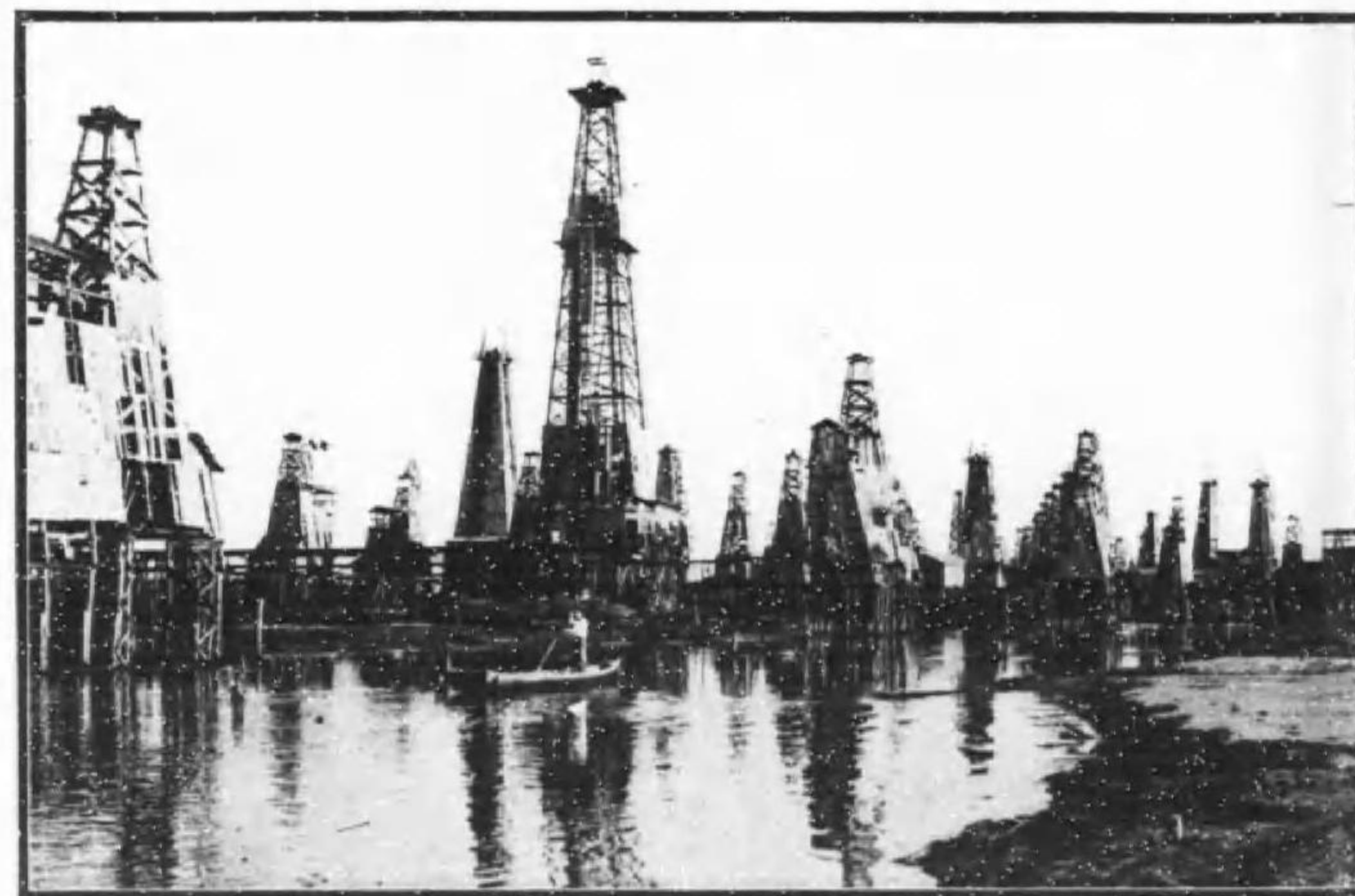
してゐる。
更に偉觀なことは、八橋、旭川、黒川、由利院内、道川、其の他の各油田の一大進出で、斷然他府縣を壓倒し、今や本邦産油量の大部分は、秋田の占むる所となつた。就中、秋田市内、雜物川畔の八橋に林立する採油槽の壯觀は、産業秋田の力強い表徴である。



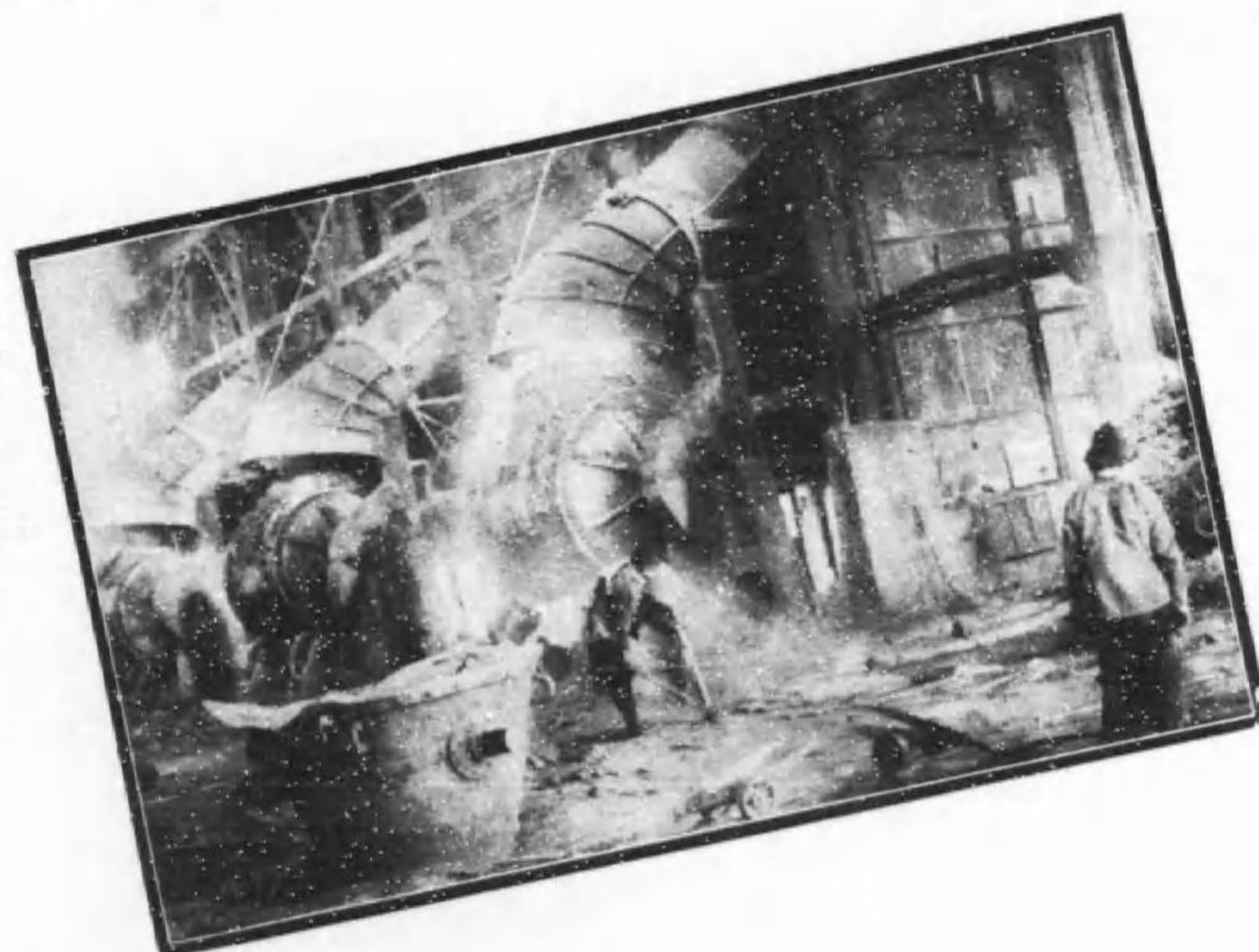
— 小坂鐵山 —

秋田の鑛業

鑛業秋田の地位は、全國第二三位を下らず、銅、石油では方に堂々一位を占めてゐる。支那事變と共に縣内鑛山の活況著しく、重要物産の首位を制し、東洋一とせらるゝ小坂を初め、尾去澤、花岡、阿仁、八盛、荒川、吉乃、院内其の他の既設鑛山と共に、新興各鑛山も、大直利を現出



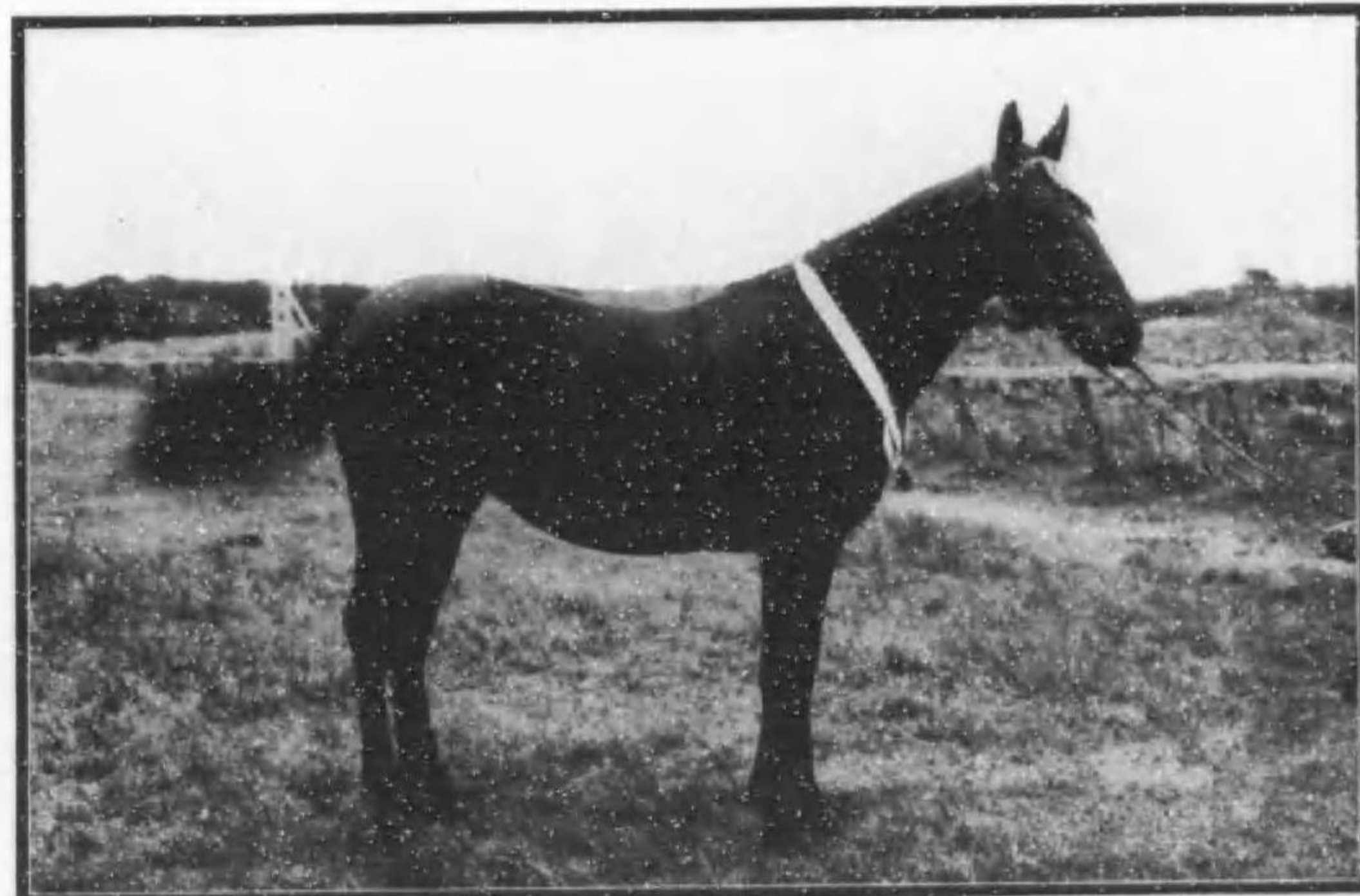
八橋油田



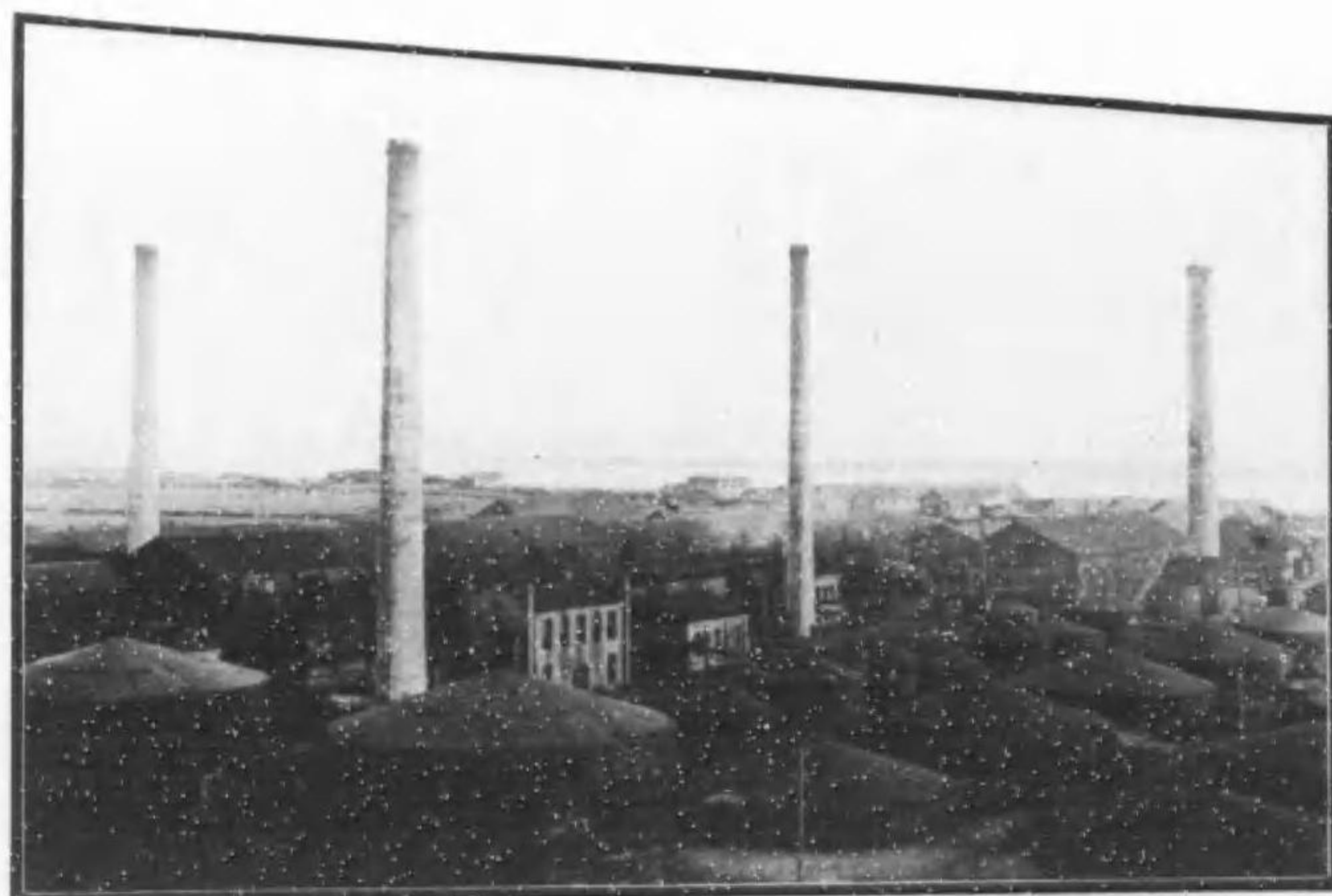
小坂鐵山コンパライター

秋田馬

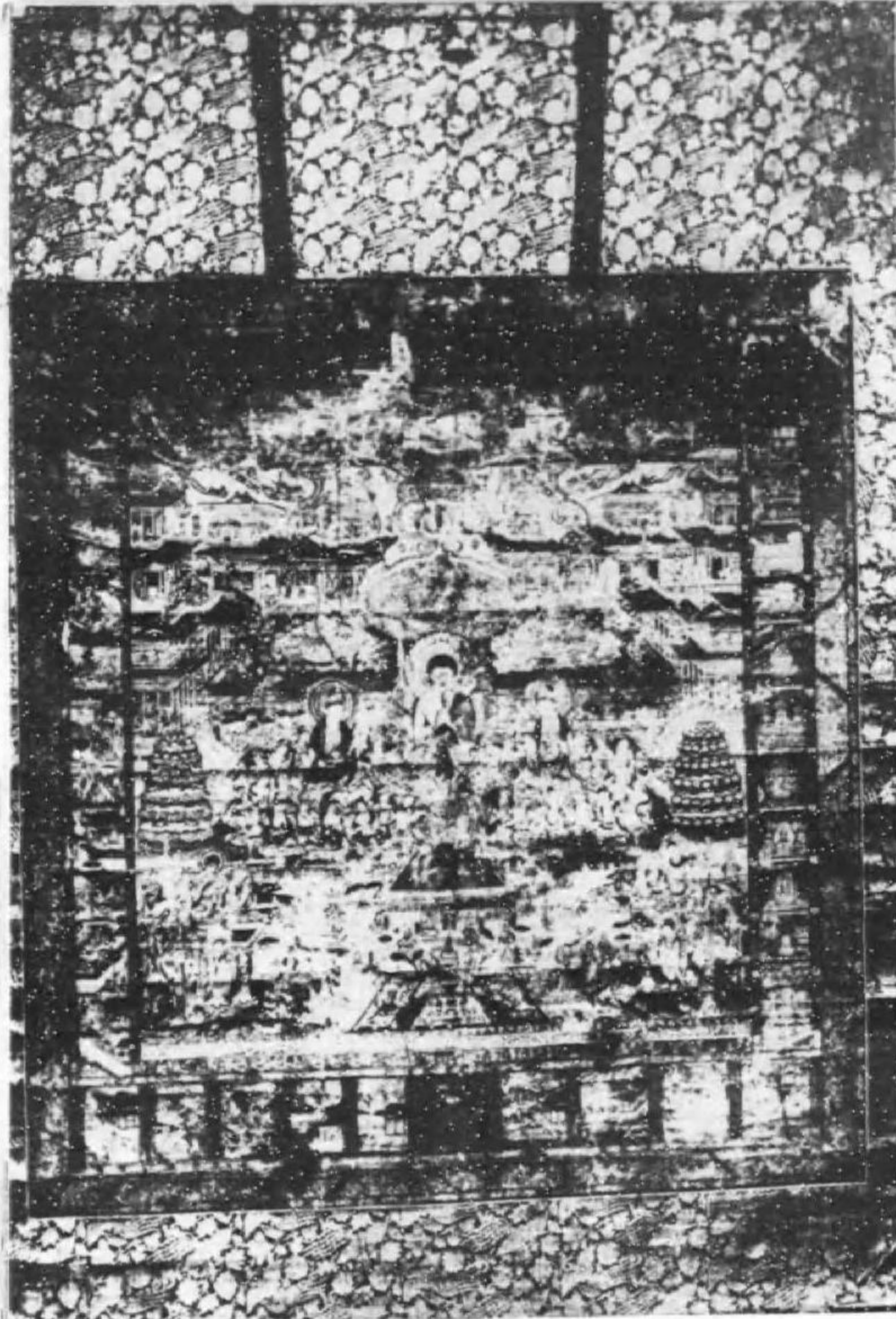
傳統に輝く秋田産馬は、畜産業中首位を占め、幾多の變遷と經驗を基とし、時代の要求に鑑み、偏重せざる血種の配合に努め、中間種系に統一、今や體幅、骨量に富み、重厚なる所謂本縣獨得の有能鞍馬を産出、聲價愈々揚り、軍馬に供出する外、全國的に需要せられつゝある。



— 秋田馬 (秋田縣畜産組合) —



日石土崎製油所



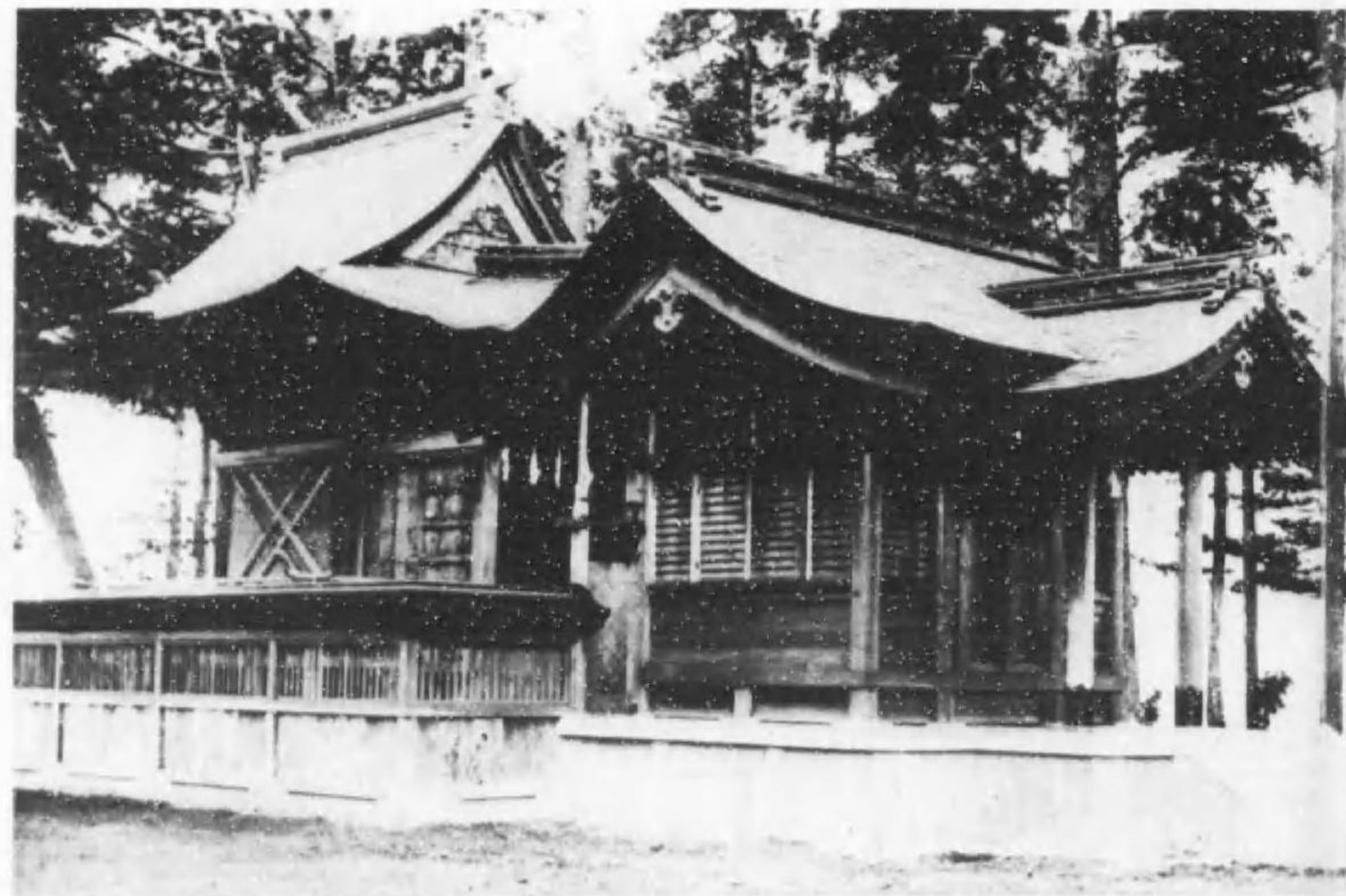
— 羅陀曼麻當 = 寶國 —

角間川町淨蓮寺住職高橋海壽師の所有、同町北島精一氏の保管。西方彌陀の淨土を畫いたもので、觀無量壽經所説の圖顯で、絹本着色幅、堅四尺五寸、幅四尺六寸、鎌倉初期の作者未詳。

國寶 當麻曼陀羅

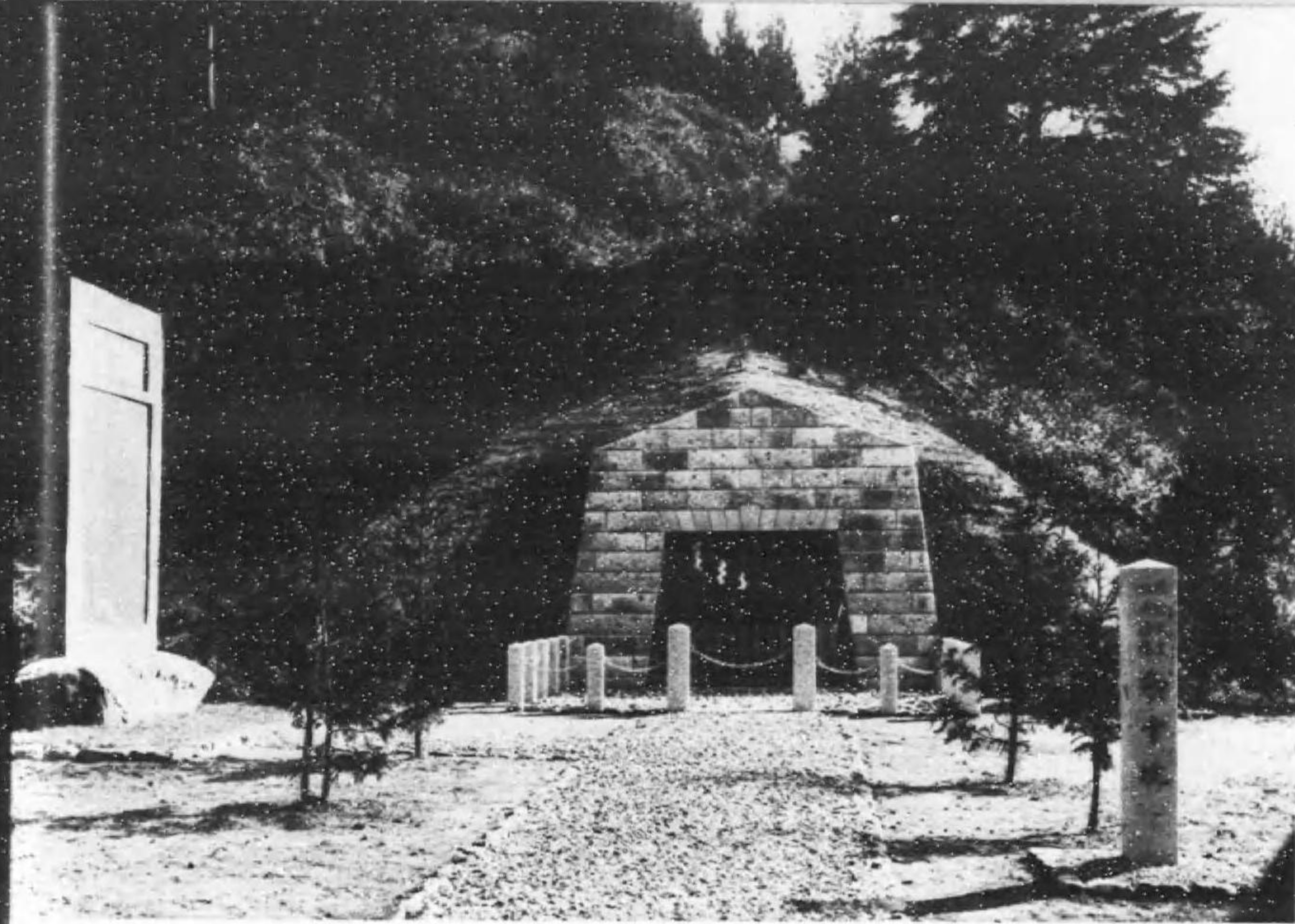
史蹟天然記念物を尋ねて

— 社神王四古 = 築建寶國 —



國寶 古四王神社

縣南大曲町高畑に建立の古四王神社は、本縣唯一の國寶建造物。元龜元年（三百六十餘年前）卯月、飛騨工匠の築造と傳へられ、社掌高橋友枝氏の管理。其の奥殿は建築上類例なく、足利、桃山時代の過渡期的興味あり、東北に於ける古建築中屈指のものである。

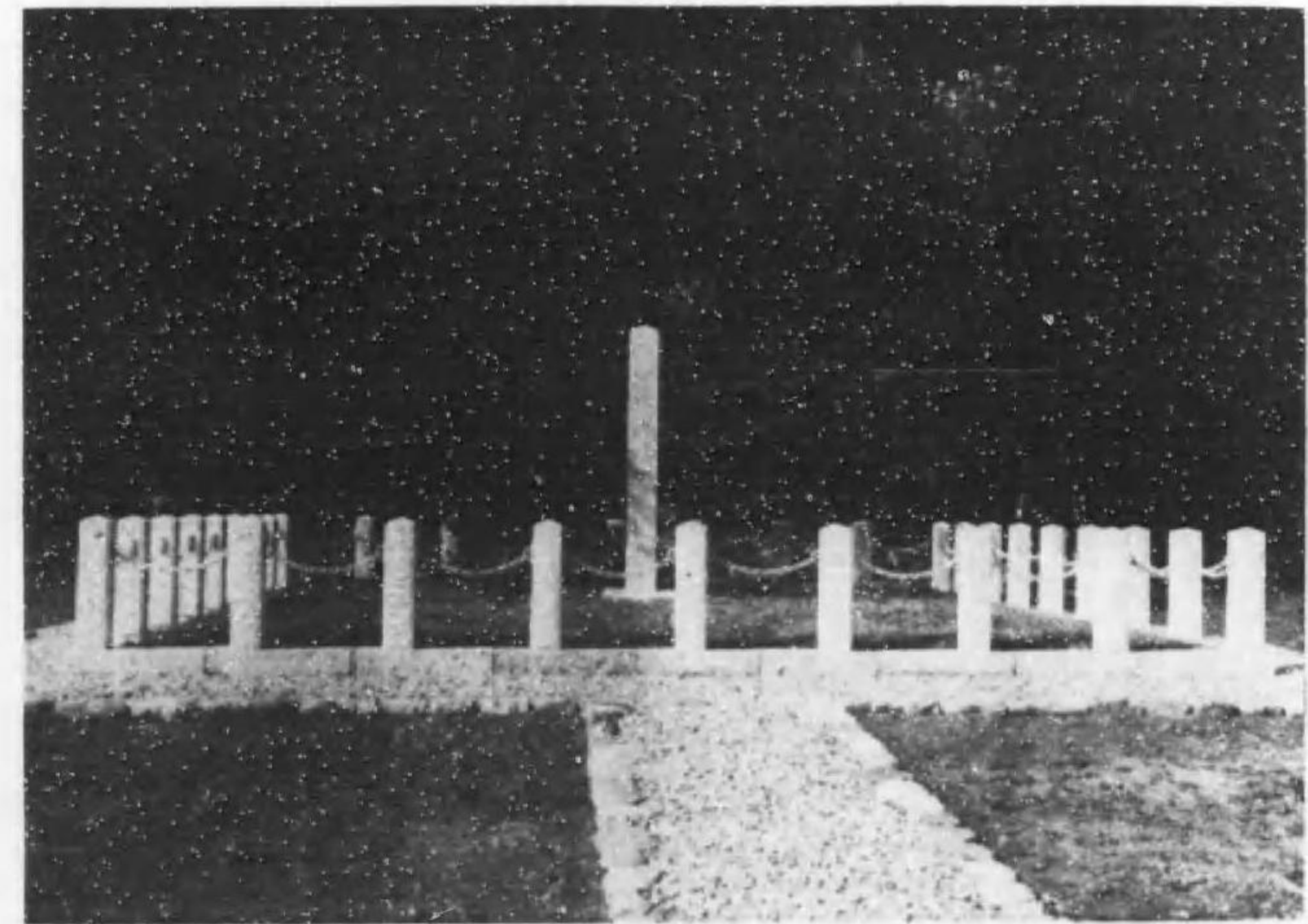


— 坑 幸 御 —

明治天皇行幸所院内御幸坑

附 院内鑛山分局址

指定史蹟、御幸坑は、院内町院内銀山に在り、明治十四年御巡幸九月二十一日臨幸あらせられた聖蹟。古河家經營の鬱蒼たる杉の山々に圍まれた映えある坑口は、完全に保存され、拜する者をして當時を偲び、自ら襟を正さしむるものがある。院内鑛山分局址の聖蹟も附近である。
御幸坑前記念碑の碑文は、鍔山王市兵衛翁の令嗣男爵古河虎之助氏の謹撰、上野帝室編修官の謹書に係り、由来を録して餘蘊なく、言々句々、感激が溢れてゐる。
管理者……古河林業部。



— 址局分山鑛内院 —



— 象 湯 古 圖 —

佛、松島に似かよひて又異なり
 ……と芭蕉翁が「奥の細道」で讚
 美した象湯は、九十九嶋、八十八
 嶋の昔を見る術とは無けれども
 今尚ほ青田に残る嶋々、松吹く風
 も心に染みて、そとろに往古の風
 光も偲ばれる。附近一帯は天然記
 念物指定、象湯町の管理。こゝに
 ある名刹紺満寺には、幾多の珍什
 寶物が秘蔵されてゐる。
 象湯の櫻は浪に埋もれて花の上漕
 ぐ海上の釣舟 西行法師
 松島や雄島鹽釜見つゝ来てこゝに
 あはれを象湯の島 新鷲聖人
 象湯や雨に西施がねぶの花 芭蕉
 汐越や鶴はきぬれて海涼し 同



— 象 湯 —

象 湯



— 紺 満 寺 —

忠犬ハチ公で一躍天下に名を知られ
 た秋田犬は、純日本犬としては現在に
 於ける唯一の貴重なる存在である。本
 縣大館町愛犬家に依り、秋田犬保存會
 が組織され、純種保続に努力してゐる。
 秋田犬の特徴は、大きい頭、太い頭、
 堂々たる胸、氣持のよい程キリツと巻
 いた尾、どつしりと伸び、した四肢、
 直な背の線、少しく釣り上つた腹部の
 線、頑丈な骨格、發達した肉體、剛健
 素朴、特に主人に忠實なことである。
 天然記念物指定。

秋 田 犬



秋 田 犬



— 拂 田 柵 —

本縣高梨村拂田、千屋村本
 堂城剗地内に存する、千有餘
 年前の舊蹟。史蹟として保存
 を指定せらる。拂田柵は、古
 き柵の形式と、城郭觀念の複
 合に依り築造された、我が國
 獨特の木材城壁で、其位置、
 沿革等より觀れば、之と等し
 き遺跡は他に類例多からずと
 され、斯る顯著な発見は、
 奥羽拓殖史上に、一大光明を
 投じたものである。
 指定面積
 民有地四十町四反歩
 高梨村の管理

拂 田 柵



— 拂 田 柵 發 掘 物 —



— 西 沼 と 金 澤 の 柵 陸 —

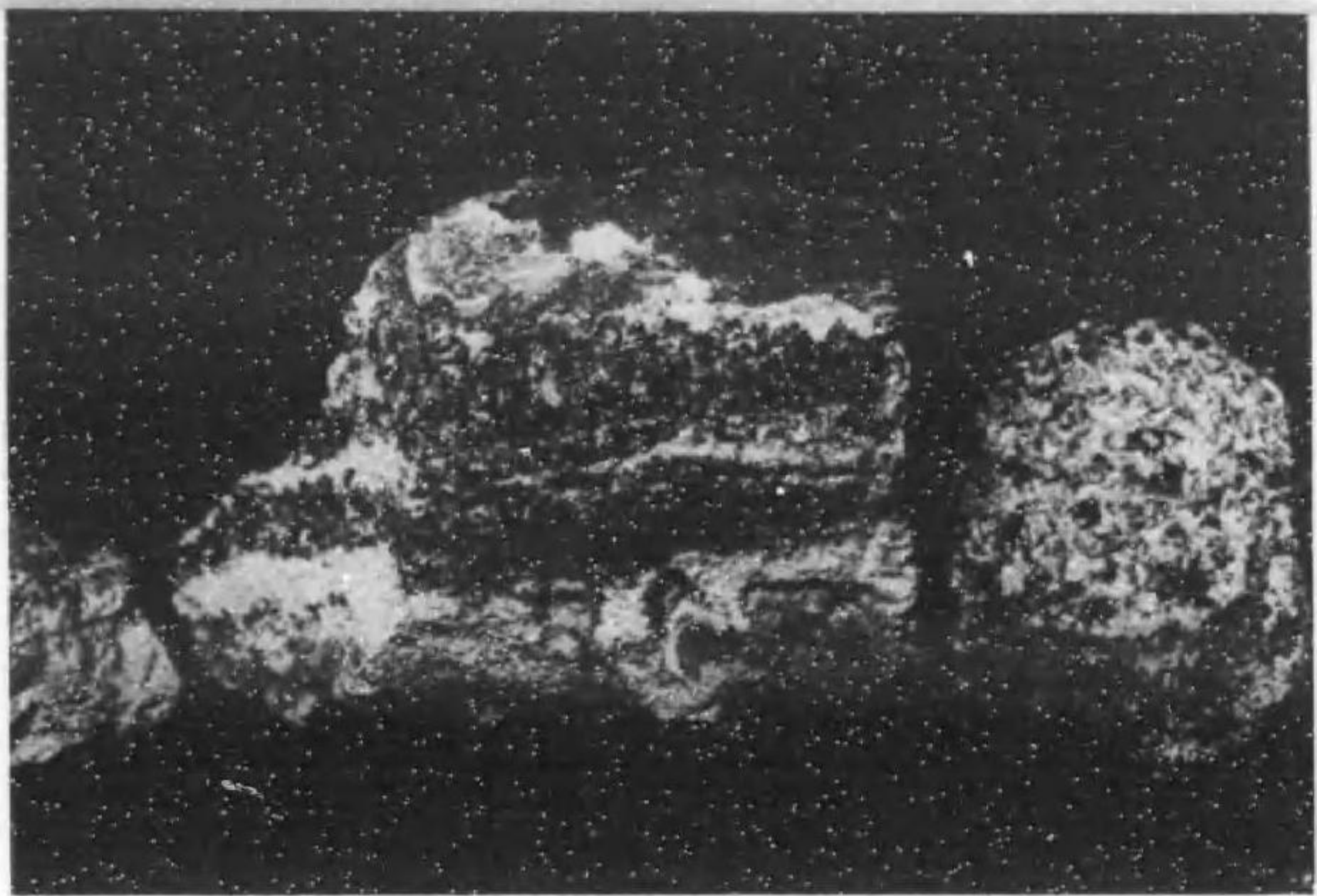
金 澤 の 柵

後三年の役と共に、金澤の
 柵は、古蹟地として全國に名
 高い。樓閣は當時灰燼に歸し
 たが、本丸其の他附近一帯に
 亘り、今尚ほ九百年前を偲ぶ
 ことが出来る。柵には縣社
 八幡神社が祀られ、金澤町の
 鎮守となつてゐる。
 八幡太郎義家が、雁の亂れ
 に伏兵を知り、多大の戦果を
 収めた西沼は、柵の附近で
 ある。



八 幡 神 社

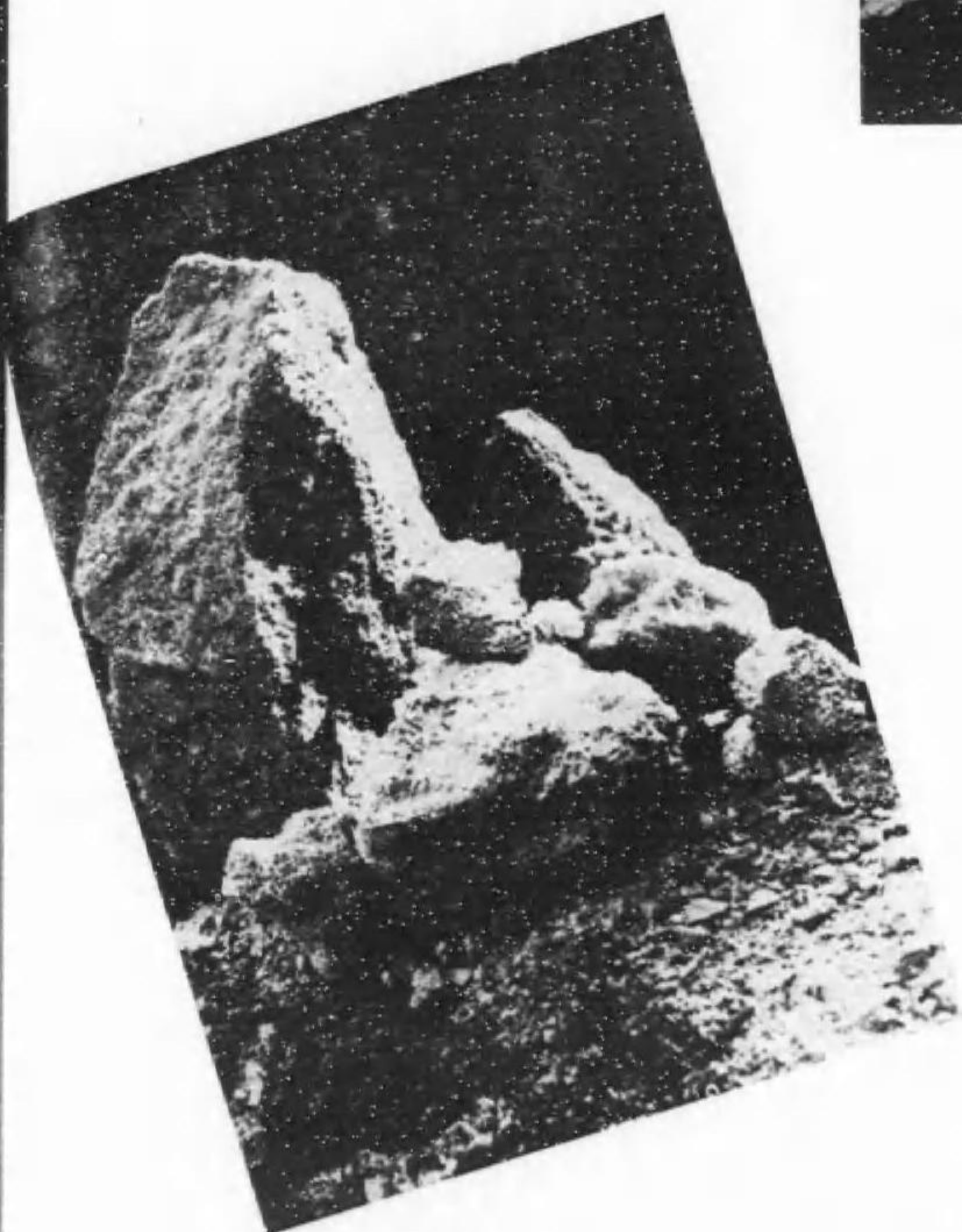




— 北 投 石 —

北投石

田澤村玉川温泉附近に産し、本邦中該石を産するは他に臺灣北投温泉のみといふ。珍奇なる射光性礦物、學術研究上貴重資料とされてゐる。天然記念物に指定。



— 蛤 状 矽 石 —

錐状矽石と噴泉塔

錐状矽石は、本縣秋ノ宮村稻住温泉附近、山居澤の溪谷に産し、魚卵の如き形を呈せる玉體で、温泉沈澱物たる矽華の一種に外ならぬ。本石は世にも稀たる珍石で、鑛物學上價值が多い。噴泉塔は、温泉噴出孔附近に、多量の沈澱物を堆積、漸次丘状の高層を形成するに至れる矽華で、高さ二十尺以上に及ぶものがある。土地の歴史と、鑛物の成因を知る價值が大である。錐状矽石同様稻住温泉附近に所在し、共に天然記念物指定され、稻住温泉主押切永吉氏の管理。
○小坂町桐内所在噴泉塔も記念物指定である。

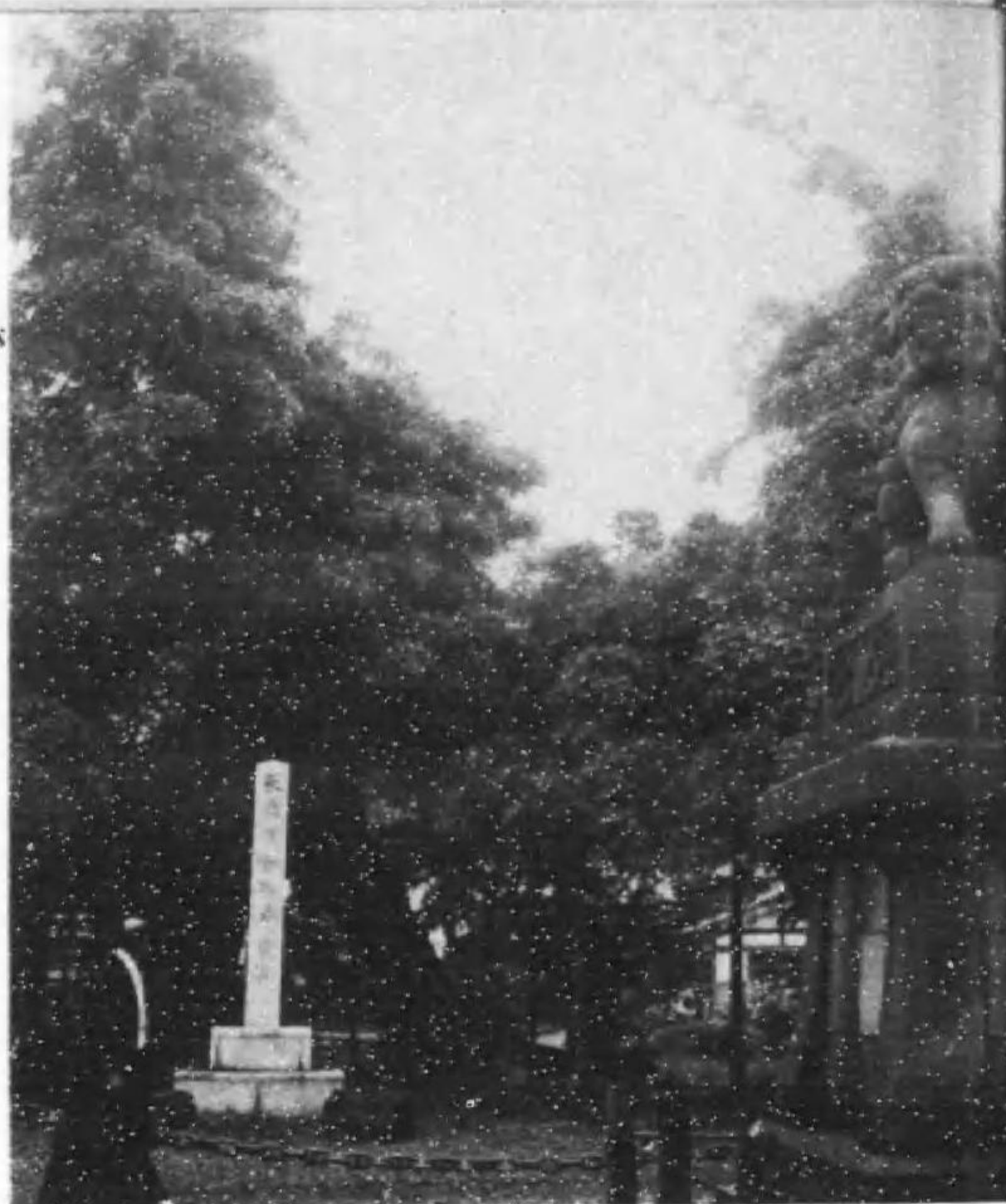
長走風穴高山植物群落

化物屋敷とされて居た、矢立村宇長走地内風穴地域は、高山植物群落として天然記念物に指定された。平地の高山植物の驚異である。
『三好博士は説く……高山植物の發生は、氣温の低下は必要條件でない。地表の温度即ち地温さへ低下して居れば、たとへ平地でも高山植物が發生する。』この長走植物群落は、地温が植物の生態に影響する適例として保存の價值が大きい。盛夏八月中に外氣三十三度でも、長走風穴の地温は僅か十度に過ぎず、地中は〇度の處もある。



— 噴 泉 塔 —

高山植物



— 神 代 藤 —

神代藤

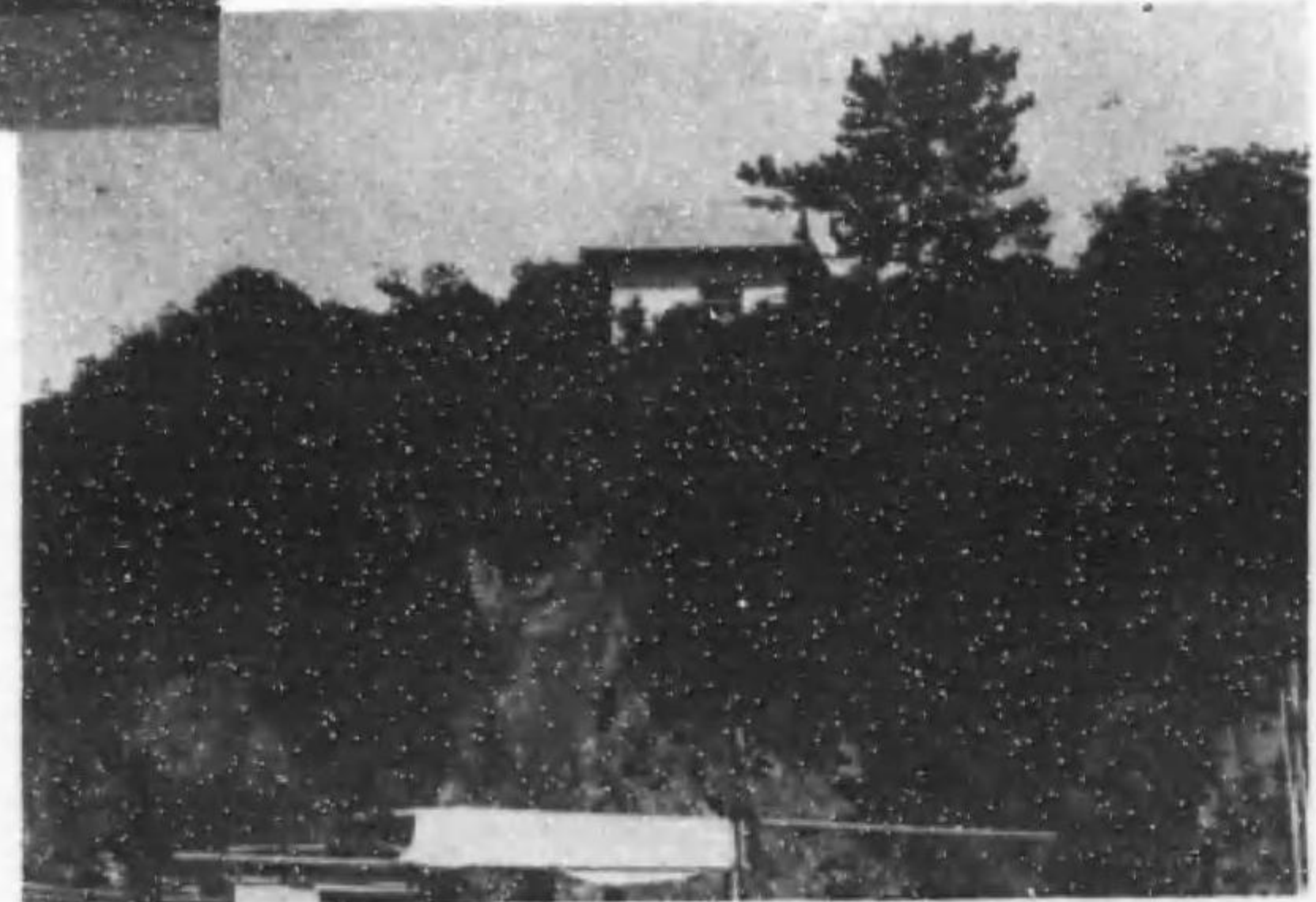
紫藤の老木樹で、全國稀有の神代藤は、能代港町縣社八幡神社境内にある。花の頃ともなれば、棚より垂下せる紫きの房は、境内緑樹と反映し、美觀贅ふべくもない。天然記念物指定。

樹幹根廻り 十六尺
高さ(長さ) 五十八尺
花房長さ 一尺三寸



— 地 生 自 き ば つ —

つばき自生地能登山

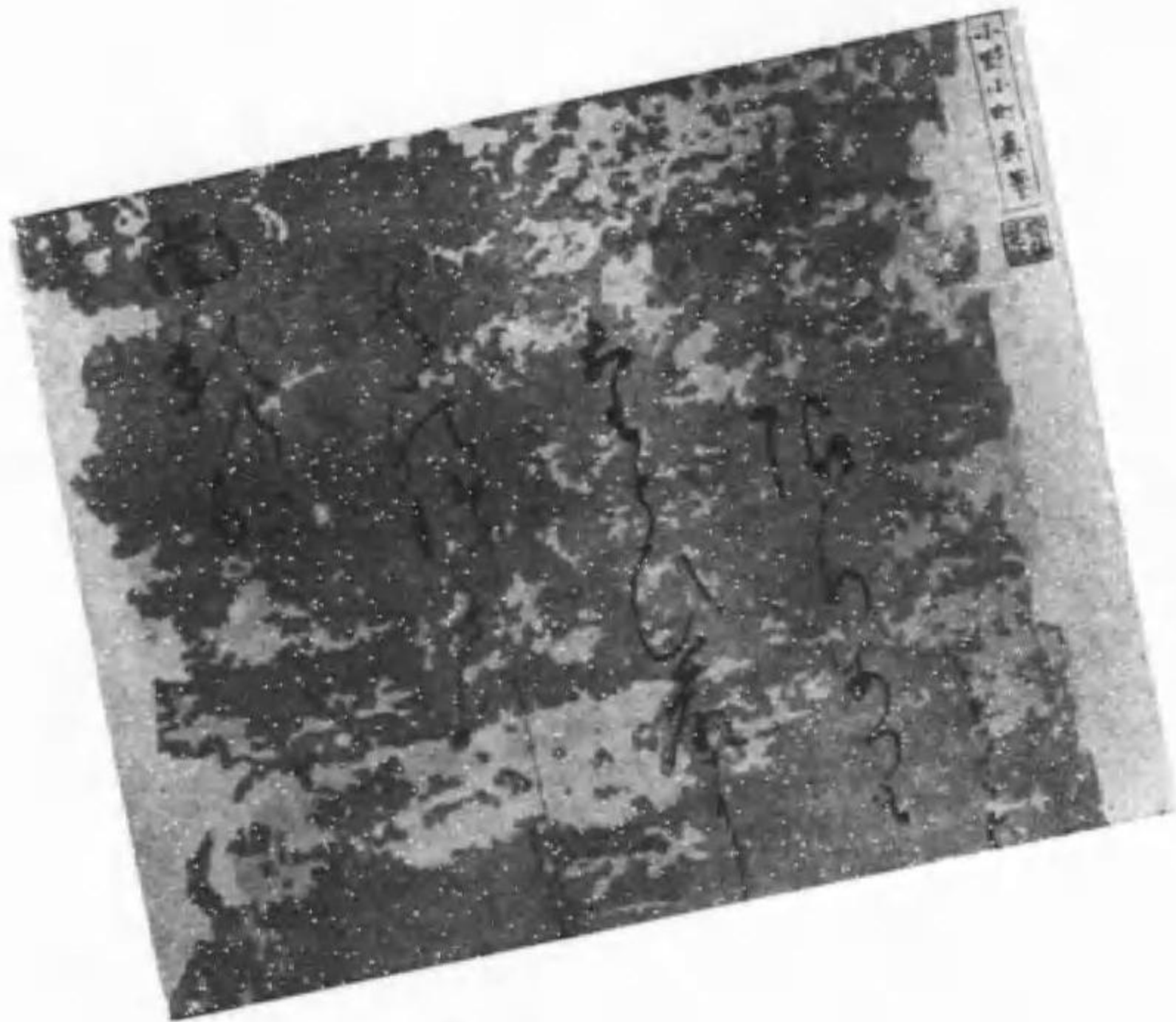


ツバキ自生地

暖かさを好むツバキは、寒地には自生せぬ。本縣南磯村宇樁の村有林(俗稱能登山)地内。ツバキ自生地は、青森縣平内村のツバキの純林と共に、ツバキ自生地北限地帯の代表として有名である。天然記念物指定。春四月の頃ともなれば、海岸に佇立する巨巖に咲くツバキの花は紅雲のかゝると怪まれる。



— 小野小町 —



— 小野小町書 —



— 芍薬塚 —

小野小町誕生地

雄勝郡小野村は、才媛の譽高き小町の誕生地とされてゐる。傳説は傳説を生み、史實の信すべきものが無い。されど世論を知らぬげに、傳説に因む九十九本の芍薬は、連綿として小野村の一地域に、今も可憐の花を匂はせてゐる。遺蹟芍薬塚はこれである。

面影のかはらで

年のつもれかし

たとひ命に

限りありも

わびぬれば

身をうき草の根を絶えて

誘ふ水あらば

いなんとぞ思ふ

名勝地巡る

十和田湖

四時妙へに、眺めも盡きぬ世界的勝地、国立公園十和田は、原始林に圍繞された幽邃の十和田湖と、湖水を水源とする千古の儘なる奥入瀬の溪流と、開闢な八甲田火山群一帯とを含む、秋田、青森兩縣に跨る四萬三千二百五十町歩に亘る高地で、その大部分は落葉樹で蔽はれ、神秘幽玄の十和田湖を中心とし、溪流に躍る樹影、葛温泉一帯に見る老樹の森等何れも天然美の極致である。就中秋田口發荷時からの展望は、一とほ造化の妙が現はれてゐる。四季を通じ遊子を樂ませるが、新緑と、紅葉の候は特に美觀である。

十和田湖 海抜 一、四五〇尺
深さ 一、三三三尺



— 十和田湖 —



— 八幡平 —



八幡平 海抜 五、三二六尺

奥羽高原の名も高く、秋田、岩手の兩縣に跨る八幡平は、茫漠一方里餘の平坦な高原を頂上とする、稀代の神秘境である。頂上一帯は、風雪に抗する幾百年、世にも妙へに、奇しき姿態をした青森トドマツの樹海ハイマツ等に蔽はれ、高山植物も豊かに、可憐なお花も美しく、珍鳥クマガラの生棲地帯でもある。眺望極めて雄大、奥羽の群山連峰、一時に歸し、景趣言ふべからずである。中腹には蒸の湯、藤七をはじめ多くの温泉の外、後生掛、泥火山、地獄谷、湯ノ池等、隨所に自然の驚異が点在し、就中樹木の怪異は奇觀である。



— 島 半 鹿 男 —

松嶋は微笑むが如く、象潟怒むが如く男鹿は怒れるが如し……と芭蕉翁が絶讃した景勝地。日本海の荒波に屹立する一大半島たる男鹿半島は、沿岸一帯に互り神斧に戯巧された奇巖怪峭、透窟飛泉錯在し、狂瀾怒濤の吼え立つ状は、眞に豪快勇壯である。更に配するに鬱々たる老杉に埋もる本山、眞山の風光、寒風山の緑の芝生、其の麓を巡る八郎湖の煙波、漁船の眞帆片帆、北磯、入道崎の眺望、名勝地としての男鹿の價値が、一としほ昂められる。

男鹿半島



— 橋 棧 大 島 半 鹿 男 —



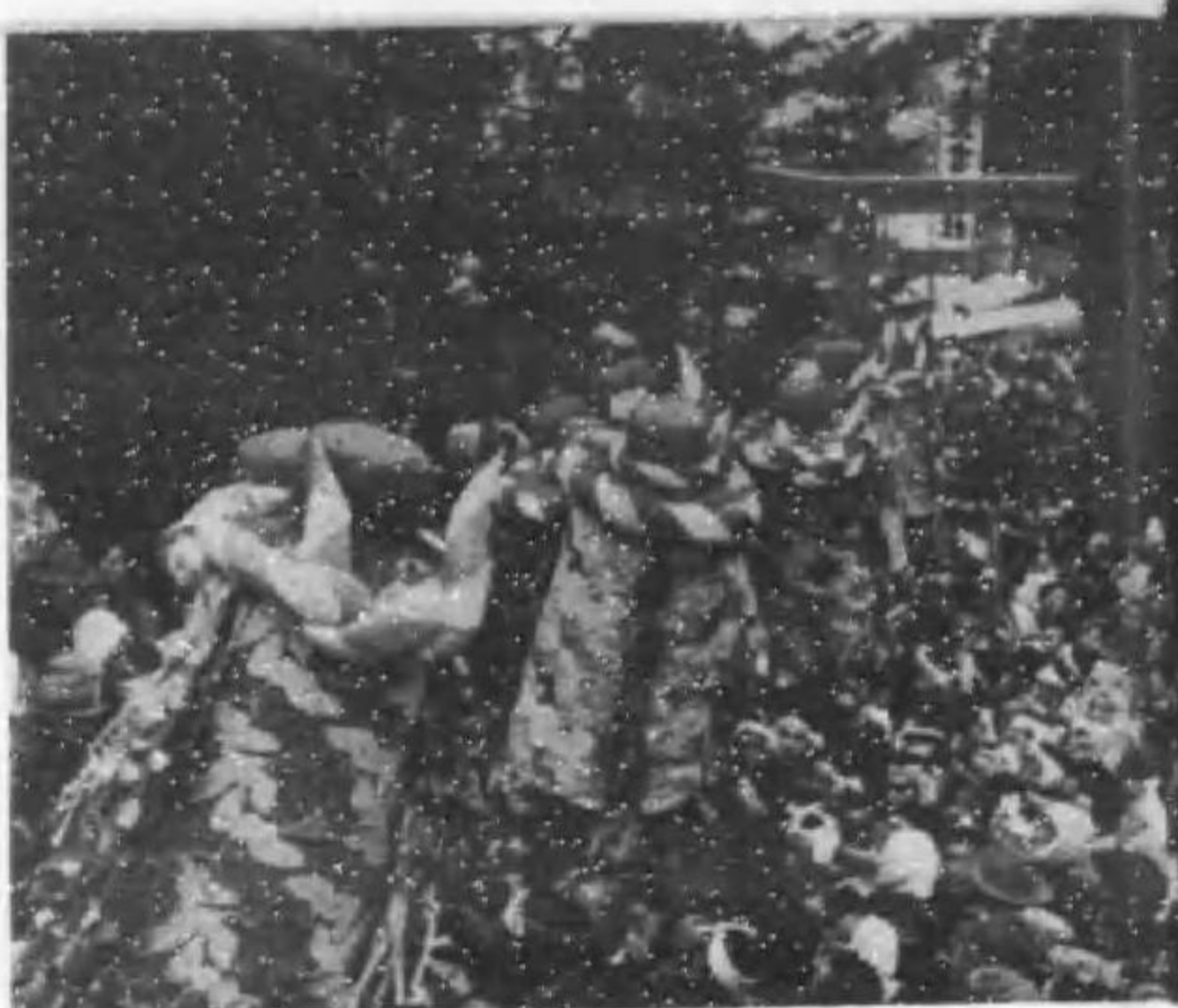
— ナ マ ハ ゲ —

男鹿半島一帯に行はるゝ奇習。陰曆正月十五日夜、村落の若者達が、鬼面を被り、ケラを著、腰にはガラ／＼鳴る小箱を下げ、各戸を巡り、幼童に對し、懲惡勸善の所作を行ひ、珍重されてゐる。

生 剝



— 舟 木 丸 —

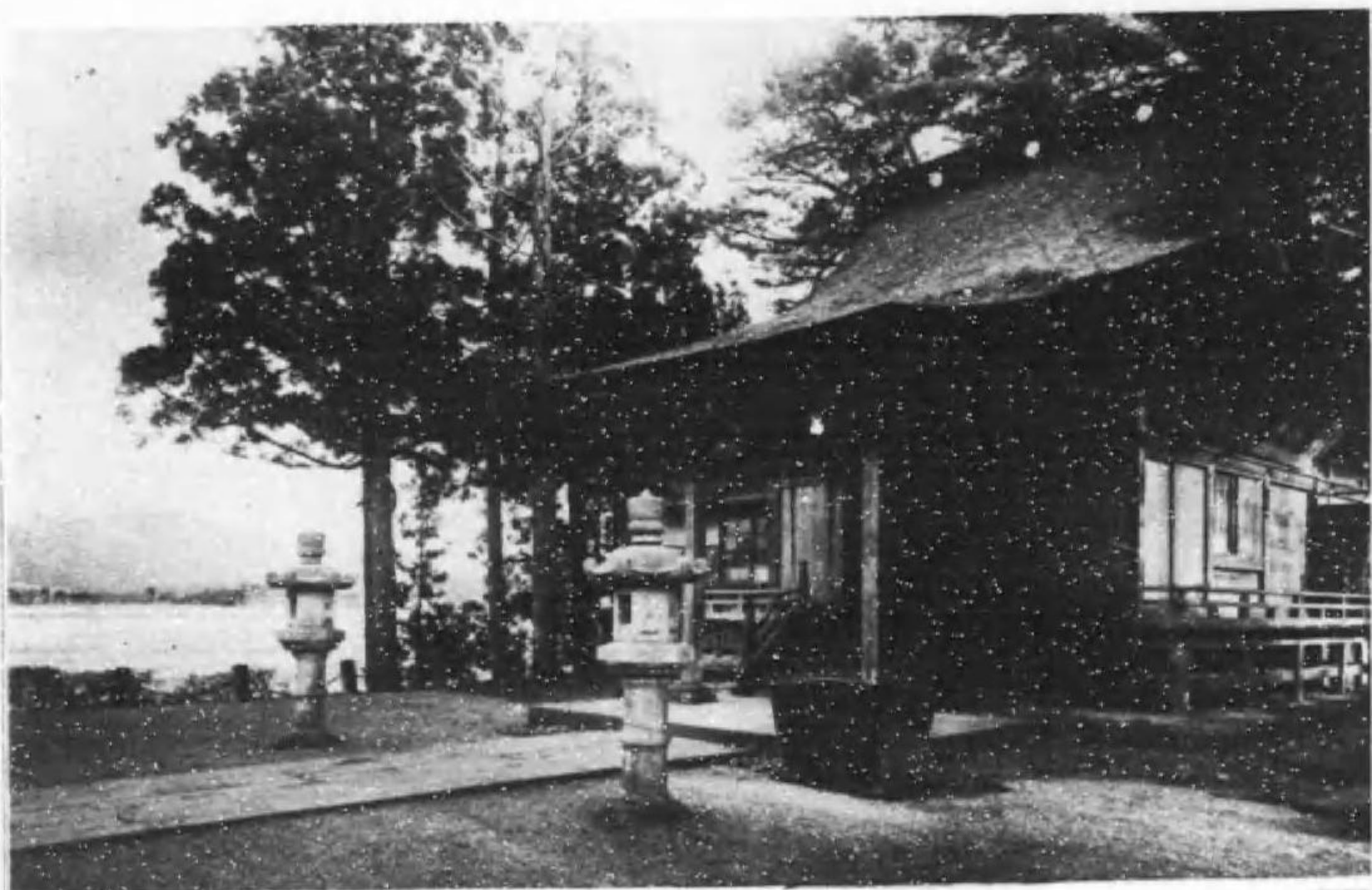


— 天 梵 社 神 吉 三 —

太平山三吉神社

奥殿海拔 三、八六二尺
勝利成功の現神として、縣内外から參詣者の絶ゆること無い、大己貴命、小名彦命、三吉靈神を祀る三吉神社の里宮は、秋田市郊外、赤沼に在る。本祭の陰曆正月十七日に春納する梵天の賑さは、秋田名物の重きをなしてゐる。

奥殿は太平山の頂上で、眺望極めて壯大、日本海遙かに、佐波ヶ島が霞んでゐる。山腹を繞る鬱蒼たる杉老齡林は、所謂仁別國有林で、潤葉樹林と共に美觀そのものである。夏季登山者が夥しい。



— 太 平 山 三 吉 神 社 —

寒 風 山

海拔 一、一七一尺

いともなだらかに、人なつかしい寒風山は、緑りに覆はれた芝生の麗山である。山頂には五箇條の御誓文を彫刻した、高さ十八尺の、誓の御柱が建立されてゐる。此の絶頂から俯瞰する男鹿、八郎湖の風景には、何人も恍惚となす。

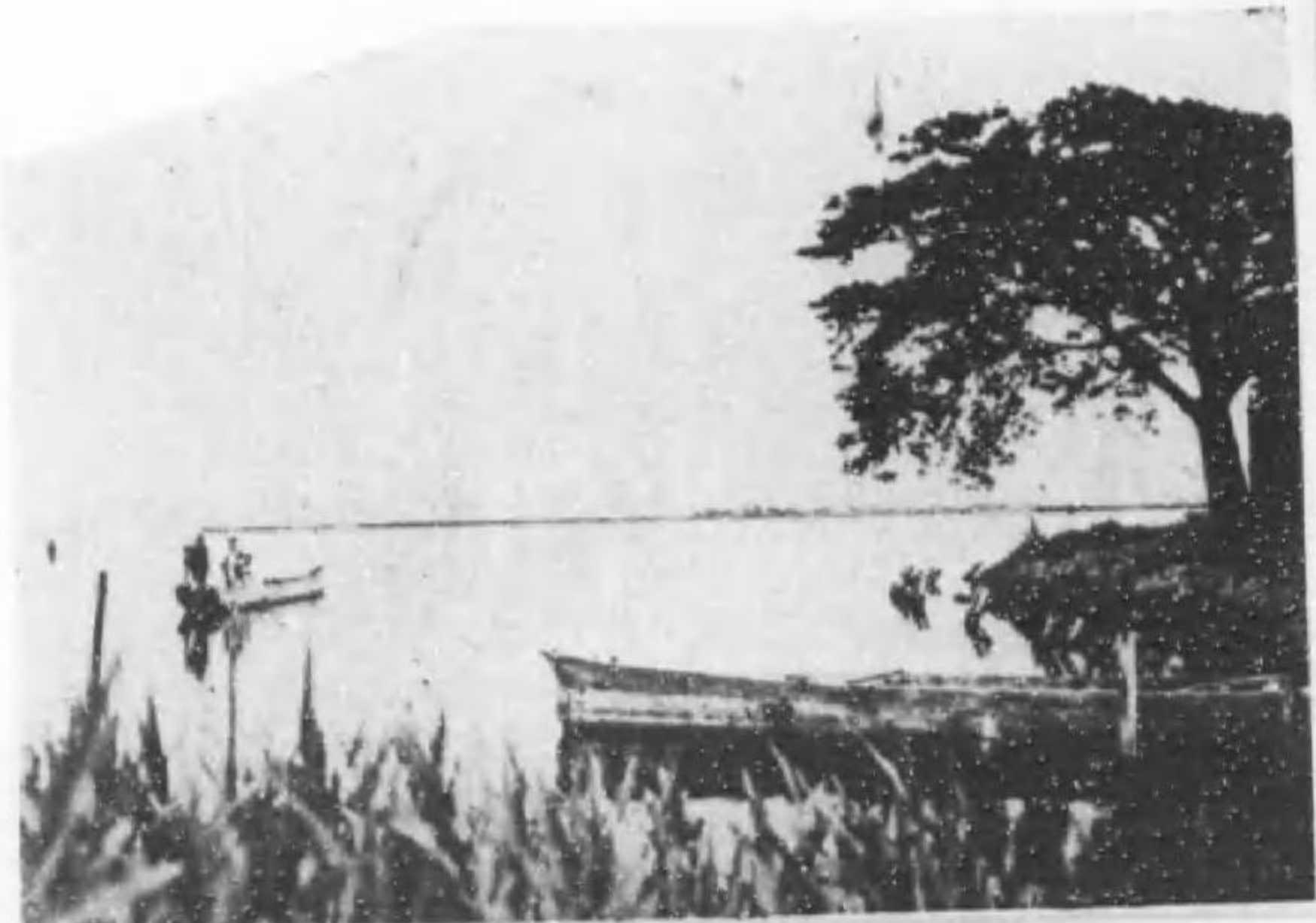
— 山 風 寒 —

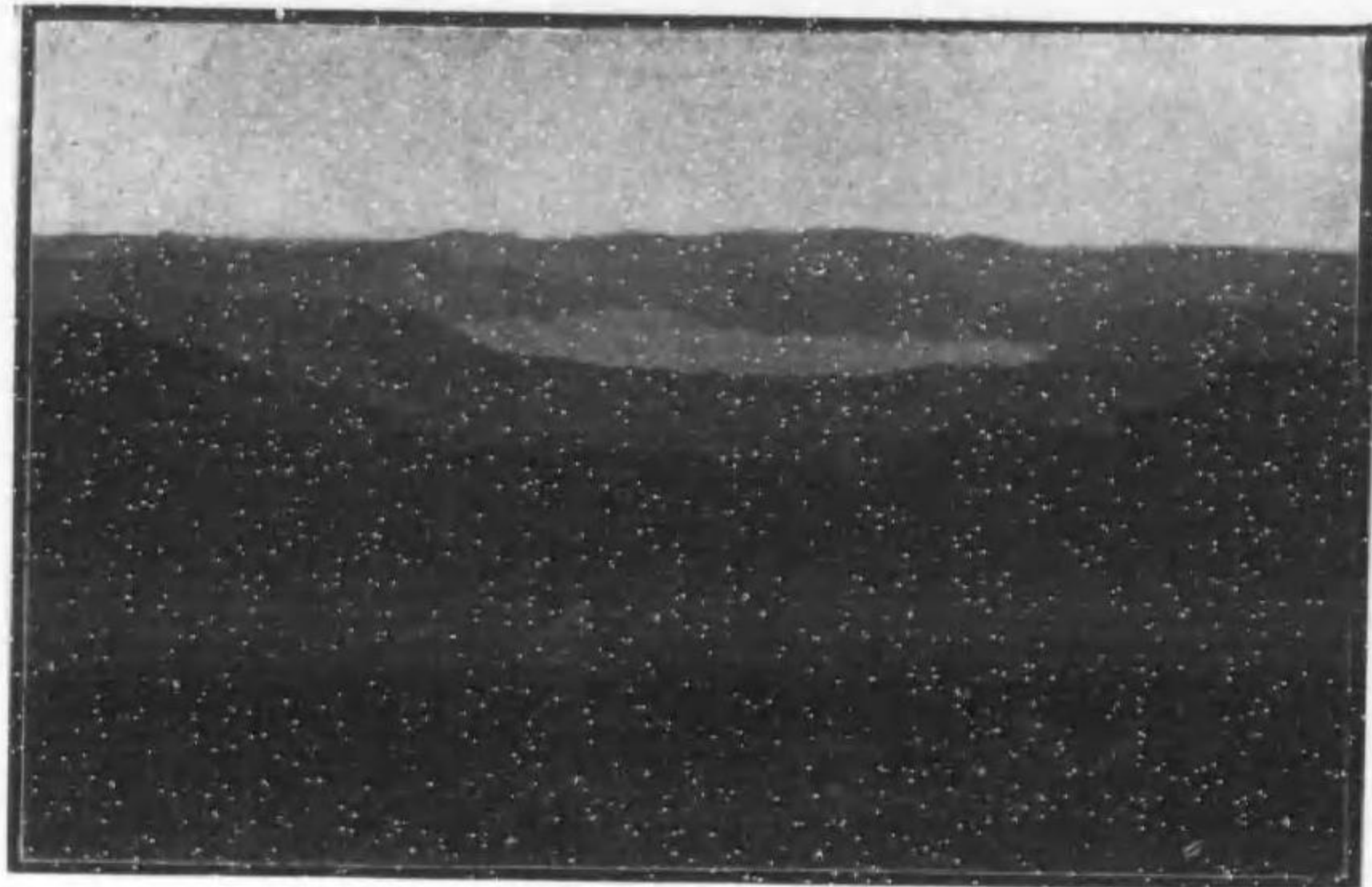


八 郎 瀉

十和甲、田澤の兩湖と繋がる艶なる傳説になまめく八郎瀉は、周回二十里、我國第二の大湖、男鹿半島の關門。湖岸をめぐる町村三十一、漁舟の白帆點々たる間、鷗鷺の飛ぶもなつかしい、明朗快活な風光地。湖岸の佃煮は名産。

— 八 郎 瀉 —





— 駒ヶ岳 —

田澤湖
 奇しくも和やかに、湖水辰子姫の傳説を秘むる田澤湖は、本邦湖沼中第一の深さと、水色、透明度は世界無比を誇つてゐる。山中の瀟洒たる湖水で、淡々明鏡の如き景観は、却つて遊子を慰むるの仙境である。湖水を用水とする東北振興電力會社の發電所は、規模の大を以て有名である。附近一帯は民謡「秋田おばこ」の本場とされてゐる。
 位置……海拔 八二五尺
 周囲……一、四〇五里
 深さ……一、四〇五尺



— 鳥海山 —

鳥海山
 海拔……七、三五九尺
 お山と崇められ、秋田富士に尊ばれてゐる鳥海山は、山姿雄大、白雲去來し、四時雲を戴く奥羽第一の名山。頂上には國幣神社大物忌神社を祀る。秋田矢嶋口の風景が最も壯觀で、登山にも至便とされてゐる。秋田小瀧口には、指定名所の高さ八十六尺、巾三十六尺に及ぶ奈曾の白瀑谷の奇景がある。

……秋田小唄……
 日本海からちと抜け出して
 山は鳥海 秋田富士
 お山晴るれば 氣も晴れる



— 釣 鮎 —

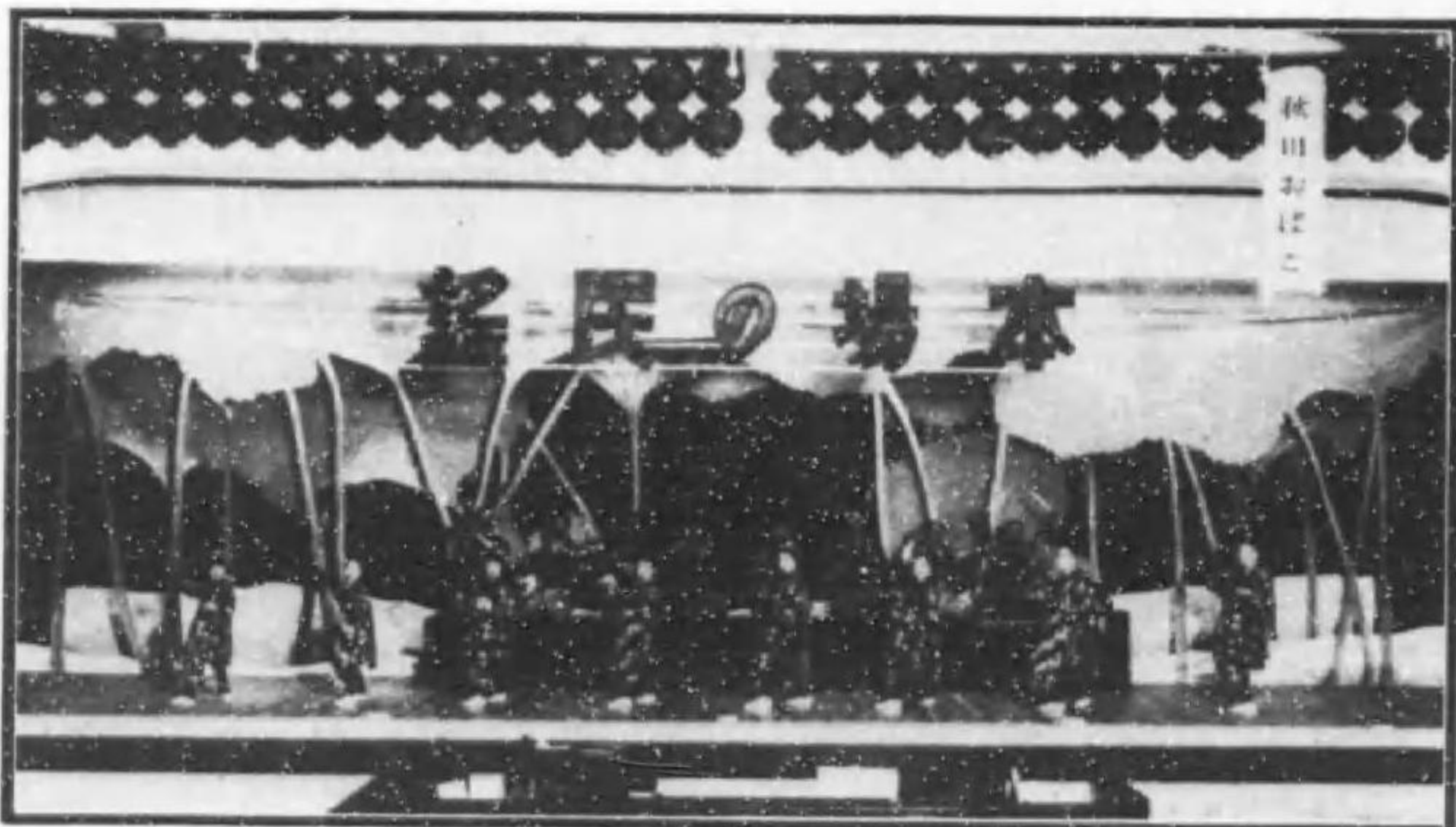
抱返り溪谷
 東北の耶馬溪として推賞されてゐる抱返り溪谷は、玉川の清流を挟む、神代、白岩兩村地内數里の沿岸、山容水態甚だ雅趣に富む。中天に懸る數條の飛瀑は濛々として一しほの景觀を添ゆる。春も可、夏もよし紅葉の交は一層妙。

抱返り溪谷



— 田澤湖 —

駒ヶ岳
 海拔 五、四〇三尺
 奥羽脊梁山脈に君臨し、山容至る處奇勝に富み、頂上一帯ハイマツの群落をなしてゐる。山嶺に立つて俯瞰すれば、群山の間、田澤湖をはじめ、玉川の清流を一眸に集め、景観言ふべくも無い。高山植物に富み、駒草、蟲取草等は天然記念物に指定。



— 節こばお田秋 —

秋田おばこ
 秋田おばこは、數ある秋田俚謡中の代表といつた格である。この唄は、素朴の中に優婉人を魅するものがあり、さながら秋田美人そのもの、如き感じのあるところが特長で、婉々たる山脈の起伏を思はしめる。小玉曉村氏に依り全國に紹介されてゐる。
 乙女何歳になる、この年暮せば、十と七つ、十七おばこなど、何して花コなど、咲かねとは、咲けば實もやなる、日蔭のみみちで、色ばかり。
 おばこ心もち、十五夜のお月様の、まる笑顔少し曇る時、逢ひたさ見たさで、涙雨。



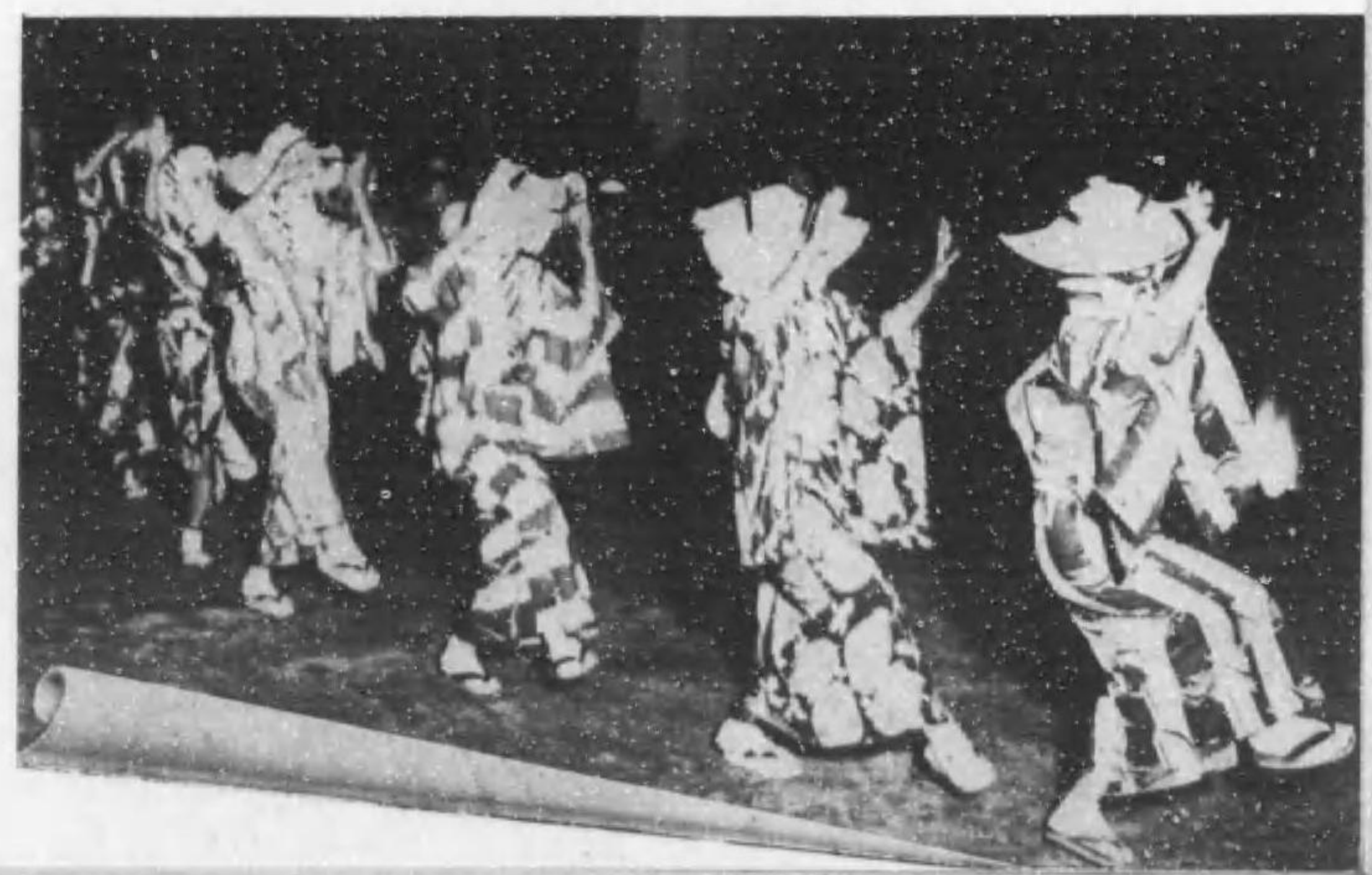
— 園 公 宥 愛 —

湯澤の七夕祭

銘醸地として天下に令名を馳せてゐる湯澤町は、愛宕公園の櫻も有名であるが、この公園内に鎮座の縣社愛宕神社祭典に於ける、古式に依る大名行列は、舊曆七月六、七日兩夜行はるゝ七夕祭と共に名物として聞えてゐる。
 山緒古き七夕祭は、丈餘の青竹に五色の短冊をつけ、意匠とりたゝの繪燈籠を灯し、いと優雅、絢爛眼を奪ふものがある。



— 夕 七 の 澤 湯 —



— 踊 盆 の 内 音 馬 西 —

西馬音内の盆踊

天下の農政學者を生んだ西馬音町は、郷土色豊かな盆踊りも縣内随一とされ其の情緒優美な點は夙に聲望を博してゐる。東部にも公開され、高家の台覽にも供された光榮にも浴してゐる。



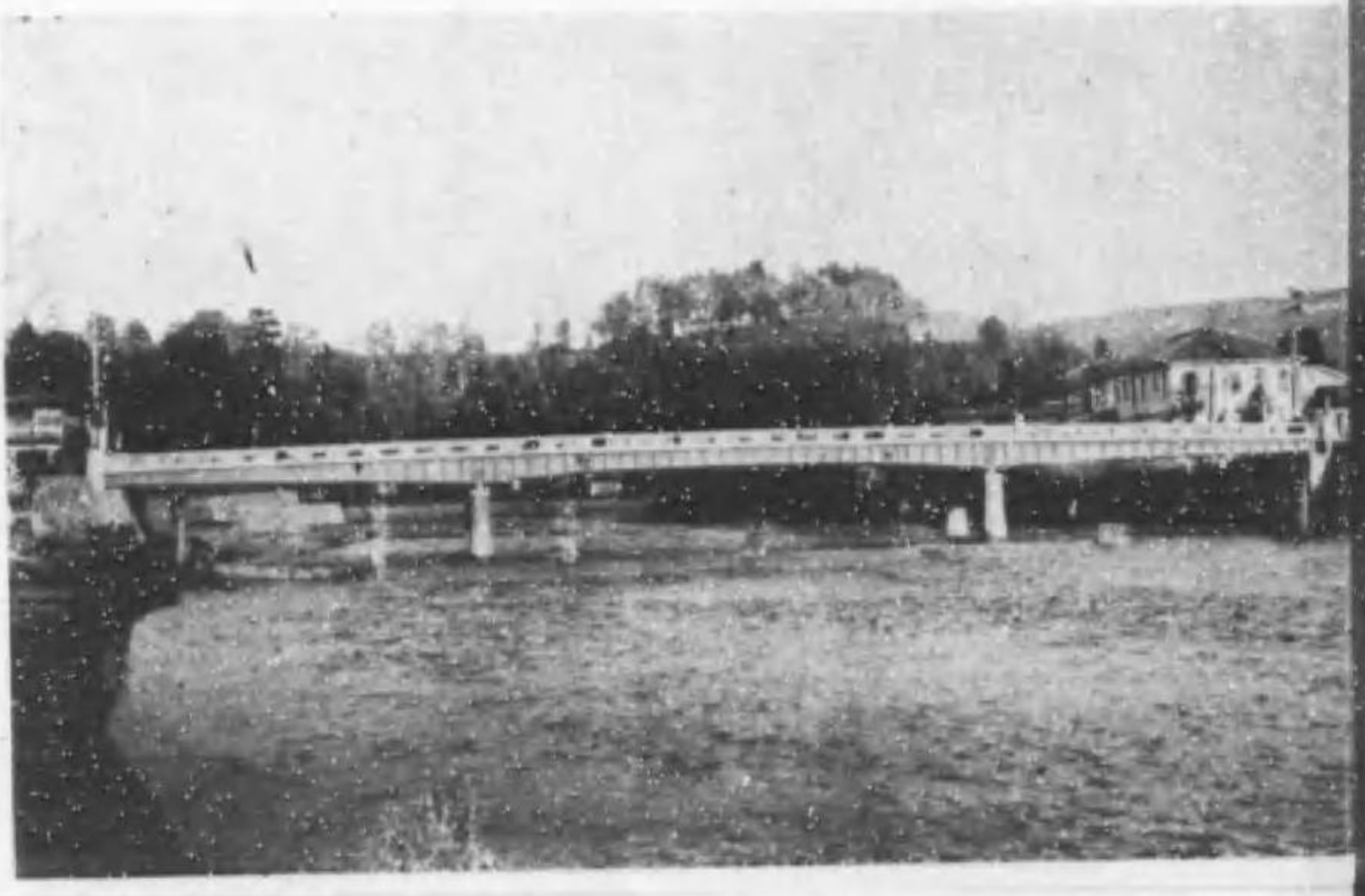
— 船 形 屋 盆 り 送 —

横手の送り盆

横手町名物として全国的に著名な送り盆祭は、遠く享保年間から繼續されてゐる、華やかな年中行事である。舊盆十六日の黄昏から、大角燈、假造船に灯す幾百の蠟燭をかざし、鏡ふ囉しも賑やかに集る蛇の崎橋のほとり、絶えず揚ぐる煙火の五彩も、旭川の清流に映じて、天地の美觀限りなく、數萬の觀衆に初秋の夜は更けて行く。げに三界萬靈の、こよなき供養である。



— 盆 り 送 の 手 横 —



横手蛇の崎橋



— 湯 瀬 温 泉 —



— こ け し —



— 箱 住 温 泉 —

温 泉 郷

溪流のほとり、森の蔭、仙境あり、本縣隨所に恵まれてゐる温泉郷である。設備もよく、規模も大に、交通至便、一躍温泉秋田として、内外からの訪客は夥しい。小川に鳴く河鹿もあはれに、薫風も涼しく、月も冴えて秋満山の紅葉ともなれば、雅趣いよ／＼艶に、スキーの感興いと深く、旅塵を洗ひ、邪念を拂ひ、旅情を慰むる絶好の休養地。温泉郷の一部を擧ぐれば次の如くである。

縣北方面……湯瀬、大湯、大瀧、日景、矢立、玉川、蒸ノ湯
縣南方面……湯ノ澤、稻住、鷹ノ湯、湯ノ岱、皆瀬、黒湯、鳩ノ湯



— 大 湯 の 杉 —



冬のふけの湯

昭和十四年九月二十五日印刷
昭和十四年十月 六 日發行

(非 賣 品)

發 行 所

秋 田 縣 廳 内

社 團 法 人 秋 田 山 林 會

發 行 者

秋 田 縣 廳 林 務 課

武 石 豐 治

印 刷 者

秋 田 市 西 根 小 屋 町 一 五 番 地

岩 田 友 記

印 刷 所

東 京 市 神 田 區 末 廣 町 三 十 八 番 地

東 榮 社

(秋田市 岩田寫眞館納)

寶 汗 湖

發起人 慈 田 山 林 會

光緒三十三年六月廿一日發行
（承 賣 處）

定價	每冊	每本	每冊
洋一元	洋二元	洋三元	洋四元

總發售處 某某書局

終